# 鴻 臚 館 跡 7

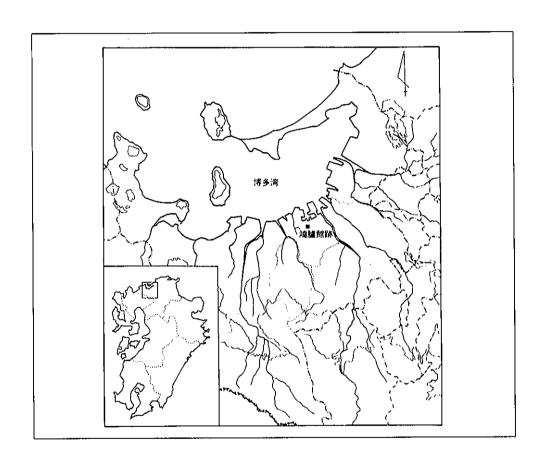
一 鴻臚館跡第 I 期整備報告 一 福岡市埋蔵文化財調査報告書第487集

1996

福岡市教育委員会

# 鴻 臚 館 跡 7

——鴻臚館跡第 I 期整備報告 ——



平成8年

福岡市教育委員会

# 巻頭図版1



(1) 鴻臚館跡周辺景観 (南から)



(2) 鴻臚館跡第Ⅰ期整備地全景(北東から)

# 巻頭図版2



(1) 展示館内建物模型(北東から)



(2) 奈良時代東門・塀・掘立柱建物遺構表示の状況 (北東から)



(3) 平安時代礎石建物遺構表示の状況 (東から)

わが国の古代における外交施設である鴻臚館跡は、昭和62年末に、福岡市中央区の 国史跡福岡城跡内にある平和台野球場外野席スタンドの改修工事の際に発見されました。昭和初期に故中山平次郎博士が当該地に推定されて以来、実に60年を経て、私たちの目の前にその姿の一端を現した鴻臚館跡からは、多量の中国産陶磁器をはじめとする国際色豊かな遺物が出土し、往時のアジア外交を髣髴とさせました。さらに華麗な軒先瓦や瓦塼は迎賓館としての「鴻臚館」の姿を浮かび上がらせました。

この鴻臚館発見のニュースは、マスコミに大きく報道され、市民の皆様の関心を高め、いわゆる鴻臚館ブームを呼び起こすこととなりました。本市はその当時、市制百周年を迎えアジア太平洋博覧会の準備中でもありましたが、鴻臚館の発見はまさに「海に開かれた活力あるアジアの拠点都市」づくりをめざす本市の歴史的原点の再認識につながるものでした。

本市では、昭和63年度に鴻臚館跡を包含する国史跡福岡城跡を本市のセントラルパークとして整備するにあたって「郷鶴城址将来構想委員会」を設置するとともに、学術的に非常に貴重な鴻臚館跡の全容解明を図るために、鴻臚館跡調査研究指導委員会を設置しました。その御指導の下で、発掘調査と関連資料の収集等を現在推進しております。

鴻臚館跡の発掘調査とともに、鴻臚館跡展示館において、関連遺構の露出展示と調査成果の一部を公開してきました。しかしながら、展示館は本来アジア太平洋博覧会の仮設のミニパビリオンとして建てられたために老朽化が進んでいることに加え、最新の調査成果を盛り込んだ展示の見直しが必要となりました。

これにより本市では、平成5年度から7年度にかけて、平和台野球場南側(旧テニスコート)一帯を対象に、鴻臚館跡について市民の皆様が楽しく実感しながら学べるように、展示館の新築、原寸大復元建物模型の設置、展示館外における筑紫館から鴻鵬館までの建物跡の遺構表示を3本の柱とする遺跡整備を実施しました。

鴻臚館跡の本格的整備は、市民各層のご意見を拝聴しながら、また遺跡の重要性に 鑑みて慎重に進める必要があります。したがって整備完了までには相当の時間を要す ると考えられることから、今回の第 I 期整備は当面の仮整備として実施したものです。 本書は、この鴻臚館跡第 I 期整備事業の報告書です。本報告書が埋蔵文化財の御理 解と御認識の一助となれば幸いであります。

最後になりましたが、整備計画の策定から実施、および本報告書の作成にいたるまで、ご理解、御協力頂いた大蔵省福岡財務支局、福岡市都市整備局、温かくご指導いただいた鴻臚館跡調査研究指導委員会委員の各先生方、文化庁、福岡県教育庁の皆様、また整備工事にあたりご協力をいただいた関係業者方には深甚なる謝意を表します。

平成8年3月15日

福岡市教育委員会

教育長 尾 花 剛

# 例 言

- 1. 本書は、平成5年度から7年度にかけて実施した鴻臚館跡第1期整備事業の報告書である。
- 2. 本書の作成にあたっては、昭和62年度から平成6年度にかけて実施した鴻臚館跡発掘調査関係記録資料のほか、

舞鶴城址将米構想委員会編「舞鶴城址将米構想(中間とりまとめ)」1991

- (株)志佐建築研究室編「鴻臚館跡展示館新築工事設計図」1994
- (財)九州環境管理協会編「鴻臚館跡覆屋外第 I 期整備設計委託業務報告書」1994
- (株)京都科学編「鴻臚館跡礎石建物原寸大模型設計業務」1995

に掲載のデーター・挿図・記録写真の一部を用いるとともに、平成4年度第1回~平成7年度第1回までの鴻臚館跡調査研究指導委員会で使用した図面および協議資料等を用いた。

- 3. 本背で用いた地図は、図 2 に国土地理院発行五万分の 1 地形図 (NI-52-10-11/福岡11号)「福岡」を、図 3 に福岡市都市計画図NO60・61・71・72を使用した。
- 4. 本帯で用いた方位は、平面直角座標系第11座標系であり、磁北方位は西偏 6°40′である。
- 5. 遺構は通し番号をつけた後、遺構の性格を表記したアルファベットを番号の前に付した。 遺構番号等については平成4年度までの調査時のままである。

棚列・塀;SA○○、

非戸 ; S E O O、

建物跡 ; S B ○○、

堀 ;SG○○、

溝状遺構;SD○○、

性格不明の土壙・竪穴;SK○○またはSX○○

6、本書の執筆分担は、以下のとおりである。下記以外については田中蓉夫が担当した。

なお、V 結語については、各分担者が持ち寄った問題点と課題について協議した結果を田中が総括した。

III-3(4);福原正夫、瀧本正志

III-3(6);瀧本正志

III-3(7);松本伸三郎、瀧本正志

IV-2 ; 福原正夫

IV-5 ; 松本伸三郎

- 7. 編集は上記各分担者の助言を得ながら田中が担当した。
- 8. 編集に際しては、整理調査員 宮園登美枝、整理作業員 寺村チカ子、山口玲子、堀一恵、金石邦子、 真鍋晶子、藤戸紀子、早川旻代の補助を受けた。

# 鴻臚館跡第Ⅰ期整備報告

# 本文目次

Ι	序 説	1
	7. 鴻臚館跡の位置と概要	·· 1
	(1) 遺跡の位置と立地	1
	(2) 歴史的環境	2
	(3) 鴻臚館の概要	
	2. これまでの調査の経過と成果	4
	(1) 鴻臚館跡の調査・研究の経過	4
	(2) 平成6年度までの調査経過と成果	7
II	鴻臚館跡整備計画	9
	1. 舞鶴城址将来構想について	9
	2. 鴻臚館跡整備全体計画	…10
	(1) 全体計画	…10
	(2) 第 I 期整備の位置づけ	…10
Ш	第 I 期整備計画······	…12
	1. 第 I 期整備の組織と構成	…12
	(1) 鴻臚館跡調査研究指導委員会の構成	…12
	(2) 平成5・6年度の体制	…12
	(3) 平成7年度の体制	···12
	2. 第Ⅰ期整備計画策定の経過	···13
	(1) 整備発案および構想の段階	···13
	(2) 基本計画および実施設計の段階	13
	3. 第 I 期整備計画の内容······	$\cdots 14$
	(1) 計画の概要	
	(2) 整備事業費	15
	(3) 全体計画	…16
	(4) 展示館建替計画	19
	(5) 展示計画	26
	(6) 建物模型製作計画	28
	(7) 館外遺構整備計画	34
IV	整備工事	···40
	1. 工事の全体概要······	···40
	(1) 整備工事における法的な制約	40
	(2) 整備工事における遺構保存のための条件設定	40
	(3) 工事概要と工程	
	2. 展示館建設工事	42
	3. 展示製作および照明工事	46
	4. 建物模型製作	48
	5. 館外遺構整備工事	
3.7	st: 3五	53

# 挿 図 目 次

图 1	福岡城絵図1	図58	立会調査風景 (北から)40
図 2	鴻臚館跡と周辺の遺跡 3	⊠59	着工前旧展示館内状況(東から)41
⊠ 3	福岡城跡地内発掘調査地点位置図 5	図60	展示館新築工事起工式(業者主催)41
<b> </b>   4	第 I 期東門と塀の検出状況 7	図61	遺構養生状況42
፮  5	第II 期據立柱建物検出状況 7	図62	遺構養生状況······42 旧展示館解体状況·····42
<b>№</b> 6	第III期礎石建物検出状況 (展示館内部分) ··· 7	図63	新展示館基礎配筋状況42
図 7	第III期府邱または回廊検出状況 8	図64	柱組立終了42
2 8	第IV期土搬內邀物出土状況 8	図65	屋根トラス組立終了42
以 9	第 I 期トイレ 遺構出土木簡 (1/4) ······ 8		上
	A   1   A   1   A   A   A   A   A   A	図66   図67	トラス文本部以り下げ状况43
<b>№</b> 110	鴻臚館跡出土中国産陶磁器・・・・・・・8	図67	トラス組立状況43
図11	舞鶴城址将来短期計画図9	図68	屋根トラスおよび柱内部43
图12	舞鶴城址将来構想イメーシ図11	図69	飾り棟取り付け作業43
図13	指導委員会審議風景13	図70	屋根、下り棟、軒先巴43
図14	整備尚現況(北東から)16	図71	二重軒先のようす43
图15	整備前現況と周辺(北西から)16	図72	ガラリ取り付け状況44
图16。	郷鶴公園(福岡城跡)内利用者動線図17	図73	展示館受付および入口44
图17	動線概念図17	図74	館内南側階段施工状況44
図18	整備地内における動線およびゾーニング計画18	図75	階段完成状況44
図19	旧展示館19	図76	完成した展示館 (正面)45
X 20	新旧展示館平面形比較図20	図77	完成した展示館 (正面)45 建物模型と屋根トラス45
図21	展示館建設外觀案比較図 … 21	図78	完成した展示館と遺構整備(南東から)45
図22	寄棋B案模型21	図79	展示ボード製作風景46
以 23	设计当初案······22		テーマカラー······46
	设计	図80	
≥24	以町取終系 22	図81	コーナーサイン46
¥ 25	展示館基礎構造断面図23	図82	「鴻臚館の精華」コーナー46
图26	处物構造図23	図83	館外サイン46
图27	消防設備配置略図24	図84	ライティングレール取付状況断面図47
图28	鴻臚館跡展示館正面および側面立面図折り込み	図85	「鴻臚館の精弾」コーナー展示状況47
X 29	展示館ゾーニングおよび動線概念図26	<b>₿</b>  86	館内展示状況47
<b>⊠</b> 130	展示館展示平面および立面図27	<b>≱</b>  87	基壇部整地状況48
<b>⊠</b>  31	旧展示館内遺構展示状況28	⊠ 88	基礎鉄骨取付状況48
<b> </b> 32	鴻臚館想像復元図 (澤村仁氏作図)28	図89	基礎工事基壇面整地48
≥ 33	处物復元対象範囲28	図90	瓦レプリカ製作のようす48
ß 34	復元建物イメージ図 (紫案)28	図91	舟肘木の製作のようす49
図35	復元想定平面および東面立面図29	図92	仮組作業風景49
136	姓築表現の変更対比図29	図93	組立作業開始49
⊠130	復元建物イメージ図(実施案)29	図94	型型1F来開始 虹梁までの組立終了49
区 図38	建物模型所用杆瓦30		
	基理断面図30	図95	屋根の組立, 瓦葺き作業49
⊠39	THE STATE OF THE S	図96	展示館正面入口の作業風景50
⊠40	基礎構造平面および柱脚部分断面図31	図97	展示館正面入口の作業風景50
図41	建物模型基礎部分詳細図31	⊠98	北東部入口踊り場粒石舗装作業50
図42	建物復元案部分平面・断面・部分立面図32	図99	第 I 期東門跡周辺の作業風景50
図43	建物模型平面・断面および東西側壁立面図 折り込み		管理用道路周辺の作業風景50
図44	扉立面および断面図33		展示館東側の舗装作業風景50
<b>×</b> 145	背面昴閂平面および断面図33		公園東側 (奈良時代の面) の芝張り作業51
图46	<b>逃構整備イメージ図(素案)34</b>	図103	地被類植え込み作業51
图47	整備A案イメージ図35		パイプ棚取付作業51
図48	整備B案イメージ図35		皿形側溝据付作業51
図49	整備C案イメージ図35		排水ビニール管の付設作業51
図50	噴水使用例35		透水管付設作業
図51	整備実施計画イメージ図36		第 I 期真砂土舗装作業······52
図52	第 I 期塀の噴水による表示イメージ図36		第 I 期塀の柱・軸木据付作業52
図52 図53	第 I 期東門・塀の噴水と立柱による		
<b>四199</b>	表示イメージ図36		第 II 期建物柱穴表示木レンガ埋込作業52
1551 C 4	数1 物数件 ノーン図 (母を奉) 27		第Ⅱ期真砂土舗装作業52
図54 図55	第 Ⅰ 期整備イメージ図(実施案)37		第三三章
図55	第 I 期整備実施計画概要平面図37		第Ⅲ期建物基壇の縁石据付作業52
図56	第Ⅰ期整備実施計画平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	図114	見学風景53
図57	第 I 期整備実施計画部分詳細図折り込み		

# 図版目次

巻頭図版 1	(1)	鴻臚館跡周辺景観(南から)
	(2)	鴻臚館跡第Ⅰ期整備地全景(北東から)
巻頭図版 2	(1)	展示館内建物模型(北東から)
	(9)	本自時代重明、握、提立は建物と機能手の生

- (2) 奈良時代東門・塀・掘立柱建物遺構表示の状況 (北東から)
- (3) 平安時代礎石建物遺構表示の状況 (東から)

# 表 目 次

接 1	福岡城跡調査一覧 6	表15	新旧展示館展示面積比較表	••••26
表 2	鴻臚館跡整備方針(第I期・第II 期整備)区分10	表16	主要部材重量比較表	30
表 3	鴻臚館跡調査整備事業中期計画表11	表17	建物模型製作部材一覧	33
表 4	各整備項目実施経過概要表13	表18	整備A案概要表	35
表 5	第 I 期整備の概要14	表19	整備B案概要表	35
表 6	鴻臚館跡第Ⅰ期整備事業費当初予算および財源内訳 …15	奖20	整備C案概要表	35
表 7	旧展示館入館者数年度別動向16	表21	整備实施計画案概要	36
<b>张 8</b>	調査日別利用者数(昭和63年)16	长22	噴水による遺構表示の検討過程図表	36
表 9	推定年間利用者数(昭和63年)16	表23	第 I 期整備施設概要表	39
表10	印展示館建物概要19	表24	第 1 期整備工事全体工程表	41
表11	新展示館建築案対比表19	表25	トラス部品数量表	43
表12	使用色一覧24	表26	館内照度状況一覧表	47
表13	消防用設備······24	表27	第Ⅰ期整備の問題点と課題	54
表14	展示館建築概要25			

# 付図目次

付図 第1 期整備対象地における遺構分布全体図(昭和62年度から平成 6 年度調査)

# I 序 説

# 1. 鴻臚館跡の位置と概要

#### (1) 遺跡の位置と立地

博多湾岸には西方から糸島平野、今宿平野、早良平野、福岡平野、粕屋平野などの大小の沖積平野が分布している。筑紫館・鴻臚館は、この福岡平野と早良平野を分断しながら博多湾へ向かってほぼ真北に伸びる平尾丘陵から派生した小丘陵先端部に立地している。この地点は博多湾をめぐる海岸線のほば中央に突き出した小高い丘陵となっており、博多湾岸を一望できる絶好の地点を占めている。また博多湾内からこの地を臨むと志賀島、能古島を左右に見ながら航路上の一道標として現在の西公園(旧荒津)とともに非常に目立つ岬状の景観を呈している。

この地点は、福岡城築城以前は福崎と呼ばれていたところで、福岡藩初代藩主黒田長政が慶長6 (1601) 年から7年の月日をかけて築造した福岡城が占地している。福岡城跡については昭和32年8 月29日に国史跡に指定された。現在の行政地番では福岡市中央区城内1地内である。

策紫館・鴻臚館創建期の旧地形は、現在ではほとんどうかがい知ることはできない。現景観は福岡城および城下町をベースとしているからである。福岡城築城に際しての当該地の地形については、貝原益軒『筑前国続風土記』によると、「城の西の方、むかしは福崎の汀まで入海有りて、広き潮入の斥地」で、「城の北の方町ある所、又乾の方荒戸、諸士の屋敷なと、むかしは入海の潟也」と記し、また「城の南方は、赤坂山より本丸の山につつきて、要害のためあしかりしかは、山をほり切りて隍とし、隍の南の山をならして平らにす」と伝えている。現在の天神方面についての記述はみられない。これまでの発掘調査、およびボーリング調査成果を加味し、福岡城の築城にあたっての造成工事についてみてみると、基本的には筑紫館・鴻臚館の造成を大きく踏襲しながら、その大部分が盛上によってなされたと考えられ、周辺の景観についてもほぼこの貝原益軒の伝聞に近いといえる。

筑紫館から鴻臚館の時代の景観については、博多湾岸に沿って鎌倉時代に築かれた元寇防塁および 海岸線の推定復元を基準にし、下山正一氏や磯望氏らによる博多湾岸汀線変化の分析の成果に依りながら、ボーリング資料を参考に現在その推定復元を行っているところであるが、当該地は江戸期に叙述された状況以上に、博多湾に突き出しながら島状に浮かぶ小高な岬であったことが想定できる。

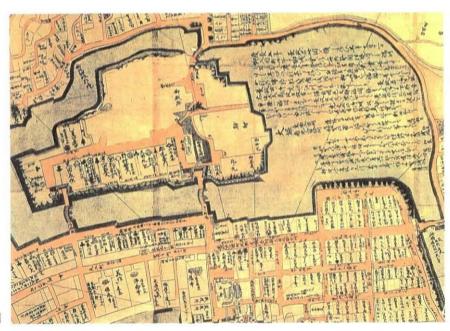


図1 福岡城絵図

## (2) 歷史的環境

北部九州はその地理的特性から大陸との文化的交流を物語る遺跡が広く分布している。特に博多湾岸の各平野には、古代の遺跡が非常に高い密度で分布していることは周知の事実である。

ここでは筑紫館と鴻臚館が存続した古代に限って湾岸周辺の関連遺跡を概観したい。

当該地点より直線距離にして約12.3km南東方向に水城跡が、さらに水城から東方に2.5kmには大宰 府政庁跡、大野城跡がある。大宰府では政庁跡を中心に官衙遺構や水城跡の調査が進められており、 古代都市としての大宰府条坊制の広がりや条坊内における官衙や官人各層の建物群やその構成の一端 が明らかにされつつある。また最近の水城跡周辺の発掘調査で水城西門を発する直線的道路が部分的 に確かめられており、鴻臚館と大宰府を結ぶ官道とされているが、福岡市域内では未確認である。

大宰府が職革する官衙関連の遺跡として、海の中道遺跡がある。博多湾北縁に東西に伸びる砂州上に形成された遺跡で、鴻臚館跡とは海を挟んで対峙している。製塩土器や漁労具、石帯、皇朝十二銭などが出土しており、東区三苫遺跡とともに厨戸396の一つと考えられている。また主船司に関連する遺跡として西区徳永遺跡があり、越州窯系青磁、長沙窯系水注などの輸入陶磁器が出土している。郷家、駅家等の何らかの官衙遺跡と考えられるものに東区の多々良込田遺跡、博多区博多遺跡群内の奈良期の遺構群、南区の柏原遺跡、西区下山門遺跡、橋本榎田遺跡などがある。

このように、博多湾沿岸部には筑紫館・鴻臚館と何らかの関連性を物語る遺跡が散見できるが、鴻 臚館跡の全容解明は、大宰府も含めて、これらの遺跡も視野に置きながら進める必要があることはい うまでもない。

#### (3) 鴻臚館の概要

鴻臚館は、わが国の古代律令制下で、「蕃客辞見、讌饗送迎」を職事する治部省玄蕃寮の所管下に ある館舎である。史料では平安京、難波、筑紫の3ケ所に置かれたことが知られている。前二者が玄 蕃寮直轄だったのに対して、筑紫の鴻臚館は大宰府の管理下にあった。

鴻臚館が史料上初めて現われるのは、「日本紀略」弘仁元年(810)四月朔条"饗渤海使高南容等於鴻臚館"である。ただしこの記事の鴻臚館は、平安京もしくは難波の客館を指す。筑紫の鴻臚館は、慈覚大師圓仁の「入唐求法巡礼行記」承和14(847)9月18日条に記載された「到鴻臚館前」をもって初見とする。また通例、鴻臚館の最後の記事は寛治5年(1091)8月、「於鴻臚館、以大宋商客季居簡模本、或比校之・・・」とされる。

鴻臚館の名称は弘仁年間に中国唐代の「鴻臚寺」に習い、それまでの難波館および筑紫館を鴻臚館に改称したと考えられている。筑紫館の初見は持統天皇2年(688)であるので、史料上では、前身の筑紫館の時代も含めて7世紀後半から11世紀末までの約400年間にわたって、筑紫の鴻臚館はわが国の外交施設として機能したといえる。筑紫の鴻臚館が長期にわたって存続したのは、亀井明徳氏が指摘するように、「諸蕃通交の関門であり、外国使節受け入れの唯一の窓口」であったからに他ならない。4この間における鴻臚館の機能およびその質的な変化については、森克己博士、亀井氏、平野邦雄氏らの研究がある。詳細はそれらに譲るが、概ね、9世紀前半、承和年間を境に、律令制度の弛緩とともに、それまでの公的外交施設から私的商取引の場へと変質していったことが指摘されている。

#### (注)

- 1. 中山平次郎「博多湾の海岸線」地球 3 1 1925 (『古代の博多』1984に補訂掲載)
- 2. 柳田純孝 「元寇防塁と博多湾の地形」『古代の博多』 九州大学出版会

1984

- 3. 下山正一他「福岡市鳥飼低地の海成第四系と更新世後期以降の地形形成過程」『地球惑星科学』第17巻第1号 1991
- 4. 亀井明徳「大宰府鴻臚館の実像ー構造と遺跡の再検討ー」古文化談義第1号

1974 1975

5. 森 克己『新訂日宋貿易の研究』6. 平野邦雄「鴻臚館の成立」

国書刊行会 古代文化42

1990

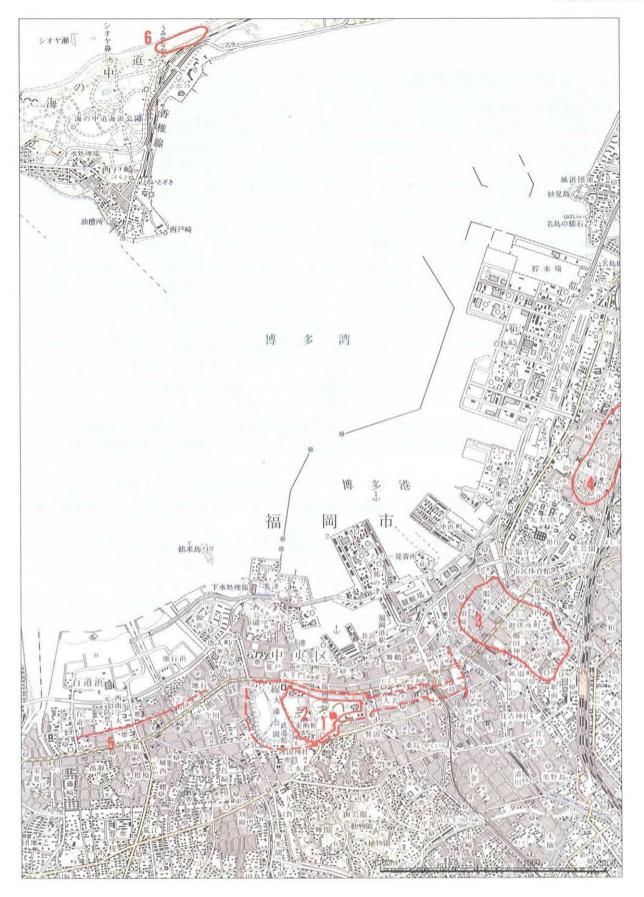


図2 鴻臚館跡と周辺の遺跡

- 1. 鴻臚館跡
- 4. 箱崎遺跡跡
- 2. 福岡城跡(国指定史跡) 5. 元寇防塁跡(国指定史跡)
- 3. 博多遺跡群
- 6. 海の中道遺跡

# 2. これまでの調査の経過と成果

## (1) 鴻臚館跡の調査・研究の経過

鴻臚館跡は、昭和62年末の平和台野球場外野席スタンドの改修工事の際に発見、確認された。鴻臚館跡の所在地についてはすでに昭和初期に故中山平次郎博士によって福岡城跡内の平和台野球場南側を中心とした範囲に推定されていたが、遺構・遺物が発掘調査によって明確に確認されたのはこの時が初めてである。ここではまず昭和62年末までの鴻臚館跡の調査研究史を概観し、次に平成6年度までの調査経過と成果についてみて行く。

鴻臚館の所在は、江戸時代から明治を通して、博多の官内町(現中呉服町)あたりと考えられていた。 黒田藩の儒学者冑柳種信は、「鴻臚館の在りし所は今の官内町と云所なり」とし、また長野種正は「博多鴻臚館考」で「此館址博多の内何処にありしと云うは詳ならざれど、もしくは今竪町と云う是館町の遺名ならんか・・または官内町・・」と推定した。いわゆる鴻臚館博多官内町説である。これに対して中山平次郎博士は、天平8年(736)の遺新羅使の「遥かに本郷を望み、懐愴みて作れる歌」が詠われた場所、貞観11年(869)の新羅海賊船博多湾侵入事件後に鴻臚館に付設された「博多警固所」の所在、11世紀はじめの刀伊入寇事件における警固所の記事等から福岡城跡内に鴻臚館の存在を想定した。さらに旧陸軍歩兵24連隊兵営内において、古代の瓦や陶磁器が大量に出土する事実を確認し、当時置かれていた弾薬庫周辺にその位置を推定した。この福岡城内説によって、それまでの博多官内町説が見直されることとなった。大正15年(1926)のことである。

昭和22年~34年に、福岡城内ではスポーツ関連施設の建設工事が行われ、特に平和台野球場の建設 は遺跡保存の上で致命的な影響を及ぼした。調査がなされないままに貴重な遺構と遺物の多くが消滅 したことは惜しまれる。

昭和26年に九州文化総合研究所が調査主体となり、平和台野球場南側の一画を調査し、礎石と雨落 ち溝を確認している (鴻臚館跡第1次調査)。調査責任者である鏡山猛教授はこれらの遺構は、警固 所の一部と考えていたと聞く。

昭和28年には、小山富士夫氏によってそれまでの大量の表採資料中に越州窯系青磁が含まれていることが確認され、鴻臚館跡の可能性をより高めた。また高野孤鹿氏が採集した「小蔣」銘石製硯は、9世紀半ば以降活躍した中国の商人たちの活動を間接的に知る資料として貴重である。

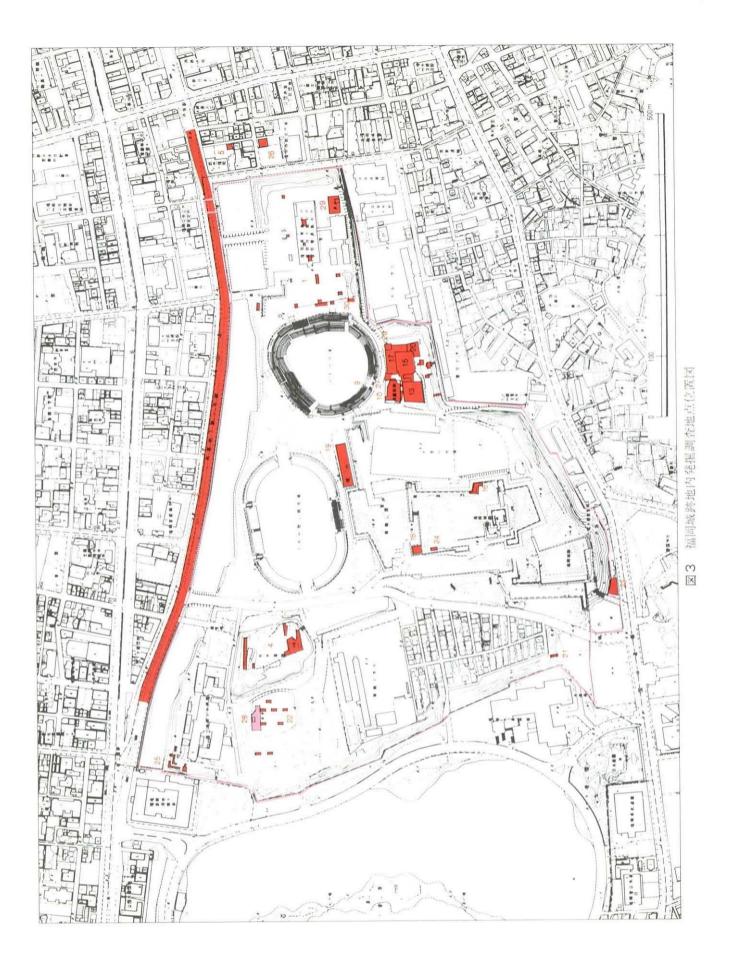
昭和42年の福岡高等裁判所建設地内(福岡城三ノ丸東側郭内)の調査(鴻臚館跡第2次調査)では、 当該地が孤立丘または岛であったことが判明し、鴻臚館創建時の地形復元の一資料が得られた。

昭和51~52年にかけて実施された地下鉄工事に伴う福岡城内堀外壁の調査で、石垣裏込め内から大 型の古代瓦と越州窯系青磁片が出土し、これまでの採集資料も含めた鴻臚館跡出土資料の集成作業の 必要性を喚起した。調査報告書には高野氏の表採資料と、九州文化総合研究所が調査した際に出土し た越州窯青磁が合わせて掲載され、鴻臚館跡研究の一側面である遺物研究の端緒を開いた。

亀井氏は、表採資料の分布や鴻臚館研究に関わりのあった人々の証言、立地上の問題を総合的に検討し、平和台野球場中央からテニスコートの範囲に、方一町規模で東を正面とする鴻臚館関連施設を想定した。発掘のメスを入れることが難しい中で、遺跡としての鴻臚館跡研究の方向性を示されたことは意義深いものがあった。

(注)

and the period for the first than a first of the first of	1000
1. 中山平次郎「古代の博多」1~7 考古学雑誌第16巻6号~第17巻10号 1926	~1928
2. 高野孤鹿『平和台の考古史料』(プリント) 1972	
3. 小山富士夫「鴻臚館址出土の越州窯青磁片」 1953年1月6日付朝日新聞朝刊	
4. 福岡県教育委員会「史跡福岡城発掘調査概報」 1961	
5. 折尾学・池崎譲二他「福岡城址ー内堀外壁石積の調査ー」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第101集』 1983	
6. 九州大学考古学研究室「九州大学考古学研究室所蔵の平和台出土遺物」 " 1983	
7. 池崎譲二・森本朝子「福岡市立歴史資料館所蔵の高野コレクション」 // 1983	
8. 弓場知紀「出光美術館の高野コレクション」 " 1983	
9. 亀井明徳 「大宰府鴻臚館の実像-構造と遺跡の再検討-」古文化談叢 第1号 〃 1974	



- 5 -

# 表 1. 福岡城跡調査一覧

(平成 6 (1994)年度まで)

凡例 史跡整備;教育委員会所管事業、公園整備;都市整備局所管事業

確認調査;福岡城跡・鴻臚館跡の調査。工事名のある調査は緊急調査

一	am-A-ref. CI	. r w l	M. FT	4.04.44.11.77.0	BDG =A+ EEF treet	Ont-Lawrence .	和民族教师 国、 为国际外域			
日   三ノ丸西北部   史跡内   国病院建設   596626~590702   文部名文化財保護委員会   1   1   三ノ丸東郭   史跡内   裁判所建設   596   631007~631105   640327~640331   福岡県教育委員会   2   海盧館跡 2 次   海盧館跡 3 次   海   森田 2 次   海   森田2 次   海	調査寄号	_	地区	史跡内外区分	調査原因	調查面積m²	調査期間	調査担当者	文献	備 考
1   三ノ丸東郭   史跡内   裁判所建設   596   631007~631105   640327~640331   7605   2   内場内壁   史跡外   地下鉄建設   14,900   761201~771008   折尾 学、地崎譲二   4   7728   3   薬院新川   史跡外   地下鉄建設   500   780301~780630   折尾 学、地崎譲二   4   7728   3   薬院新川   史跡内   史跡内   史跡格   2,200   790719~790811   飛高葱韭、力武車治   3・8   8134   5   赤坂門北側内堀   史跡内   史跡格   2,200   790719~790811   飛高葱韭、力武車治   3・8   8343   6   祈念棉跡   史跡内   史跡格   36   840201~840612   飛高葱韭、力武車治   4   柳復元整備   8449   7   肥前規東衛衛   史跡外   近郊を備   36   840201~840612   飛高葱韭、力武車治   9   肥前堀   次   76   7747   9   三ノ丸中央帯   史跡内   野球執遺企修   550   840601~840612   拓岡県東省委員会   肥前堀東衛   2   ル市停金建設   580   840601~840612   拓岡県東省委員会   肥前堀東衛   9   肥前堀   2   水   7747   9   三ノ丸中央帯   史跡内   野球執遺企修   650   871225~880120   山崎純男、吉武 学   11・121   海雄前路4   次   8865   11   四市海東土界   史跡内   強國新衛   500   880727~881210   山崎純男、吉武 学   11・121   海雄前路   次   8865   11   四市海東土界   史跡内   強國新衛   500   880727~881210   山崎純男、吉武 学   10   11・21   海雄前路   次   8910   13   三ノ丸中央帯   史跡内   衛庭副治   1,200   890420~891207   山崎純男、吉武 学   11・21   海雄前路   次   8910   13   三ノ丸中央部   史跡内   衛庭副治立   1,300   890420~891207   山崎純男、吉武 学   11・21   海雄前路   次   8910   13   三ノ丸中央部   史跡内   衛庭副立   1,300   900409~910131   山崎純男、吉武 学   11・21   海雄前路   次   9055   16   月泉棉跡   史跡内   衛庭副立   1,000   910501~920331   山崎純男、吉武   15     海雄前路   次   9265   16   月泉神野   史跡内   衛庭副立   1,000   910501~920331   山崎純男、龍武   15     海雄前路   次   9266   2   在見棉跡   史跡内   確認副立   1,000   910501~920331   山崎純男、龍本正志   17・21   海雄前路   次   9266   2   在見棉跡   史跡内   確認副立   250   920301~92031   北崎純男、北本正志   17・21   海雄前路   次   9266   2   在見棉跡   史跡内   確認副立   250   920301~92031   北崎祖男、北本正志   17・21   海雄前路   次   9353   24   本九田柳郷   史跡内   在認問立   250   930301~930331   北本正志   19   海雄前路   次   250   25									1 • 7 • 11	鴻臚館跡1次
2   2   2   2   2   3   3   3   3   3		В	三ノ丸西北部	史跡内	国病院建設		590626~590702	文部省文化財保護委員会	. 1	
705   2   内螺内型   東跡外   地下鉄建設   14,900   761201~771008   浜石哲也、山崎龍雄   4   17948   4   御藤屋敷跡   史跡外   史跡外   史跡外   史跡外   2,200   790719~790811   飛高葱油、力或中治   3 * 8   8134   5   赤坂門北側内堀   史跡外   足沙野格   2,200   790719~790811   飛高葱油、力或中治   3 * 8   8434   6   祈念棒跡   史跡内   史跡外   足沙野格   36   840201~840612   井沢洋一   棒復元整備   8449   7   肥前堀東端部   史跡外   東公園建設   580   840601~840612   井沢洋一   棒復元整備   8449   7   肥前堀東端部   史跡外   東公園建設   580   840601~840612   井沢洋一   棒復元整備   8449   7   肥前堀東端部   史跡外   東公園建設   580   840601~840612   田前堀   次   海庫部美   11 * 14   海庫部第 3 ×   8777   9   三ノ丸中央部   史跡内   新龍部路   500   871225~880120   山崎純男   吉武 学   11 * 11   海庫部第 3 ×   8865   11   西一南線土景   史跡内   新龍部路   500   880727~881210   山崎純男   古武 学   11 * 21   海庫部第 3 ×   8865   11   西一南線土景   史跡内   新龍部路   500   880727~881210   山崎純男   古武 学   10     肥前堀   次   88107   13   三ノ中央部   史跡内   新龍部路   700   891011~891021   古武 学   15   海庫前野 3 ×   15   三ノ中央部   史跡内   新龍湖音   1,200   890407~891021   古崎堤男   古武 学   11 * 21   海庫前野 5 ×   905   14   肥前堀末   史跡内   新龍湖音   1,000   900409~910131   山崎純男   古武 学   15   海庫前野 7 ×   11 * 14   1 * 14	6301	1	三ノ丸東郭	史跡内	裁判所建設	596			2	鴻臚館跡2次
7948   4   御藤屋敷跡   史跡内   史跡外   史跡外   ビル建設   70   820317~820326   田中番夫   4   4   8343   5   赤坂門北側内塚   史跡外   ビル建設   70   820317~820326   田中番夫   4   4   4   4   4   4   4   4   4	7605	2				14,900	761201~771008	浜石哲也、山崎龍雄	4	
8134   5 赤坂門北側内場   史跡外   ヒル建設   70   820317~820326   田中藤夫   4   8448   6   打念櫓跡   史跡内   史跡路備   36   840201~840612   井沢洋一	7728	3	薬院新川	史跡外	地下鉄建設	500	780301~780630	折尾 学、池崎譲二	4	
8343   6   初念櫓跡   史跡内   史跡内   史跡整備   36   840201~840612   井沢洋一   橋復元整備   8449   7   肥前爆東端部   史跡外   県公園建設   580   840601~840612   福岡県教育委員会   肥前堀1次   8533   肥前爆東部   史跡外   市庁舎建設   150   850700~850800   折尾   空   山崎純男   9   肥前堀1次   8747   9   三ノ丸中央部   史跡内   野球場改修   650   87125~880120   山崎純男   古武 学   11・14   海臚館路3次   8829   10   三ノ丸中央部   史跡内   確認開金   500   880727~881210   山崎純男   古武 学   11・21   海臚館路3次   8865   811   四一南線土景   史跡内   公園整備   500   880727~881210   山崎純男   古武 学   11・21   海臚館路3次   8840   12   肥尚堀東部   史跡内   公園整備   500   880727~881210   山崎純男   古武 学   10   11・21   海臚館路3次   8910   13   三ノ丸中央部   史跡内   確認開金   1,200   890420~891207   山崎純男   古武 学   11・21   海臚館路5次   8950   14   肥尚堀東部   史跡内   確認開金   1,200   890420~891207   山崎純男   古武 学   11・21   海臚館路5次   8950   14   肥尚堀東部   史跡内   確認開金   1,300   900490~910131   山崎純男   古武 学   11・21   海臚館路6次   9065   16   月見棒跡   史跡内   確認開金   1,000   910501~920331   山崎純男   古武 学   15   15   15   15   15   15   15	7948	4	御鷹屋敷跡	史跡内	史跡整備	2,200	790719~790811	飛高懸雄、力武卓治	3 • 8	
8449   7   肥前堀東端部   史跡外   児公園建設   150   850700~850800   折尾 学、山崎純男   9   肥前堀 1次   8533   8   肥前堀東部   史跡外   市庁仓建設   150   850700~850800   折尾 学、山崎純男   9   肥前堀 2次   8747   9   三ノ丸中央部   史跡内   野球場改修   650   871225~880120   山崎純男・吉武 学   11・14   海羅前路 3次   8829   10   三ノ丸中央部   史跡内   確認開査   856   880727~881210   山崎純男、吉武 学   10   10   11・21   海羅前路 4次   8865   11   四一南線土景   史跡内   在   2   2   2   2   2   2   2   2   2	8134	5	赤坂門北側内堀	史跡外	ビル建設	70	820317~820326	田中番夫	4	
8533   8   肥前爛束部   史跡内   市庁合建設   150   850700~850800   折尾 学、山崎純男   9   肥前爛 2 次   8747   9   三ノ丸中央部   史跡内   野球場改修   650   871225~880120   山崎純男・吉武 学   11・14   海腹前路 3 次   8829   10   三ノ丸中央部   史跡内   旅総開金   856   880727~881210   山崎純男・吉武 学   11・21   海腹前路 3 次   8865   11   四~梅綠土景   史跡内   公園整備   500   880727~881210   山崎純男、吉武 学   10     10	8343	6	祈念櫓跡	史跡内	史跡整備	36	840201~840612	井沢洋一		櫓復元整備
8747   9   三ノ丸中央部   史跡内   野球場改修   650   871225~880120   山崎純男・吉武 学   11・14   海臓節番3次8829   10   三ノ丸中央部   史跡内   確認調査   856   880727~881210   山崎純男、吉武 学   11・21   海城節番4次8665   11   西一南緑土星   史跡内   公園整備   500   880727~881210   山崎純男、吉武 学   10   10   10   10   10   10   10	8449	7	肥前烟来端部	史跡外	<b>具公園建設</b>	580	840601~840612	福岡県教育委員会		肥前堀1次
8829   10   三ノ丸中央部   史跡内   確認調査   856   880727~881210   山崎純男、吉武 学   11・21   海雄節番4次   8865   11   四〜南縁上景   史跡内   公園繁備   500   880727~881210   山崎純男、吉武 学   10     8840   12   肥间堀東部   史跡外   ビル連設   650   881107~881126   柳沢一男   12   肥间堀3次   8910   13   三ノ丸中央部   史跡内   確認調査   1,200   890420~891207   山崎純男、吉武学   11・21   海雄節新5次   8950   14   肥间堀東部   史跡外   市庁合建設   700   891011~891021   菅波正人   13   肥间堀4次   9005   15   三ノ丸中央部   史跡内   確認調査   1,300   900409~910131   山崎純男、吉武学   11・21   海雄節番6次   9065   16   月兄棒跡   史跡内   確認調査   1,000   910301~910331   山崎純男、吉武学   15     15     15     15     15     15     16   18     16   18     16   19   東跡内   確認調査   1,600   910501~920331   山崎純男、龍本正志   16・21   海雄節新7次   9218   19   三ノ丸中央部   史跡内   確認調査   1,670   920615~921030   山崎純男、瀧本正志   17・21   海雄節新8次   9236   20   三ノ丸中央部   史跡内   確認調査   430   920910~930331   山崎純男、瀧本正志   17・21   海雄節新8次   9262   21   花見櫓跡   史跡内   確認調査   430   920910~930331   山崎純男、瀧本正志   17・21   海雄節新9次   9262   21   花見櫓跡   史跡内   確認調査   430   920910~930331   山崎純男、瀧本正志   17・21   海雄節新10次   9345   23   道週門南側堀   史跡内   確認調査   450   930816~940228   田中蕎夫、瀧本正志   19   海雄節が10次   9345   23   道週門南側堀   史跡内   安跡内   安郎内   安郎内   安郎内   安郎内   安郎内   安郎内   安郎内   安郎内   安郎内   安郎子   安郎所   安郎子   安郎子   安郎子   安郎所   安郎所   安郎子   安郎所   安郎子   安郎所   安郎子   安郎所   安郎子   安郎所   安郎   安郎	8533	8	肥前烟取部	史跡外	市庁會建設	150	850700~850800	折尾 学、山崎純男	9	肥前堀2次
8865   11   西〜南線土景   史跡内   公園整備   500   880727~881210   山崎純男、吉武 学   10     8840   12   肥前堀東部   史跡外   ピル建設   650   881107~881126   柳沢一男   12   肥前堀 3 次   8910   13   三ノ丸中央部   史跡内   確認調査   1,200   890420~891207   山崎純男、吉武学   11・21   鴻臚節5 次   8950   14   肥前堀東部   史跡外   市庁舎建設   700   891011~891021   菅波正人   13   肥前堀 4 次   9005   15   三ノ丸中央部   史跡内   確認調査   1,300   900409~910131   山崎純男、古武学   15   15   15   17   17   18   16   27   18   19   19   19   19   19   19   19	8747	9	三ノ丸中央部	史跡内	野球場改修	650	871225~880120	山崎純男・吉武 学	11 • 14	鴻臚館跡3次
8840   12   肥前椒東部   史跡外   ビル処設   650   881107~881126   柳沢一男   12   肥前煳 3 次   8910   13   三ノ丸中央部   史跡内   確認調査   1,200   890420~891207   山崎純男、吉武学   11・21   鴻臚餘5 次   8950   14   肥前塌東部   史跡外   市庁合建設   700   891011~891021   常波正人   13   肥前塌 4 次   9005   15   三ノ丸中央部   史跡内   確認調査   1,300   900409~910131   山崎純男、古武学   15   15   15   15   15   15   15   1	8829	10	三ノ丸中央部	史跡内	確認調査	856	880727~881210	山崎純男、吉武 学	11 • 21	鴻臚館跡 4 次
8910   13   三ノ丸中央部   史跡内   確認問金   1,200   890420~891207   山崎純男、吉武学   11・21   海城前55次   8950   14   肥前堀東部   史跡外   市庁舎建設   700   891011~891021   菅波正人   13   肥前堀4次   9005   15   三ノ丸中央部   史跡内   確認問金   1,300   900409~910131   山崎純男、吉武学   11・21   海城前56次   9065   16   月兄棒跡   史跡内   確認問金   1,900   910301~910331   山崎純男、吉武学   15   9130   17   三ノ丸中央部   史跡内   確認問金   1,000   910501~920331   山崎純男、龍武学   15   9146   18   時棒跡   史跡内   確認問金   250   920301~920331   池本正志   16・21   海城前57次   9218   19   三ノ丸中央部   史跡内   確認問金   1,670   920615~921030   山崎純男、池本正志   17   海城前58次   9236   20   三ノ丸中央部   史跡内   確認問金   430   920910~930331   池本正志   17・21   海城前58次   9262   21   花見櫓跡   史跡内   確認問金   200   930301~930331   池本正志   17・21   海城前59次   9262   22   三ノ丸四部郭   史跡内   確認問金   450   930816~940228   田中蕎夫、池本正志   19   海城前50次   9345   23   追廻門兩側堀   史跡外   公園整備   220.3   931213~940228   井沢洋一   18   9353   24   本丸西緑部   史跡内   安跡内   安跡衛   65   940301~940328   田中蕎夫、池本正志   9412   26   赤坂門石垣   史跡外   安部所建設   430   940525~940806   吉武   学   9420   27   三ノ丸中央部   史跡内   史跡整備   50   940606~940731   田中蕎夫、池本正志   20   海城前511次   9432   28   三ノ丸西部郭   史跡内   座跡整備   50   940606~940731   田中蕎夫、池本正志   20   海城前511次   9432   28   三ノ丸西部郭   史跡内   座跡整備   50   940801~950320   田中蕎夫、瀧本正志   20   海城前511次   9455   29   三ノ丸東部郭   史跡内   施設的音   850   940801~950320   田中蕎夫、瀧本正志   20   海城前511次   9455   29   三ノ丸東部郭   史跡内   施設的音   24   941101~950130   力武卓治	8865	11	四~南線上盘	史跡内	公園整備	500	880727~881210	山崎純男、吉武 学	10	
8910   13   三ノ丸中央部   史跡内   確認問金   1,200   890420~891207   山崎純男、吉武学   11・21   海城前55次   8950   14   肥前堀東部   史跡外   市庁舎建設   700   891011~891021   菅波正人   13   肥前堀4次   9005   15   三ノ丸中央部   史跡内   確認問金   1,300   900409~910131   山崎純男、吉武学   11・21   海城前56次   9065   16   月兄棒跡   史跡内   確認問金   1,900   910301~910331   山崎純男、吉武学   15   9130   17   三ノ丸中央部   史跡内   確認問金   1,000   910501~920331   山崎純男、龍武学   15   9146   18   時棒跡   史跡内   確認問金   250   920301~920331   池本正志   16・21   海城前57次   9218   19   三ノ丸中央部   史跡内   確認問金   1,670   920615~921030   山崎純男、池本正志   17   海城前58次   9236   20   三ノ丸中央部   史跡内   確認問金   430   920910~930331   池本正志   17・21   海城前58次   9262   21   花見櫓跡   史跡内   確認問金   200   930301~930331   池本正志   17・21   海城前59次   9262   22   三ノ丸四部郭   史跡内   確認問金   450   930816~940228   田中蕎夫、池本正志   19   海城前50次   9345   23   追廻門兩側堀   史跡外   公園整備   220.3   931213~940228   井沢洋一   18   9353   24   本丸西緑部   史跡内   安跡内   安跡衛   65   940301~940328   田中蕎夫、池本正志   9412   26   赤坂門石垣   史跡外   安部所建設   430   940525~940806   吉武   学   9420   27   三ノ丸中央部   史跡内   史跡整備   50   940606~940731   田中蕎夫、池本正志   20   海城前511次   9432   28   三ノ丸西部郭   史跡内   座跡整備   50   940606~940731   田中蕎夫、池本正志   20   海城前511次   9432   28   三ノ丸西部郭   史跡内   座跡整備   50   940801~950320   田中蕎夫、瀧本正志   20   海城前511次   9455   29   三ノ丸東部郭   史跡内   施設的音   850   940801~950320   田中蕎夫、瀧本正志   20   海城前511次   9455   29   三ノ丸東部郭   史跡内   施設的音   24   941101~950130   力武卓治	8840	12	肥前爆束部	史跡外	ピル建設	650	881107~881126	柳沢一男	12	肥前堀3次
8950   14   肥前烟東部   史跡外   市庁舎建設   700   891011~891021   菅波正人   13   肥前場4次   9005   15   三ノ丸中央部   史跡内   確認調査   1,300   900409~910131   山崎純男、百武 学   11・21   海城前跡6次   9065   16   月見棒跡   史跡内   確認調査   1,000   910501~920331   山崎純男、百武学   15   9130   17   三ノ丸中央部   史跡内   確認調査   1,000   910501~920331   山崎純男、龍本正志   16・21   海城前跡7次   9146   18   時棒跡   史跡内   確認調査   250   920301~920331   北本正志   17   海城前跡8次   9236   20   三ノ丸中央部   史跡内   確認調査   430   920910~930331   山崎純男、北本正志   17・21   海城前跡9次   9262   21   花見櫓跡   史跡内   確認調査   430   920910~930331   山崎純男、北本正志   17・21   海城前跡9次   9326   22   三ノ丸西部郭   史跡内   確認調査   450   930816~940228   田中蕎夫、北本正志   19   海城前跡10次   9345   23   追廻門兩個場   史跡外   公園整備   200   331213~940228   井沢洋一   18   9353   24   本丸西練部   史跡内   公園整備   80   931211~931221   田中蕎夫、北本正志   9412   26   赤坂門石垣   史跡外   変地所建設   430   940525~940806   吉武   字   9420   27   三ノ丸中央部   史跡内   史跡内   定跡整備   50   940606~940731   田中蕎夫、北本正志   20   海城前跡11次   9432   28   三ノ丸西部郭   史跡内   確認調査   850   940801~950320   田中蕎夫、北本正志   20   (〃)   9451   29   三ノ丸東部郭   史跡内   施設建幹   1024   941101~950130   力武卓治	8910	13	三ノ丸中央部	史跡内	確認調査	1,200	890420~891207	山崎純男、曺武学	11 • 21	鴻臚館跡 5 次
9065   16   月兄榛跡   史跡内   確認調査   190   910301~910331   山崎純男、吉武学   15     9130   17   三ノ丸中央部   史跡内   確認調査   1,000   910501~920331   山崎純男、漁本正志   16・21   鴻臚館跡7次   9146   18   時櫓跡   史跡内   確認調査   250   920301~920331   瀧本正志   17   鴻臚館跡7次   9218   19   三ノ丸中央部   史跡内   確認調査   1,670   920615~921030   山崎純男、瀧本正志   17   鴻臚館跡8次   9236   20   三ノ丸中央部   史跡内   確認調査   200   930301~930331   山崎純男、瀧本正志   17・21   鴻臚館跡9次   9362   21   花見櫓跡   史跡内   確認調査   200   930301~930331   瀧本正志   17・21   鴻臚館跡9次   9345   23   追廻門兩側堀   史跡内   企園整備   220.3   931213~940228   田中蕎夫、瀧本正志   19   鴻臚館跡10次   9353   24   本丸西緑部   史跡内   全園整備   80   931211~931221   田中蕎夫、瀧本正志   9363   25   湖兄榛跡   史跡内   史跡外   安部所   史跡整備   65   940301~940328   田中蕎夫、瀧本正志   9412   26   赤坂門石垣   史跡外   変電所建設   430   940525~940806   吉武   学   9420   27   三ノ丸中央部   史跡内   史跡整備   50   940606~940731   田中蕎夫、瀧本正志   20   鴻臚館跡11次   9432   28   三ノ丸西部郭   史跡内   確認調査   850   940801~950320   田中蕎夫、瀧本正志   20   (〃)   9451   29   三ノ丸東部郭   史跡内   施設建幹   1024   941101~950130   力武卓治	8950	14	肥崩爆凍部	史跡外	市庁舎建設	700	891011~891021	带波正人	13	肥前堀4次
9065   16   月兄榛跡   史跡内   確認調査   190   910301~910331   山崎純男、吉武学   15     9130   17   三ノ丸中央部   史跡内   確認調査   1,000   910501~920331   山崎純男、漁本正志   16・21   鴻臚館跡7次   9146   18   時櫓跡   史跡内   確認調査   250   920301~920331   瀧本正志   17   鴻臚館跡7次   9218   19   三ノ丸中央部   史跡内   確認調査   1,670   920615~921030   山崎純男、瀧本正志   17   鴻臚館跡8次   9236   20   三ノ丸中央部   史跡内   確認調査   200   930301~930331   山崎純男、瀧本正志   17・21   鴻臚館跡9次   9362   21   花見櫓跡   史跡内   確認調査   200   930301~930331   瀧本正志   17・21   鴻臚館跡9次   9345   23   追廻門兩側堀   史跡内   企園整備   220.3   931213~940228   田中蕎夫、瀧本正志   19   鴻臚館跡10次   9353   24   本丸西緑部   史跡内   全園整備   80   931211~931221   田中蕎夫、瀧本正志   9363   25   湖兄榛跡   史跡内   史跡外   安部所   史跡整備   65   940301~940328   田中蕎夫、瀧本正志   9412   26   赤坂門石垣   史跡外   変電所建設   430   940525~940806   吉武   学   9420   27   三ノ丸中央部   史跡内   史跡整備   50   940606~940731   田中蕎夫、瀧本正志   20   鴻臚館跡11次   9432   28   三ノ丸西部郭   史跡内   確認調査   850   940801~950320   田中蕎夫、瀧本正志   20   (〃)   9451   29   三ノ丸東部郭   史跡内   施設建幹   1024   941101~950130   力武卓治	9005	15	三ノ丸中央部	史跡内	確認調查	1,300	900409~910131	山崎純男、古武 学	11 • 21	鴻臚館跡6次
9146 18 時機跡         史跡内 確認調査         250 920301~920331 瀧本正志         1         9218 19 三ノ丸中央部 史跡内 確認調査         1,670 920615~921030 山崎純男、瀧本正志 17 鴻臚館跡8次 9236 20 三ノ丸中央部 史跡内 確認調査         430 920910~930331 山崎純男、瀧本正志 17・21 鴻臚館跡9次 9262 21 花見櫓跡 史跡内 確認調査         430 920910~930331 油本正志 17・21 鴻臚館跡9次 9326 22 三ノ丸西部郭 史跡内 確認調査         200 930301~930331 瀧本正志 19 鴻臚館跡10次 9345 23 追廻門南側堀 史跡外 公園整備 220.3 931213~940228 井沢洋一 18         18           9353 24 本丸西線部 史跡内 公園整備 80 931211~931221 田中蕎夫、瀧本正志 9363 25 湖兄櫓跡 史跡内 史跡整備 65 940301~940328 田中蕎夫、瀧本正志 9412 26 赤坂門石垣 史跡外 変電所建設 430 940525~940806 吉武 学 9420 27 三ノ丸中央部 史跡内 史跡整備 50 940606~940731 田中蕎夫、瀧本正志 20 鴻臚館跡11次 9432 28 三ノ丸西部郭 史跡内 確認調査 850 940801~950320 田中蕎夫、瀧本正志 20 (〃) 9451 29 三ノ丸東部郭 史跡内 施設建幹 1024 941101~950130 力武卓治	9065	16	月見櫓跡	史跡内	確認調査	190	910301~910331	山崎純男、古武学	15	
9218         19         三ノ丸中央部         史跡内         確認調査         1,670         920615~921030         山崎純男、瀧本正志         17         鴻臚館跡 8 次           9236         20         三ノ丸中央部         史跡内         確認調査         430         920910~930331         山崎純男、瀧本正志         17・21         鴻臚館跡 9 次           9262         21         花見櫓跡         史跡内         確認調査         200         930301~930331         瀧本正志         19         鴻臚館跡 9 次           9345         23         追週門南側堀         史跡外         公園整備         220.3         931213~940228         井沢洋一         18           9353         24         本丸西線部         史跡内         公園整備         80         931211~931221         田中壽夫、瀧本正志         18           9363         25         湖兄櫓跡         史跡内         史跡整備         65         940301~940328         田中壽夫、瀧本正志         9412         26         赤坂門石垣         史跡外         変電所建設         430         940525~940806         吉武 学         9420         27         三ノ丸中衆部         史跡内         史跡整備         50         940606~940731         田中壽夫、瀧本正志         20         鴻臚館跡11次           9432         28         三ノ丸西部郭         史跡内         確認調查         850         940801~950320         田中壽夫、瀧本正志         20	9130	17	三ノ丸中央部	史跡内	確認調查	1,000	910501~920331	山崎純男、瀧本王志	16 • 21	鴻臚館跡7次
9236         20         三ノ丸中央部         史跡内         確認調査         430         920910~930331         山崎純男、瀧本正志         17・21         海鷹館跡9次           9262         21         花見櫓跡         史跡内         確認調査         200         930301~930331         瀧本正志         19         海鷹館跡10次           9345         23         追週門兩側堀         史跡外         公園整備         220.3         931213~940228         井沢洋一         18           9353         24         本丸西線部         史跡内         公園整備         80         931211~931221         田中壽夫、瀧本正志           9363         25         湖兄櫓跡         史跡内         史跡整備         65         940301~940328         田中壽夫、瀧本正志           9412         26         赤坂門石垣         史跡外         変電所建設         430         940525~940806         吉武 学           9420         27         三ノ丸中東部         史跡内         史跡整備         50         940606~940731         田中壽夫、瀧本正志         20         海鷹館計11次           9432         28         三ノ丸西部郭         史跡内         確認調査         850         940801~950320         田中壽夫、瀧本正志         20         (〃)           9451         29         三ノ丸東部郭         史跡内         施設調査         1024         941101~950130         力武卓治 <td>9146</td> <td>18</td> <td>時櫓跡</td> <td>史跡内</td> <td>確認調査</td> <td>250</td> <td>920301~920331</td> <td><b>湘本正志</b></td> <td></td> <td></td>	9146	18	時櫓跡	史跡内	確認調査	250	920301~920331	<b>湘本正志</b>		
9262 21 花見榕跡         史跡内 確認調査         200 930301~930331 瀧本正志         19         海爐館跡10次           9326 22 三ノ丸西部郭         史跡内 確認調査         450 930816~940228 田中蕎夫、瀧本正志         19         海爐館跡10次           9345 23 追廻門南側堀         史跡外 公園整備         220.3 931213~940228 井沢洋一         18           9353 24 本丸西緑部         史跡内 公園整備         80 931211~931221 田中蕎夫、瀧本正志         18           9363 25 潮見榕跡         史跡内 史跡整備         65 940301~940328 田中蕎夫、瀧本正志         19           9412 26 赤坂門石垣         史跡外 変電所建設         430 940525~940806 吉武 学         19           9420 27 三ノ丸中東部         史跡内 史跡整備         50 940606~940731 田中蕎夫、瀧本正志 20 海爐館計1次           9432 28 三ノ丸西部郭         史跡内 確認調査         850 940801~950320 田中蕎夫、瀧本正志 20 (〃)           9451 29 三ノ丸東部郭         史跡内 施設建幹         1024 941101~950130 力武卓治	9218	19	三ノ丸中央部	史跡内	確認調查	1,670	920615~921030	山崎純男、瀧本正志	17	鴻臚館跡8次
9326         22         三ノ丸西部郭         史跡内         確認調査         450         930816~940228         田中蕎夫、瀧本正志         19         鴻臚館跡10次           9345         23         追廻門兩側堀         史跡外         公園整備         220.3         931213~940228         井沢洋一         18           9353         24         本丸西縁部         史跡内         公園整備         80         931211~931221         田中蕎夫、瀧本正志           9363         25         湖見櫓跡         史跡内         史跡整備         65         940301~940328         田中蕎夫、瀧本正志           9412         26         赤坂門石垣         史跡外         変電所建設         430         940525~940806         吉武 学           9420         27         三ノ丸中東部         史跡内         史跡整備         50         940606~940731         田中辭夫、瀧本正志         20         鴻臚館跡11次           9432         28         三ノ丸西部郭         史跡内         確認調査         850         940801~950320         田中辭夫、瀧本正志         20         (〃)           9451         29         三ノ丸東部郭         史跡内         施設調査         1024         941101~950130         力武卓治	9236	20	三ノ丸中央部	史跡内	確認調査	430	920910~930331	山崎純男、瀧本正志	17 • 21	鴻臚館跡 9 次
9345         23         追廻門南側堀         史跡外         公園整備         220.3         931213~940228         井沢洋一         18           9353         24         本丸西縁部         史跡内         公園整備         80         931211~931221         田中壽夫、龍本正志           9363         25         湖兄櫓跡         史跡内         史跡整備         65         940301~940328         田中壽夫、龍本正志           9412         26         赤坂門石垣         史跡外         変電所建設         430         940525~940806         吉武 学           9420         27         三ノ丸中央部         史跡内         史跡整備         50         940606~940731         田中壽夫、瀧本正志         20         鴻臚飾跡11次           9432         28         三ノ丸西部郭         史跡内         確認調査         850         940801~950320         田中壽夫、瀧本正志         20         (〃)           9451         29         三ノ丸東部郭         史跡内         施設建幹         1024         941101~950130         力武卓治	9262	21	花見櫓跡	史跡内	確認調査	200	930301~930331	瀧本正志		
9353         24         本丸西線部         史跡内         公園整備         80         931211~931221         田中藤夫、瀧本正志           9363         25         潮見櫓跡         史跡内         史跡整備         65         940301~940328         田中藤夫、瀧本正志           9412         26         赤坂門石垣         史跡外         変電所建設         430         940525~940806         吉武 学           9420         27         三ノ丸中央部         史跡内         史跡整備         50         940606~940731         田中辭夫、瀧本正志         20         海驢前跡11次           9432         28         三ノ丸西部郭         史跡内         確認調査         850         940801~950320         田中辭夫、瀧本正志         20         (〃)           9451         29         三ノ丸東部郭         史跡内         施設建幹         1024         941101~950130         力武卓治	9326	22	三ノ丸西部郭	史跡内	確認調査	450	930816~940228	田中壽夫、渝本正志	19	鴻臚館跡10次
9363         25         浏見機跡         史跡内         史跡整備         65         940301~940328         田中番夫、瀧本正志           9412         26         赤坂門石垣         史跡外         変電所建設         430         940525~940806         吉武 学           9420         27         三ノ丸中央部         史跡内         史跡整備         50         940606~940731         田中番夫、瀧本正志         20         鴻臚館跡11次           9432         28         三ノ丸西部郭         史跡内         確認調査         850         940801~950320         田中番夫、瀧本正志         20         (〃)           9451         29         三ノ丸東部郭         史跡内         施設建幹         1024         941101~950130         力武卓治	9345	23	追廻門兩側堀	史跡外	公園整備	220.3	931213~940228	井沢洋一	18	
9363         25         浏見機跡         史跡内         史跡整備         65         940301~940328         田中番夫、湘本正志           9412         26         赤坂門石垣         史跡外         変電所建設         430         940525~940806         吉武 学           9420         27         三ノ丸中央部         史跡内         史跡整備         50         940606~940731         田中番夫、湘本正志         20         鴻臚館跡11次           9432         28         三ノ丸西部郭         史跡内         確認調査         850         940801~950320         田中番夫、湘本正志         20         (〃)           9451         29         三ノ丸東部郭         史跡内         施設建幹         1024         941101~950130         力武卓治	9353	24		史跡内	公園整備		931211~931221	田中崙失、瀧本正志		
9412         26         赤坂門石垣         史跡外         変電所建設         430         940525~940806         吉武 学           9420         27         三ノ丸中央部         史跡内         史跡整備         50         940606~940731         田中番夫、瀧本正志         20         鴻臚前跡11次           9432         28         三ノ丸西部郊         史跡内         確認調査         850         940801~950320         田中番夫、瀧本正志         20         (〃)           9451         29         三ノ丸東部郊         史跡内         施設建替         1024         941101~950130         力武卓治		_								
9420         27         三ノ丸中央部         史跡内         史跡整備         50         940606~940731         田中番夫、瀧本正志         20         鴻臚館跡11次           9432         28         三ノ丸西部郊         史跡内         確認調査         850         940801~950320         田中番夫、瀧本正志         20         (〃)           9451         29         三ノ丸東部郊         史跡内         施設建替         1024         941101~950130         力武卓治         (〃)		$\overline{}$				430	940525~940806			
9432         28         三ノ丸西部郭         史跡内         確認調査         850         940801~950320         田中番夫、瀧本正志         20         (〃)           9451         29         三ノ丸東部郭         史跡内         施設建督         1024         941101~950130         力武卓治	<del></del>	27				50			20	鴻臚館跡11次
9451   29   三ノ丸東部郭   史跡内   施設建替   1024   941101~950130   力武卓治		28				850	940801~950320		20	
		<del></del>								
		30		$\overline{}$					20	(")

# 調查報告書·文献一覧

湖江	『報告書・文献一覧			
1	高野孤鹿	『平和台の考古史料』		1972
2	福岡県教育委員会	「史跡福岡城発掘調査概報」		1964
3	福岡市教育委員会	「筑前国福岡城三ノ丸御鷹屋敷」	福岡市埋滅文化財調査報告書第 59集	1980
4	福岡市教育委員会	「福岡城址ー内堀外壁石積の調査-」	福岡市埋蔵文化財凋査報告書第101集	1983
5	池崎醸二・森本朝子	『福岡市立歴史資料館所職の高野コレクション』	福岡市埋蔵文化財調査報告書第101集所収	1983
6	弓場知紀	『出光美術館の高野コレクション』	福岡市埋蔵文化財調査報告書第101集所収	1983
7	九州大学考古学研究室	「九州大学考古学研究室所蔵の平和台出土遺物」	福岡市埋蔵文化財調査報告書第101集所収	1983
8	福岡市教育委員会	「筑前国福岡城三ノ丸御鷹屋敷図録編」	福岡市埋蔵文化財調査報告書第 59集	1990
9	福岡市教育委員会	「福岡城肥前堀」	福岡市埋蔵文化財調査報告書第131集	1986
10	福岡市教育委員会	「福岡城跡・IV―内堀外壁石積の調査―」	福岡市埋蔵文化財調査報告書第237集	1991
11	福岡市教育委員会	「鴻臚館跡 1 発掘調査概報」	福岡市埋蔵文化財調査報告書第270集	1991
12	福岡市教育委員会	「福岡城肥前堀第3次調査報告」	福岡市埋蔵文化財調査報告書第293集	1992
13	福岡市教育委員会	「福岡城肥前堀第 4 次調査報告」	福岡市埋蔵文化財調査報告書第294集	1992
14	福岡市教育委員会	「鴻臚館跡 2 発掘調査概報」	福岡市埋蔵文化財調査報告書第315集	1992
15	福岡市教育委員会	「福岡城 月見櫓」	福岡市埋蔵文化財調査報告書第316集	1992
16	福岡市教育委員会	「鴻臚館跡 3 発掘調査概報」	福岡市埋蔵文化財調査報告書第355集	1993
17	福岡市教育委員会	「鴻臚館跡 4 平成 4 年度発掘調査概報」	福岡市埋蔵文化財調査報告書第372集	1994
18	福岡市教育委員会	「福岡城跡第23次調査報告」	福岡市埋蔵文化財調査報告書第415集	1995
19	福岡市教育委員会	「鴻臚館跡 5 平成 5 年度発掘調査概報」	福岡市埋蔵文化財調査報告書第416集	1995
20	福岡市教育委員会	「鴻臚館跡 6 平成 6 年度発掘調査概報」	福岡市埋蔵文化財調査報告書第486集	1996
21	福岡市教育委員会	「鴻臚館跡7 鴻臚館跡第Ⅰ期整備報告」	福岡市埋蔵文化財調査報告書第487集	1996

# (2) 平成6年度までの調査経過と成果

平成6年度までの鴻臚館跡調査は、平和台野球場南側(第1期調査区)と、舞鶴公園西広場とよばれる福岡城三ノ丸西郭(第2期調査区)の2地区を対象に実施してきた。

第1期調査区は昭和63年度から平成4年度までの5ヶ年にわたって調査を実施した部分であり、今回の整備対象地でもある。第2期調査区は平成5年度と6年度に調査を行った。

1)第1期調査区(鴻臚館跡4~9次)古墳時代から近代までの遺構と遺物が出土している。奈良時代から平安時代の遺構群は4時期に大きく分かれる。

第 I 期遺構群は東門跡とそれに付設する塀、掘込地業、トイレ遺構がある。筑紫館創建時の大規模な造成跡が第 7~9 次調査で確認された。東門跡は幅約1.2m前後、深さ約1.5mの4条の布掘遺構が確認された。規模は梁行 2 間(5.40m)桁行 3 間(7.80m)である。桁行のうち中央間が3.60m(12尺)で、脇間がそれぞれ 2.10m(7尺)である。基壇等については不明である。塀はその基礎部分である布掘遺構を確認されている。幅1.0~1.2m、深さは1.5m前後で、壁面はほぼ垂直に掘削されている。柱位置は東門と同様二段掘りである。塀を支える柱間は2.40m(8尺)である。塀は柱芯間



図4 第1期東門と塀の検出状況

で東西に71.5m (240尺・30間)、南北に55.4m (186尺・20間+26尺)の長方形区画を成す。東門跡は塀の東辺中央に位置する。塀で囲まれた区画内の南西隅に、建物の基礎と思われる掘込地業がある。平面形は東西辺5.6m、南北辺約11mの長方形で、地山面から深さ2.4mまで掘り下げ、版築によって土壙内を突き固めている。建物の構造等を示す遺構は確認できていない。トイレ遺構は、区画外西南部に大小3基が確認された。第 I 期遺構群の廃絶の時期は出土遺物からみて8世紀前半頃よりもやや新しい時期に比定される。

第II 期遺構群は、掘立柱建物が4棟確認されている。柱穴はいずれも一辺1.0~1.2mの方形の掘り方である。東西棟2棟は柱穴芯間で3.0m離れて直線的に東西に並ぶ。柱間は桁行が約2.54m、梁行が約2.10mである。南北棟2棟は、同じく3.0m離れて直線的に南北に並ぶ。東西2棟とはほぼ直交する。柱間は北側の棟が桁行約2.70m、梁行が約2.0mである。南側の棟は桁行2.85m、梁行2.0mである。これらの建物は柱穴の配列と柱間の長さからみて若干の時期差があると考える。第II 期の時期は現在までのところ判然としない。

第Ⅲ期は大型の礎石建物の時期である。遺構は、南北に長い礎石建物 2 棟分の基壇跡と礎石および礎石抜き跡とこの 2 棟の建物と直交する東西方向の建物、また南門と推定される基壇跡が確認された。全体配置については、東側半分の遺構の削平が顕著なため明かではない。南北に延びる 2 棟の建物は並列しており、西側の棟は梁行 2 間 (5.96m)、桁行が10 間 (29.8m) 以上の細長い建物で、桁行 7 間を 1 単位とする房が連続する本瓦葺切妻造り平屋建と推定している(今回の整備で復元対象とした建物である)。東側の棟は、西側の棟の基壇端から30尺 (9 m)離れている。梁行が 4 間 (11.92 m)、桁行が 9 間 (26.82m)以上の長大な建物で、東西側に庇を有している。東西に延びる建物は 2 棟の建物を結ぶための軒廊または回廊と思われる。梁行は 1 間または 2 間で、複

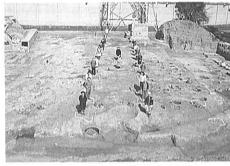


図5 第Ⅱ期掘立柱建物検出状況



図6 第Ⅲ期礎石建物検出状況 (展示館内部分)

廊の可能性が指摘されている。第III期建物群全体の構成を考える上で重要な鍵となる建物遺構である。第III期遺構群の終末の時期は、第IV期の遺構群との切り合い関係から、10世紀前半代頃と考えられる。

第IV期の遺構群は廃棄用の土壙群が主であり、いずれも、第III期礎石建物が廃絶された後の所産で、10世紀代から11世紀の前半代の時期に比定される。

第IV期遺構群に伴う建物跡についてはこれまでのところ確認できておらず、鴻臚館の終焉時期の問題と絡んで今後の調査上の課題である。

第2期調査区 (鴻臚館跡10~11次) では鴻臚館西辺域 の範囲推定、鴻臚館創建時の旧地形の復元を主目的とし て実施した。

鴻臚館に直接関連する遺構は検出できなかったが、出 土遺物には奈良時代から平安時代の須恵器、上師器、中 国越州窯系青磁等の遺物が出上している。この地点での 成果は、福岡城築城時の大規模な造成工事跡を確認した ことが挙げられる。

2)出上遺物 鴻臚館跡を特色づける遺物として、大量の瓦以外に、外国産の陶磁器があげられる。中でも鴻臚館貿易が最盛期を迎える9世紀から10世紀代の越州窯系青磁が圧倒的多数を占めており、この現象は、新羅商人にとって変わった中国明州や福州周辺の商人たちの活動と符合するものである。このほか、7世紀代から9世紀代の新羅焼、ペルシャガラス器、イスラム陶器などがあげられる。また、第1期のトイレ遺構からは、国産須恵器や土師器、新羅産陶器、中国産陶磁器の他に、木簡片や木簡を転用した籌木が大量に出土した。一部には「肥後国天草郡志記里□・・」「庇羅郷甲□煮一斗・・」等の墨書が残っているものがある。

今回の整備においては、平成6年度までのこれらの調査成果を踏まえて、鴻臚館をより実感しながら理解できるように、第1期遺構である東門と塀、第11期遺構の掘立柱建物を平面的な遺構表示の対象として選び、また第111期遺構である礎石建物については、並列する2棟の南

北棟のうち西側に位置する回廊または子房的建物を対象として、展示館内で原寸大に建物の一部を復元し、館外では礎石と基壇の平面的な復元を行った。



図7 第Ⅲ期軒廊または回廊および第Ⅰ期トイレ検出状況



図8 第IV期土壙内遺物出土状況



図9 第1期トイレ遺構出土木簡(1/4)



図10 鴻臚館跡出土中国産陶磁器

# II 鴻臚館跡整備計画

# 1. 舞鶴城址将来構想について

鴻臚館跡第 I 期整備計画を説明する前に、当該計画の上位理念にあたる舞鶴城址将来構想について述べておきたい。

昭和62年末の鴻臚館跡の発見を契機に、鴻臚館跡を含む福岡城跡および大濠公園一帯を福岡市のセントラルパークとして整備する気運が高まった。昭和63年度には、福岡市教育委員会に鴻臚館跡調査研究指導委員会が置かれ、鴻臚館跡の学術的な解明を担う体制が整うと同時に、都市整備局には舞鶴城址将来構想委員会が設置され、都心部に位置する福岡城跡と鴻臚館跡を中心とした公園整備を本市のまち作りの視点から検討する場が設けられた。設置後約3年の審議を経て、平成3年5月に構想委員会から「舞鶴城址将来構想(中間とりまとめ)」が答中された。

この構想は、福岡城跡を『福岡の歴史・文化の拠点空間』『都心部の緑・憩いの拠点空間』と位置づけ、「この2つの空間の機能的融合と景観的調和を図る」ために、将来的に福岡城跡と鴻臚館跡を中核とする歴史公園として整備し、『アジアの拠点・国際文化都市をめざす福岡のシンボル』を創造するというものである。この将来構想を実現するための前提条件として、城跡内に点在している公共および民間各施設を段階的なスケジュールで移転する方針が明記されており、平成24年度頃の完成を最終目標にした短期および中期計画が示されている。

構想の核となる鴻臚館跡と福岡城跡については、「復元材料が揃えば、古代の国際交流の歴史が学べ、同時に国際交流の振興の場となるように復元整備する。福岡城跡は積極的な復元整備を図り、城第研究施設あるいは近世文化の研究展示施設としての利用を考える。」としている。

鴻臚館跡の整備はこの将来構想の一環として位置づけられるものであり、福岡城跡の環境整備との 調和を図りながら推進される必要がある。したがって、鴻臚館跡の本格的整備が計画段階に入った時 点で、それを包含する福岡城跡整備の全体計画に正しく位置づけられた基本計画の策定が、舞鶴城址 将来構想の基本理念の実現のためにも必要かと思われる。整備推進の体制も含めて将来の課題である。

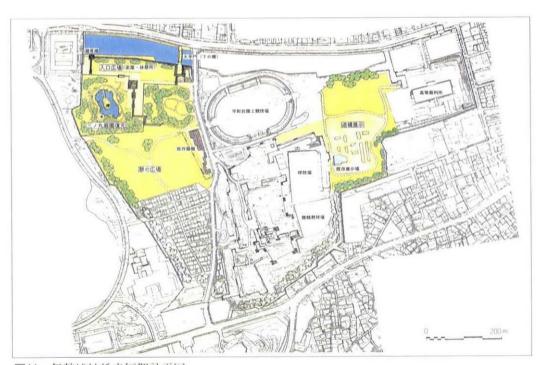


図11 舞鶴城址将来短期計画図

# 2. 鴻臚館跡整備全体計画

#### (1) 全体計画

平成5年度第2回鴻臚館跡調査研究指導委員会で、鴻臚館跡の全体的整備方針について下記の内容 で了承を受けた。

- ①「舞鶴城址将来構想(中間取りまとめ)」の下で、福岡城跡全体の整備計画と整合性を持たせな がら実施して行く。
- ②当面の整備課題である平和台野球場南側(旧テニスコート)部分を第Ⅰ期整備とし、平成7年8 月23日開催予定のユニバーシアード大会までに整備する。
- ③平和台野球場撤去後の発掘調査に基づく整備を第11期整備とし本格的に整備を行う。

全体計画は今回の第Ⅰ期整備と将来の第Ⅱ期整備を含めた鴻臚館跡推定範囲全体の整備計画である。 本格的整備をめざす第Ⅱ期整備は、平和台野球場撤去後の発掘調査を踏まえて計画の検討を行い、そ の間、遺跡そのものの調査と保存整備に関わる調査研究を進めて行く方針である。鴻臚館跡の整備に おいて最大の課題は、遺跡整備そのものをどのように行うかということはもちろんのこととして、郷 鶴城址将来構想で示された方向に沿いながら、鴻臚館跡を包含している福岡城跡との調和をどう図っ て実施するかという点である。第II期整備ではその点を踏まえながら、基本構想から製作・施工、完 成まで約10ケ年をかけて実施する予定である。

## (2) 第 I 期整備の位置づけ

今回の第I期整備は、鴻臚館跡の全体計画において、第II期整備が着手され完成するまでの暫定的 な仮整備という位置づけで実施した。これは、整備対象地が鴻臚館跡推定範囲のごく一部であり、鴻 臚館跡の主要部分が平和台野球場部分に包含されていることから、全容解明には相当の時間を要する と考えられることと、これまでの調査成果をわかりやすい形でなるべく早い時期に公開すべきである 等の理由による。

第Ⅰ期整備と第Ⅱ期整備のそれぞれの方針は表2のようになる。

	整備目的	整備の手法	整備対象地	実施 期間
第 1 期 整 備	1. 遺構・遺物の保存(前提条件) 2. 平成 4 年度までの調査成果の公開 3. 体系的理解が得られる仮整備 4. 第 II 期整備への足掛かりとなる 実験的整備をめざす	1. 展示館の新築 2. 展示館内に礎石建物 の原寸大模型の設置 3. 展示館外での3時期 の遺構表示整備	平和台野球場南側 (約7,000㎡)	平成 5 ~ 7 年度 5 年度 実施計画策定 6 年度 新展示館建設 館外遺構整備 7 年度 建物模型製作
第 II 期 整 備	<ol> <li>遺構・遺物の保存</li> <li>鴻臚館跡の本格的復元</li> <li>アシア文化交流史研究の場の形成</li> <li>福岡城跡との一体的な史跡整備を図る。</li> </ol>	1. 当時の材料と工法を 用いた鴻臚館跡の本 格的復元。 2. 研究施設等の充実 3. 遺構表示の整備。	平和台野球場および 第 I 期整備対象地を 含んだ約35,000㎡を 対象とする。	平和台野球場移転後 の発掘調査を踏まえ 実施する。 平成24年度前後に完 成予定。

表2 鴻臚館跡整備方針(第I期·第II期整備)区分

# 表3 鴻臚館跡調查整備事業中期計画表

						VE. 18.0. V. 15.0.		1. 215 1 4				
y.	年 度(平成)	3~4 年	5年 1993		7年 1995			10年 1998	15年 2003	20年 2008	24年 2012	備考
舞鶴城址将来構想 短期計画 (10年) 鴻臚館跡第 1 期整備 三ノ丸庭園 4・5 号濠 潮見櫓・花見櫓復元 下の橋復元 中期計画 (20年) 二ノ丸御花苗 鴻臚館跡本格的復元整備 大手門復元 上ノ橋復元 6 号濠 城内施設移転事業			([4	日立病性	完・テ	ニスニ	1	<ul> <li>平和</li> </ul>		年度)	多重式)	平成3年5月に提言 平成7年度完成 平成6~9年度 国立病院跡地購入
鴻臚	館跡調査整備計画											
発掘調査	第1期調査 (田テニスコート部分) 第2期調査 (西広場部分) 第3期調査 第4期調査(野球場南半) 第5期調査(野球場本半)											昭和62年~平成4年度第1期整備対象地 第1期整備対象地 平和台野球場周辺 平和台野球場撤去後に 着手
整備	第1 四整備(仮整備) 第1 即整備(本格的整備)							(基)	 水構想~5	6成まで10年	压滑顶)	球場南側の仮整備 第4・5期調査成果を 踏まえた本格的整備



図12 舞鶴城址将来構想イメージ図

# III 第 I 期整備計画

# 1. 第 I 期整備の組織と構成

第Ⅰ期整備は鴻臚館跡調査研究指導委員会の指導を受けながら、下記の体制で実施した。

(1) 鴻臚館跡調査研究指導委員会の構成

**東京女子大学名誉教授** 委員長 平野邦雄 国史学 副委員長 九州大学名誉教授 横山浩一 考古学 委员 大阪府文化財調査研究センター理事長 坪井清足 考古学 前奈良国立文化财研究所長 鈴木嘉吉 建築史学 福岡大学教授 小田富士雄 考古学 奈良国立文化財研究所長 田中 琢 考古学 九州大学教授 西谷 正 福岡県文化財審議会委員 渡辺正気 考古学 岡山大学教授 狩野 久 九州歷史资料館副館長 石松好雄 考古学 福岡大学教授 川添昭二

> 九州芸術工科大学教授 杉本正美 造園学 学習院大学教授 笹山晴生 国史学 瑞穂短期大学教授 澤村 仁 建築史学 山口大学名誉教授 八木 充 国史学 京都造形芸術大学教授 中村 一 造園学 東京大学助教授 佐藤 信 国史学

工学院大学教授 渡辺定夫 都市工学

(2) 平成5・6年度の体制

(3) 平成7年度の体制

調査・整備主体 尾花 剛 福岡市教育委員会教育長

> 後藤 直 文化財部長

考古学

国史学

国史学

整備総括 文化財整備課長 古西慜輔 庶務粗当 管理係長 後藤暗一

管理係 菅原善則 林 国広

調査・整備担当 田中器夫 文化財整備課主査

文化財主事 溜本正志

展示館設計協議・施工管理 福岡市建築局営繕部営繕課 福原正夫 館外遺構表示設計・施工管理 福岡市教育委員会施設部用地課 松本伸三郎

展示館設計 株式会社志佐設計 代表取締役 志佐幾範

展示館施工 吉松建設株式会社 代表取締役 吉松 修 展示館電気・消防設備施工 共博電気商会 代表取締役 森上弘次

展示館給排水設備工 有限会社山田設備設計事務所 所長 山田末男 展示設計・施工 株式会社ケンラン社 取締役社長 金子寿和

復元建物・模型設計 株式会社京都科学 取締役社長 宅間 茂 館外遺構整備設計 財団法人九州環境管理協会 理事長 高島良正

館外遺構整備施工 株式会社愛廣園 代表取締役 古賀広記

整備主体 福岡市教育委員会教育長 尾花 剛

文化財部長 後藤 直

文化財部文化財整備課長 柳田純孝

庶務担当 管理係長 後藤晴一 管理係 林 国広

整備総括 文化財部課長(史跡整備等担当) 塩屋勝利

調査・整備担当 主查 田中壽夫

建物模型製作 株式会社京都科学 取締役社長 宅間 茂

# 2. 第 I 期整備計画策定の経過

整備計画発案から計画策定・完工までの期間は約3ヶ年を要した。その間の計画策定作業はおおむ ね以下のような段階的検討過程を踏まえて行われた。

# (1) 整備発案および構想の段階

第 I 期整備は、平成 4 年度第 1 回指導委員会において整備の方向付けがなされた。平和台野球場移転と跡地調査後の本格的整備まではかなりの時間を要すことが考えられることと、展示館内の遺構展示のみでは市民にとってわかりにくいといった理由によるものである。委員会では整備方針や手法についての検討を進めることと、具体的な検討を行うための小委員会設置が決定された。

これを受けた同年7月の小委員会で館外整備案(7案)について検討を行い、同年度11月30日の第2回指導委員会に、復元建物の復元イメージ案と小委員会で絞り込まれた館外の遺構整備案を提示し、整備の基本的構想がほぼ確定した(19・28・34頁)。

## (2) 基本計画および実施設計の段階

平成5年5月18・19日の第1回指導委員会において、整備基本方針案(表2・5)を提示し了承を受けた。整備計画策定では福岡城内の利用者の動線傾向も踏まえ、各整備項目の検討を小委員会で行うことと、展示館は建て替える方向で検討する旨の指導がなされた(19・20頁)同年7月9日には、市民球場基本構想検討委員会から「平和台野球場の代替え球場を平成13年度頃までに建設のメドを立てる」趣旨の構想が提出され、鴻臚館跡の本格的整備へ向けての中期的計画を策定し(表3)、第1



図13 指導委員会審議風景

期整備完了を平成7年8月に予定のユニバーシアード大会開催前までとした。

同年9月9日の小委員会では、展示館新築案(3案)、建物模型製作案とスケジュール、館外遺構整備案(3案)について検討し(21・35頁)、基本計画の絞り込みを行った(37頁)。また舞鶴公園管理者の都市整備局と所有者大蔵省九州財務局へ整備案を説明し、土地利用計画について了承を得た。

同年12月7・8日の第2回指導委員会では、展示館基本計画案と館外整備案について検討課題を残しながらも大筋で子承を得て、展示館および館外遺構整備の実施設計を早急に進めることとなった。なお、整備に関する文化庁との協議を踏まえて、館外整備案のうちの東門と塀の遺構表示に噴水を使用する案については実施設計の見直しを行った(38頁)。

平成6年度第1回指導委員会で各実施設計案について提示し、展示館内の遺構保存の観点と遺構表示上の問題について最終的な指導を受け、設計案の一部修正を行った。また復元建物模型を遺構上に

どう架構するか提案し、模型の重量軽減 化と架構方法について検討する旨の指導 を受けた。建物模型の設計は同年10月か ら開始し、平成6年度第2回指導委員会 で素案の了承後、鈴木嘉吉氏・澤村仁氏 の監修下で平成7年3月に終了した(29 頁)。

こうした設計検討を経て、展示館建替 工事が平成6年10月8日から、遺構整備 工事が同年12月10日から、建物模型製作 が平成7年1月から始まった。

等 6 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	5 年度	6 年度	7 年度
整備基本方針	• 5 11		
展示館建替協議			
展示館設計	10)]		
展示館施工		1011	3 112511
遺構整備設計	8 11		
遺構整備施工		11)]	— 4 H 15 H
建物模型設計			
建物模型製作		1 11	<del></del>
展示設計・製作		-	<b>—</b> 8 H 9 H

表4 各整備項目実施経過概要表

# 3. 第 I 期整備計画の内容

## (1) 計画の概要

第 I 期整備は平和台野球場が撤去後の本格的整備までの当面の仮整備として計画が策定された。整備対象地は昭和63年度~平成 4 年度にかけて調査された野球場南側(旧テニスコート)部分である。整備面積は周縁の福岡城土塁も一部含んでおり、約7,000㎡である(図54~56)。

整備計画は、展示館の建替え、原寸大の建物模型の製作設置、筑紫館から鴻臚館までの3時期に分かれる建物群の遺構整備が主な内容である。これらの実施にあたっては表5に示した基本方針を前提として計画策定を行った。策定作業における問題等については整備計画の各項目別に記している。

旧展示館は、アジア太平洋博覧会の仮設のミニパビリオンとして平成元年3月に開館したもので、 公開施設の充実を図ること、耐用年数、周辺景観との調和等の諸点から建替えることとした(20頁)。

原寸大建物模型の製作設置は、展示館内における展示手法の見直しという観点から、古代の建築物についてより実感しながら学べるように、昭和63年度~平成元年度調査で確認された平安時代の礎石建物を対象に、その一部について復元を試みたものである。ただし本格的な復元ではなく、9世紀半ば~10世紀代の一般的な古代建築の様式・建築技法を模型仕様で示した(図42~45)。

遺構整備は、筑紫館から鴻臚館までの3時期に分かれる建物跡の変遷を平面的に遺構表示したものである。整備地を東西に二分し、東側を奈良時代、西側を平安時代として時代差を表現している(37頁)。

	<b>数3</b> 的1例整调//								
	項	Ħ	内	容					
			平成6年10月脊工、平成7年	年8月10日全体完成。					
		Ì	5 年度 実施計画策定(新展示館設計、館外遺構整備設計)						
			6 年度 新展示館建設、展示設計・製作						
	整備実力	E JULIUI	館外遺構整備工事						
			建物模型基本実施設計・一部製作						
			7 年度 建物模型製作						
	総事	業	約3億3,000万円						
	公 朋	別 始	平成7年8月10日(木)開館	>					
	整備対	象地	平和台野球場南側旧テニス	コート部分及び福岡城土塁の一部。					
	整備	面積	7,000m (展示館も含む)						
	基本的前	提条件	遺構・遺物の保存を最優先させ、計画・施工において万全を期す。						
			1. 平成 4 年度までの調査成果の公開を行う。						
	整 備	方 針	2. 鴻臚館に関する体系的な理解が得られる整備を行う。						
			3. 第II期整備(本格的整備)の足がかりとなる整備を行う。						
	構造	と規模	トラス構造平屋寄棟造り、床面積937.5㎡、高さ約14.977m						
展示			1. 平安時代の建物の一部を原寸大に復元した模型を設置。						
小  館	館内	展示	2. 発掘調査終了の状態で遺構・遺物を露出展示。						
H P			3. 鴻臚館に関する展示パネル、模型、出土遺物を体系的に展示。						
	平面	区分	東側を奈良時代のステージ	、西側を平安時代のステージとし、30cmの					
館	<b>—————————————————————————————————————</b>	区 勿	比高差をつけ、時代差を表現。界線はコンクリート階段で示す。						
外	時期	対象遺構	整	備 の 内 容					
遺	第1期	東 門	基壇範囲の復元・塀布掘	柱跡・塀中心線は木材で表示。東門基壇					
1	遗 構	塀	地業・柱跡の表示	は真砂土舗装による推定範囲の平面表示。					
構	第2期	摒立柱	柱穴跡・建物範囲の表示	柱穴跡は木レンガ、建物範囲は真砂土舗					
整	遗 構	建物	1工八四、大田1の単四の17大八	装による平面表示。					
備	第3期	礎石建物	礎石・基壇の復元表示	礎石は自然石で、基壇は真砂土舗装で平					
	遺 構	WE/LIXE101		面表示。(建物模型との連続性を配慮)					

表5 第1 期整備の概要

## (2) 整備事業費

第 Ⅰ 期整備の事業年度は、平成 5 年度~ 7 年度の 3 ケ年度である。

平成5年度は、展示館および館外遺構整備の実施設計を行った。平成6年度は、展示館建替工事、 館外遺構整備工事等を行い、平成7年度は原寸大の建物模型の製作設置を行った。

平成6年度および7年度は、自治省地域総合整備事業「まちづくり特別対策事業」として採択され、支援措置として事業費の52.5%の充当率の起債支援を受けて、予算措置を図った。

「地域総合整備事業債」制度は、地方公共団体の創意で自由に行う単独事業に対して、実質的に1/3国庫補助と同等の財政支援が受けられるもので、一般の起債充当率よりも低い充当率のために、事業年度の一般財源所要額が大きくなるが、一般単独事業にはない元利償還費等に対する交付税措置があるために、長期的には地方公共団体の財政負担額が軽減される特徴がある。したがって、今回の鴻臚館跡の整備事業にあたって、起債支援を要望したものである。

ちなみに福岡市における選定基準は、

- ①市民が望む地域のシンボル、顔づくり、将来の財産となる事業であること。
- ②事業規模が大きく、マチづくりに与える影響が大きな事業であること。
- ③地域の特性を活かし、個性的・独創的な事業で、福岡市の都市政策を牽引する事業であること。
- ④他の制度を利用するより当制度を活用する方が有利な事業であること。
- ⑤将来にわたって財政負担の増加や市職員の増員が見込まれない事業であること。

などであり、要望にあたっては、「セントラルパーク構想の一環として鴻臚館跡の一部復元整備を行い、都市づくりの核となる文化環境形成を図り、地域文化の向上を担う」ことを目的として「鴻臚館跡復元・周辺環境整備事業」とした。なお、平成7年度に開闢した国史跡板付遺跡の整備事業の一部についても「歴史と交流の広場板付史跡公園整備事業」として適用支援を受けている。

	年度別	平成5年度	平成 (	年度	平成7年度	合 計(円)
	<b>小菜費目</b>	(円)	起債対象額(円)	対象外額(円)	起债対象額(円)	(E) H (F4)
5	新展示館実施設計費	5,000,000		•		5,000,000
年度	館外遺構整備設計費	7,000,000				7,000,000
	指導経費 (事務費)		500,000			500,000
	覆屋解体・建設費		98,000,000	9,000,000		107,000,000
_	火災報知機工事費		1,400,000			1,400,000
6   年度	建物模型实施設計費		7,000,000			7,000,000
177,00	展示実施設計費		1,330,000		ļ	1,330,000
}	館外遺構整備費		110,000,000			110,000,000
	展示製作費		6,268,000	9,402,000		15,670,000
7	指導経費 (事務費)				500,000	500,000
年度	建物模型製作費				77,644,000	77,644,000
	小 計		224,498,000	18,402,000	78,144,000	
	年度別合計	12,000,000	242,90	00,000	78,144,000	333,044,000

表6 鴻臚館跡第1 期整備事業費当初予算および財源内訳

財源内缼総括表

内訳		年度	平成6年度	平成7年度	合	<b>\$1</b> .
起	 - 债	<i>\$</i> 76	118,000,000円	41,000,000	159,000	ווומממ
) PE	頂	額	(224,498,000円×52.5%)	(78,144,000円×52.5%)	159,000	
市一	般財	源額	124,900,000円	37,144,000]1]	162,044	,000円
合	}	計	242,900,000円	78,144,000円	321,044	,000円

# (3) 全体計画

### 1) 第 I 期整備対象地の整備前状況

整備対象地は、福岡城三ノ丸東南隅郭に位置している。

江戸時代にはこの地は黒田藩家老職を務めたこともある大 音家の屋敷地である。廃藩置県後田陸軍に接収されて、第24 連隊の弾薬庫、被服庫として利用された。福岡城土塁の一部 は弾薬庫建設の際に、防風堤として改変を受けている。戦後 は、昭和23年~32年にかけて建築された平和台野球場、外周 管理道路、テニスコートとして利用された。鴻臚館関連遺構 は、この際の工事による破壊が最も顕著である。

昭和63年度からの発掘調査開始時には、テニスコートの他便益施設としてトイレ、更衣室、観戦席、休憩用藤棚などが設けられ、周囲にはネットフェンスが巡っていた。明治期以降のこれらの諸施設は図面上に記録化した後に除去した。鴻臚館関連および江戸期の遺構と遺物の一部は、将来の再調査と整備に備えて保存上のしかるべき処置(盛土)を施した後に調査終了後埋め戻し更地とした(図14)。

#### 2) 周辺の環境

第 I 章で述べたように、鴻臚館跡がある福岡城跡は福岡市都心部の天神から西へ約 I k m隔てた地点に位置している。周辺は土地の高度利用が進み、中層~高層ビルが林立している中において唯一豊かな緑が残る環境となっており、都市公園法に基づく風致地区にも指定されている。またこの地は油山から博多湾に向かって延びる緑地と博多湾岸に沿って点在する公園緑地との交点ともなっていることから、セントラルパークとして位置づけられており、現在その構想の実現が推進されている。

この福岡城跡は舞鶴公園と一般には呼ばれており、休日になると市民の散策、憩いの場として親しまれている。隣接する文化施設には、福岡市美術館、日本庭園、県立能楽堂などがある。またスポーツ施設として、平和台陸上競技場、平和台野球場、球技場、テニスコート等があり、本市のスポーツ振興の一翼を担ってきた。これらの諸施設を含んだ公園の年間利用者は、昭和63年度の統計資料では約230万人(有料施設利用者175万人、プロ野球観戦者55万人)である。利用者が多いのは、この地が都心部に隣接していることと共に、地下鉄やバス等の公共交通の便が良いことにもよる。

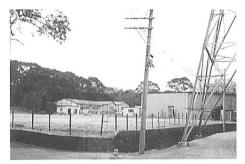


図14 整備前現況(北東から)



図15 整備前現況と周辺(北西から)

## 表7 旧展示館入館者数年度別動向

年 度	入館者数	備考
昭和63年度	15,653人	1611 [8]
平成元年度	113,937	よかトピア開催
" 2年度	46,725	
" 3年度	41,216	
n 4 年度	37,869	
″ 5 年度	28,581	
<b>″</b> 6年度	0	新築工事のため休館

表8 調查日別利用者数(昭和63年)

場所	9月13日(火)	9月18日(日)	11月13日(日)	11月15日(火)
舞鶴公園	4,284	4,946	10,023	4,329人
大濠公園	8,608	14,416	15,593	7,154人
合 計	12,892人	19,362人	25,616人	11,483人

表9 推定年間利用者数(昭和63年)

場所	利	用 者 数
舞鶴公園	約230万人	※月75万 (有料施設利用者数を含む) ※月55万人 (プロ野球観戦者)
大濠公園	約310万人	
合 計	約540万人	

## 2) 全体ゾーニング計画

鴻臚館跡の整備計画策定にあたって、舞鶴公園内の利用者動線を検討した。資料は「舞鶴城址将来構想」作成の際の調査資料を参考とした。舞鶴公園利用実態調査は、昭和63年9月13日(火)、18日(日)、11月13日(日)と15日(火)の7時~19時の間、舞鶴公園と大濠公園において計4回実施された。調査内容は利用者数、利用の形態、目的、頻度、将来整備の要望である。

利用形態等の調査結果は省くが、4日間の利用者の公園内での動線は図16のような傾向である。 すなわち、東西軸、南北軸を中心に二ノ丸およびその周辺施設等に広がっている。東西軸は主とし

これらの傾向を踏まえて、 今回の整備対象地では、主と して東西軸の赤坂・大手門方

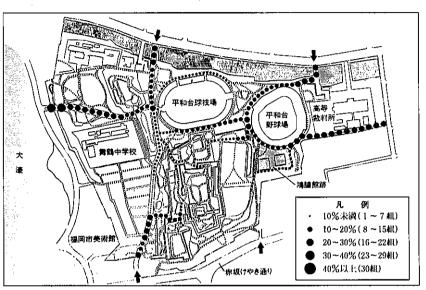


図16 舞鶴公園(福岡城跡)内利用者動線図

而および美術館・大濠公園方面からの利用客の導入を配慮し、整備地の北面を正面として、展示館入口をメインゲート、館外遺構整備部分の北東隅と南西隅をサブゲートと位置づけ、整備地内の動線検討の基本要素とした。

なお、鴻臚館跡の南側(通称けやき通り)からの利用を促すための案内板の設置や入口部分の整備を図る必要性が考えられたが、これについては福岡城跡の全体的な整備計画において配慮すべき内容であるために、将来の周辺環境整備の課題とした。

次に、整備地の動線概念は 図17のように考えた。今回の整備の 3 つの要素である展示館内復元建 物模型と露出展示部分、館外の整備された表示遺構、継続して実施されている発掘調査現場をどのよ うに有機的に結びつけるかを概念的に図化したものである。この概念図を具体化したものが図18であ る。

整備地は展示館内をのぞいて基本的には自由動線とし、3ケ所の入り口から自由に出入りができるものとした。誘導的な動線ではないために動線概念図のとおりに利用者が動かない場合もありうるが、展示館を起点として、「鴻臚館の概要を知る」→「露出展示遺構を見学する」→「原寸大建物模型から当時の建築様式と規模を実感する」→「館外の表示遺構から施設の広さと建物の変遷を知る」→「整備地全体を鳥瞰する」→「発掘調査現場で調査のようすを見学する」といった段階的な知的体験を利用者が得られることをめざした。

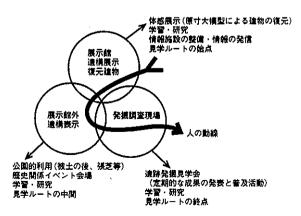


図17 動線概念図

図18 整備地内における動線およびゾーニング計画

FI 02

憩いの広場

メインエントランスゾーン

サブ エントランス ゾーン

展望散策のゾーン

その他

遺構表示ゾーン

主たる整備対象地

展示館

### (4) 展示館建替計画

# 1) 建替に至る経緯

旧展示館(図19)は、平成元(1989)年3月に開催された アジア太平洋博覧会において、鴻臚館の遺構・遺物を発見時 の姿で展示公開するために建設された仮設建物であった。展 示にあたり、露出したまま展示することから、遺構、遺物の 保全のために鉄骨トラス構造の覆屋を設置し、建物基礎・見 学用通路は遺構上に厚さ60cm程の砂等による盛土を行ない建 築した。当初の設置期間は博覧会期間の6ヶ月間であったが、 博覧会開催中の入場者数が10万人を超える反響や、継続展示 の要望から設置期間を延長することとなり、1990年度には常 設施設となった。その後、年間4万人前後の入館者を数え、 福岡市を代表する観光施設の一つとして定着していた。

しかしながら、1992年以降は屋根、壁などに傷みが進行し、 随時補修を行っていた。また、6ヶ月の予定で設置されたの で、建物の骨格材の大半は中古品が使用され、建物の耐用年 数も明確にしがたい状態であった。

1993年の整備計画策定の中で、展示館内に設置する建物模型を棟も含めた完全な形で設置することに決定したが、建物模型を原寸大で設置するためには展示館の屋根を高くする工事が求められた。このため、表11に示す改築と建替の3案を検討することとなった。



図19 旧展示館

## 表10 田展示館建物概要

基 礎	コンクリートベタ基礎
本体構造	鉄骨立体トラス構造 平屋造り 箱形
延 面 積	880 m²
屋根壁仕様	折板葺き
(6 JH	ベージュ
建物高	7.071m

表11 新展示館建築案対比表

(工事期間はいずれも2カ月を予定)

1/.1	C de Hir dif	工 事 内 容				利 点・問題点
案	E 事 概 要	外 観	規 模	平面形	天井高	T1
A 案	改築:現況建物に1スパン(2.8m)の壁 を継ぎ足し、屋根を高くする。 建物骨格:立体トラス(屋根・柱)	箱形	床面積:880㎡ 最大長38m 最大幅28m	不整形	7.2 ł 8.6m	<ul><li>・ 現況建物の骨格部材も引き続き使用するので 建物の耐久性が均一でない。</li><li>・ 外観が周辺の景観と著しく調和しない。</li><li>・ 通路部分をトラスが占め、活用面積が狭い。</li><li>・ 他の建設案に比べて安価である。</li></ul>
B案	<ul><li>建替:建物を撤去し、同位置に同型で屋根を高くする。</li><li>建物骨格:立体トラス(屋根・柱)</li></ul>	箱形	床面積:880㎡ 最大長38m 最大幅28m	不整形	7.2 ł 8.6m	<ul><li>・外観が周辺の景観と著しく調和しない。</li><li>・通路部分をトラスが占め、活用面積が狭い</li><li>・現況建物の基礎を全て再使用できる。</li></ul>
C 案	<ul><li>建替:建物を撤去し、ほぼ同位置に家型で屋根を高くする。</li><li>建物骨格:角パイプ(柱) 立体トラス(屋根)</li></ul>	家形(和風)	床面積:912㎡ 長38m 幅24m	及方形	5 <i>t</i> 10.5m	<ul><li>・外観が景観の福岡城跡と調和する。</li><li>・通路部分等に展示スペースが広く確保できる。</li><li>・現況建物の基礎の73%を再使用できる。</li></ul>

検討の結果、下記の理由によりC案を基本案として採用することに方針決定した。

- 1. 耐用年数からみて2000年までに建替えの必要があり、建替えた方が長期的に見て経済的である。
- 2. 建物模型や館外の遺跡整備をとおして、鴻臚館に対する理解を深めるために、展示の充実を図る必要があり、そのための専用の展示スペースが必要である。
- 3. A、B案は見学用通路が狭く、骨格部材のトラス鋼管が通路側に露出しており、多数の見学者が入場したときにゆとりが無く、安全性に問題がある。
- 4. A、B案は外観が倉庫のようで、恒常施設として周囲の福岡城跡との景観を損なうものである。
- 5. 建設費用の差が、3案において大きな違いを見せない。

#### 2) 新展示館の設計

# a. 基本方針

新展示館には、覆屋としての機能の他に、遺跡の理解を深めるための館内展示と建物模型、館外の 遺構整備の三つの要素を一体化させ、体系的に鴻臚館が学べる施設としての機能を求めた。さらに旧 展示館の問題点を踏まえ、下記の基本方針を策定した。

- ①地下遺構への影響を少なくする。
- ②福岡城跡との景観的調和を十分に配慮する。
- ③展示の充実とゆとりある見学ができるようにする。
- ④館外の整備と館内の展示との連続性が判るようにする。
- ⑤耐用年数は、第II 期整備完了までの20年を見込む。

### b. 平面計画

新しい平面計画には、遺構展示範囲を変更しない点や地下遺構への影響を少なくする等の制限の中で、動線計画の処理、展示・見学用通路の確保、館外の遺構整備とのバランスや連続性の具体化など 5項目の検討課題があった。

- ①旧展示館位置を基調に、長方形の平面形とする。
  - ・旧展示館の南西張出し部分を除き、北東部を矩形に拡張する。
  - ・床面積の88%は旧展示館部分が占める。
- ②館内の遺構展示範囲は変更しない。
  - ・遺構保存のために新たな掘削をしない。
- ③展示スペースを確保する。
  - ・展示館の北東部を矩形に拡張し、壁のトラスを無くし、275.7mmの展示スペースを確保する。
- ④ゆとりある見学用通路の確保。
  - ・旧展示館では通路幅は1.5mであったが、通路幅2.4mを確保する。
  - ・館外の遺構展示と内部展示とのスムーズな動線処理や視覚的一体化を図る。
  - ・動線計画に基づき、北西部に受付、南部と東部に出入口、西部に緊急、資材搬入用口を設ける。
  - ・館内と館外との遺構展示が連続していることや、パネル・模型と館外の遺構とを対比できるように、南部と東部に見透しが可能な広い開口部(出入口、窓)を設置する。
  - ・建物模型を当時と同じ目の高さで見られ、実感できるように2か所に階段、踊場を設ける。
- ⑤受付、管理人室の設置。
  - ・展示館北東部に管理人室を設置した。面積はこれまでの7.2㎡から16.5㎡に広くした。

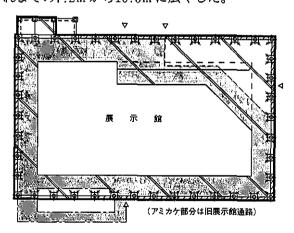


図20 新旧展示館平面形比較図

## c. 外観の設計

展示館の外観は、和風建物とする決定を受け、切妻、寄棟A、寄棟Bの3案を素案として(図21)、デザインの検討を行った。展示館には、西側に福岡城二ノ丸石垣が迫り、移築した祈念櫓や天主台石垣を臨める位置に立地しており、福岡城跡との景観の調和、さらには遺構表示した環境整備のイメージを高めるものにする必要があった。また、野球場撤去後には、展示館建物がランドマーク的存在になることも考慮し、寄棟B案に決定した。

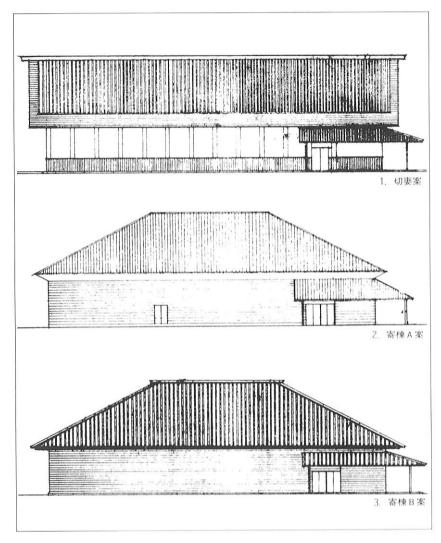


図21 展示館建設外観案比較図

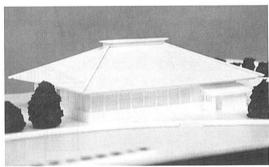


図22 寄棟B案模型

さらに、古建築のイメージを加えることとなり、設計案(図23)になった。しかし、雨水処理、庇 構造、光量、メンテナンス等の問題を検討した結果、図24に変更した。

①古建物をイメージするものの、遺跡に関係するもの(復元建物)と混同させない。

- ・柱は丸柱(径40cm)、柱間を3mとして、一般的な古建築(寺院構堂)のイメージを持たせた。
- ・屋根は本瓦革き風の円筒革き (径14cm) とし、軒先は軒丸瓦に見立てて円形蓋を付けた。
- ・壁は板張りに見立てた折板横張(幅30cm)とした。
- ・壁には疑似梁、高さ1.2mの腰壁、格子窓に見立てた縦型ガラリを配置した。
- ・屋根勾配は、母屋を5寸、庇を4寸とし、安定感を出すとともに、木造建物風を図った。
- ・下棟に反り (R:200m) を持たせ鋼材使用に伴う硬質感の軽減、木造建物風を図った。
- ②外観全体のパランスに考慮した。
- ・軒出が3mの庇を出して安定感を図った。
- ・幅1.5mの棟飾を設け、建物の重厚感を持たせた。
- ・屋根の途中に大型箱樋、庇先に軒樋を設け、呼樋で1本化して内樋として目立たなくした。雨水を軒樋だけで処理する場合は大型軒樋の設置が必要となり、デザイン的に重量感があり過ぎるとともに、古建築のイメージを損なうために、屋根の途中に大型箱樋を設置した。その結果メンテナンス用通路も兼ねることが可能となった。

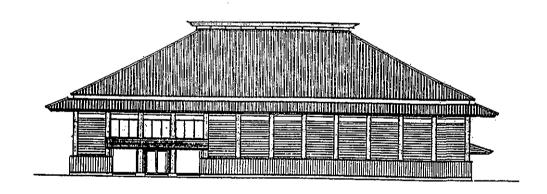


図23 設計当初案

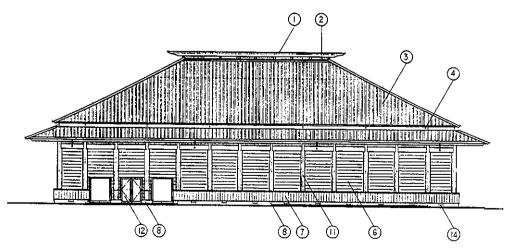


図24 設計最終案

# d. 構造計画

屋根の構造は、既存と同じ『立体トラス構造』とした。壁の構造は既存は立体トラスであるが、展示空間を有効に取るため『柱立ち』とし、復元模型の高さから、軒の高さを床面より6.3mとした。仕上げ材も軽量化のため外部を鉄板葺きとし、内部仕上げは一部のみとした。

基礎の設計については遺構への影響を第一とし検討を重ねた。まず建替え位置が既存と重なるため、既設基礎の再利用を検討した。柱立ち構造とするための柱脚固定が可能な基礎を作る、既設基礎はそのままにし、その上に柱からの加重を処理するのに必要な厚さ50cmの露出型のコンクリート独立基礎を設ける事とした。その部分は新設基礎の73%にあたり、他は遺構面より+10~30cmまで根切りを行った。遺構への負荷は上部加重+基礎加重で3t/m²となる。柱間は3mを基本とし、13スパン×8スパンの架構とした。

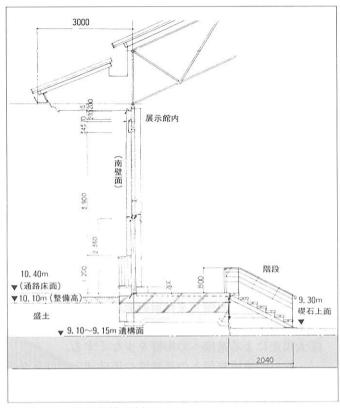


図25 展示館基礎構造断面図

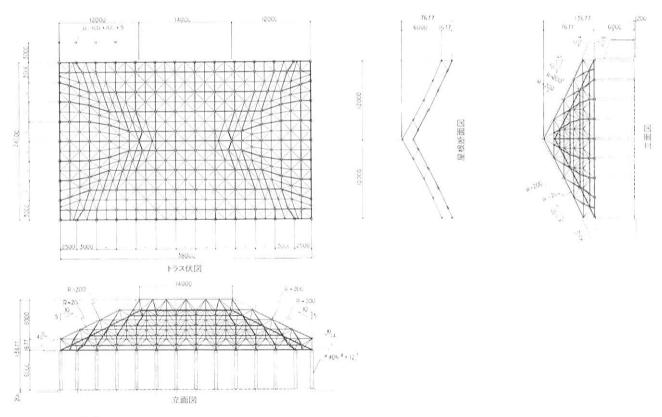


図26 建物構造図

#### e. 色彩計画

大きく展示館内部と外部とに分かれる。内部は、天井がないために建物構造材が露出することから、圧迫感を生じさせないようにするとともに、建物空間の広がりを感じるようにした。外部は、展示館が風致地区内に立地することから、条例に規定された色調で選択する必要があった。さらに、石垣や緑豊かな景観と合致しながら、遺跡の建物を復元したものと誤解を招かないように配慮し、表12のような色彩計画とした。

表12 使用色一覧

简 所	色番号	見 本 色
屋 根	DIC C-228	Les don
軒先膜板 膜板の一部	DIC C- 39	
トラス、柱	DIC C-232	
模擬梁、腰壁 内壁、間柱 胴縁、手摺 外壁、軒天井	DIC C-144	

# f. 遺構保全計画

遺構展示においては、苔、カビ類の発生(高温多雨期)、乾燥による風化(夏季、冬期)が問題化していた。このため、遺構保全の方法として、①周囲からの水の滲み出しの隔絶、②通風の改善を図るなどの指導を奈良国立文化財研究所肥塚隆保主任研究官から受けた。また、大きな要因である太陽光の量を少なくするために、他の計画との調整に配慮した。

- ①太陽光による遺構への影響を少なくする。
  - ・館外の遺構整備との連続性や消防法との関係から窓や出入口の広さには制限があり、完全に太 陽光照射を無くすことはできないが、開口部を最小にして太陽光照射量を少なくした。
- ・開口部のガラスを有色にし、紫外線遮断シート(遮断率85%)を張り、太陽光照射量を押さえた。 ②混気、温度に十分配慮する。
  - ・自然換気を基本とし、床面外壁に通風口、建物軒下と棟に縦型ガラリを設置して、スムーズに 館内の空気が下から上へ流れるようにした。ガラリの開口率は、棟部は台風時などを考慮して 34%、軒下部は50%である。

#### g. 防災計画

展示館本体は不燃物であるが、復元建物模型や展示部門には可燃性の材量が使用されることから、火災、地震等の非常事態が生じたときは、まず入館者を安全・迅速に館外へ避難・誘導する必要がある。このため、消防法の規定に従った設備を設置するとともに、管理人室に情報、操作機器を集中させて事態の速やかな把握と的確な対応ができるようにした。

- ①入館者の安全な避難ができるようにする。
  - ・展示館の7ヶ所に非常出入口と誘導灯を設けた。
  - 非常用放送設備を設置した。
- ②事態の速やかな把握と的確な対応を取れるようにする。
  - ・管理人室に総合操作盤を設置した。
  - ・ 火災感知方式としては空気管式を採用し、天井のトラ スに空気管を設置した。
- ③消防設備の設置においても景観や遺構に配慮する。
  - ・消火栓は、防火水槽設置のために大規模な掘削が必要 であり、施設規模が大きくなるために設置しなかった。

表13 消防用設備

火災感知方式	空気管方式 (天井面)
火災報知機	4 ケ)折
非常出口	7 ケ所
誘導灯	7 ケ所
消火器	3型4ケ所
非常放送設備	スピーカー12ケ所

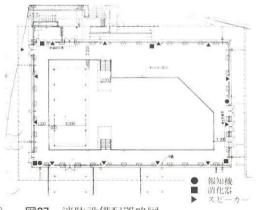
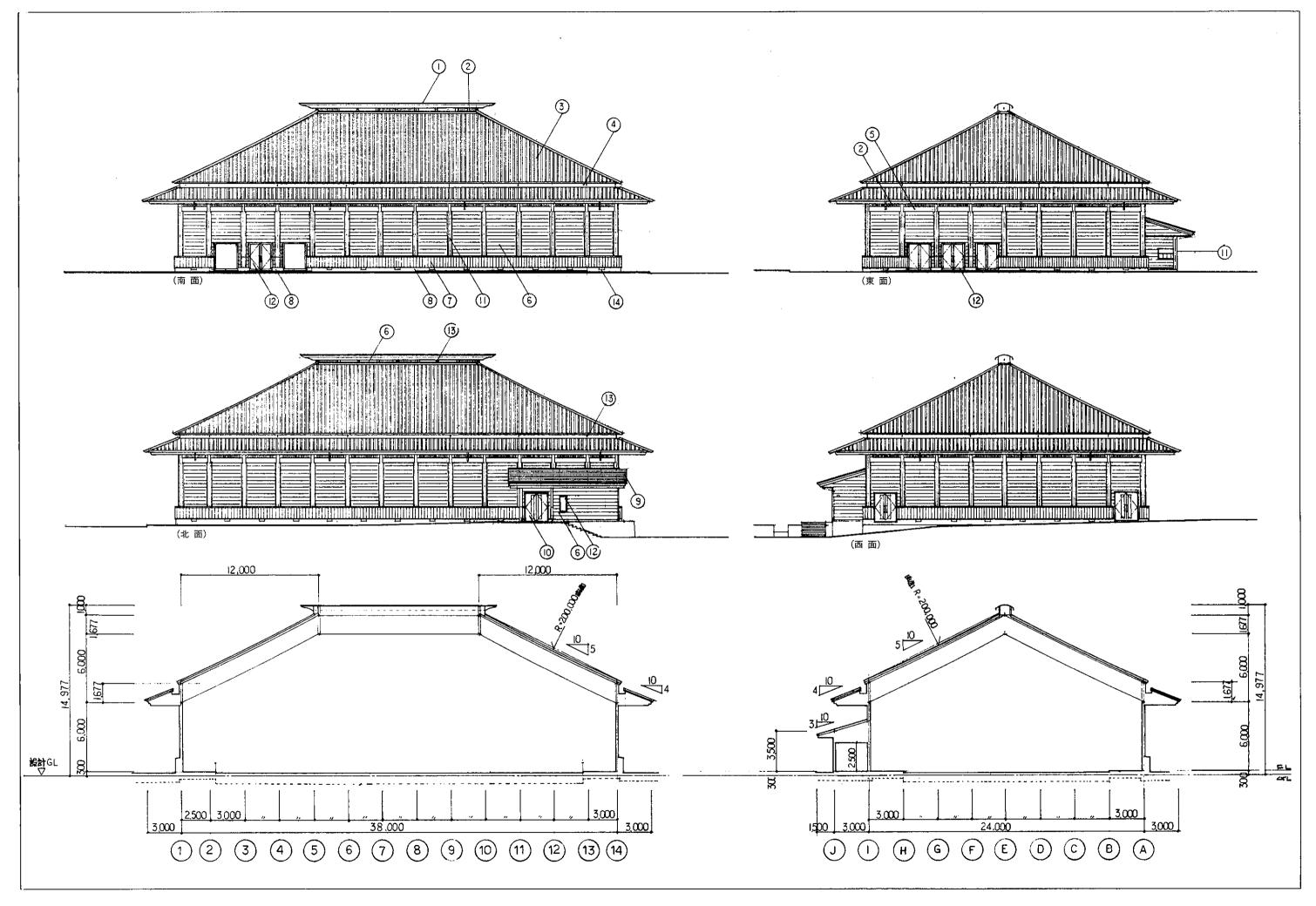


図27 消防設備配置略図



# 表14 展示館建築概要

■建築概要		■構造概要	·
・建築物高	最高の高さ 14.977m	・主要構造	鉄骨造平屋建
	軒の高さ 6.3m	・基礎	独立基礎
·面積	建築面積 1,188.75㎡	・構造材料	柱 :鉄 骨(径40.6mm)
	延べ面積 937.5㎡		屋根:鉄骨立体トラス
			パイプ径48.6~101.6mm
(		1	グローブ径85~260mm
			(エポキシウレタン塗装)
■外部仕上			
・飾 棟	亜鉛鋼板 厚3.2	フッソ樹脂塗装	
・軒・裏	亜鉛メッキ鋼板	t - 0.6	
・軒先膜板	亜鉛メッキ鋼板	t - 0.8	
・呼び樋	カラーVP管 径 75		
· 縦 - 樋	カラーVP管 径 75	•	
・屋 根	本体の屋根:折板亜鉛メ	ッキ鋼板(円筒3	(t-0.8)
	径140	@30 反り	R=200m 指定色
	管理人室の	屋根:亜鉛メッキ	F鋼板(一文字革) t -0.4
・箱樋軒樋	耐酸被覆鋼板	t - 0.6	
・外 壁	折板亜鉛メッキ鋼板	t-0.8 横	張(大和革) @300
・腰板	折板亜鉛メッキ鋼板	t-0.6 縦	張 @200
・幅木	コンクリート打ち放しの	)上リシン吹付	
• 柱 型	亜鉛メッキ鋼板	t-0.8 (褒	貼:無機質ガラス繊維)
・模 擬 梁	亜鉛メッキ鋼板	t -0.8	
■内部仕上			
・展示室	床 :コンクリート金こ	て仕上	
	幅本:コンクリート金こ	て仕上	
	壁 :鉄骨カラー錆止め	塗装装し	
	(一部無石綿珪酸)	カルシューム板 t	-6の上にEP塗装)
	天井:立体トラス表し		
・管理人室	床 :コンクリート金こ	て押さえの上にI	?タイル直貼
	幅木:ソフト幅木Hー60		
	壁 :石膏ボード t ー12	3の上にEP塗装	
	天井:化粧石膏ボード t	<u>-12</u>	
■設備概要			·
・電気設備	照明コンセント設備(非		
・機械設備	給排水設備(管理人室の		
	給湯設備(管理人室のみ		
	空調換気設備(管理人室		
・消防用設備	自動火災報知機(空気管	'方式)	
	非常用放送設備		
	誘導灯、消火器		

## (5) 展示計画

田展示館においては北正面入口周辺と南側見学用通路壁面に説明パネルと若干の遺物を展示していた。通路が幅1.8mしかなく、出土遺物を通路部分に保管していたこともあって、見学には不便な面があった。新展示館は、見学用通路がより広く確保できることから、展示面積は約2倍の275.7㎡に拡張できること、原寸大の建物模型を設置すること、また建物模型を身近に見学できる階段を2ヶ所に設ける等の新たな展示要素が付け加わることとなったために、展示館の建替に伴って展示内容を下記の基本方針および計画の下で一新することとした。

#### 1) 展示方針

- ①展示基本テーマを「鴻臚館とは」とし、鴻臚館に関する体系的な展示内容とする。
- ②展示は遺構露出展示部分と壁面展示部分に分け、展示主体を建物模型と遺構露出展示部分とする。
- ③遺構露出展示部分では、発掘調査が終った状態の遺構と遺物を見学できるようにし、また原す 大建物模型を設置して、当時の建築様式と技術・規模を実感できるようにする。
- ④壁面展示は、動線計画に従いテーマを設定し、テーマ毎のコーナーを設ける。
- ⑤展示内容の段階的な充実を図るために、今後5ヶ年の計画を検討する。

#### 2) 展示計画

①館内展示は表15に示した275.7㎡について検討する

#### ② 動線計画

整備地内動線計画と整合性を持たせて館内の動線計画を作った。基本的には、「鴻臚館の概要を知る」→「調査したままの遺構展示を見学する」→「原寸大の建物模型から当時の建築様式と規模を実感する」→「館外整備で施設の変遷を知る」という流れに沿って利用者を誘導するものとした。

表15 新田展示館展示面積比較表

	建築面	∮i[ ( m² )	展示面積(m)		
	111	耕	111	粐	
展示館床面積	880.0	937.5		-	
遺構展示部分	-	-	538.4	492.8	
建物模型		-		164.7	
館内通路	341.6	444.7	130.0	275.7	
展示用壁面	100.0	252.0	98.3	226.8	

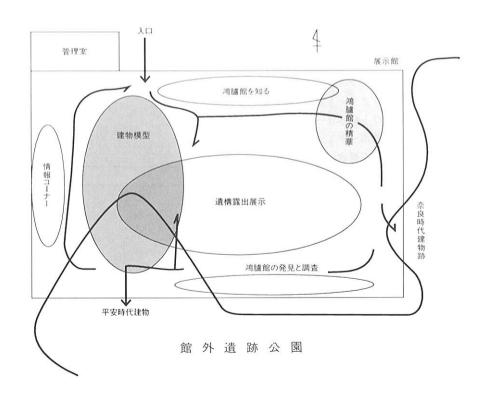


図29 展示館ゾーニングおよび動線概念図

#### ③遺構露出展示部分(展示面積は約492.8m²)

鴻臚館跡の原資料としての遺構を展示館の主要展示とし、当時の建築物の規模と様式等の理解を深めるために原寸大の建物模型を展示する。

#### 4 壁面展示部分の計画

通路壁面の利用して、通路延面積444.7㎡のうち275.7㎡部分を展示対象部分とし、壁面展示を主とした展示計画を策定した。壁面展示面積は226.8㎡である。

展示説明にあたっては、各コーナーにテーマを設定し、それぞれにテーマカラーを設定した(図80)。

- ・コーナー1 (コーナーテーマ「鴻臚館」鴻臚館の概説)
  - 1. 市長挨拶文の中で鴻臚館跡第 I 期整備の経緯、今後の本格的整備についてふれる。
  - 2. 鴻臚館の時代、筑紫館から鴻臚館までの変遷、鴻臚館の役割と機能を説明する。
  - 3. 鴻臚館の地理的位置については、当時と現在の景観の対比ができるようにする。
  - 4. 筑紫館から鴻臚館までの歴史的背景についてイラスト入りの年表を掲示する。
- ・コーナー2 (コーナーテーマ「鴻臚館の成り立ち」律令制度下の鴻臚館、筑紫館から鴻臚館へ)
  - 1. 中テーマに、1)大宰府と鴻臚館、2)筑紫館と鴻臚館を設定する。
- ・コーナー3(コーナーテーマ「鴻臚館の精華」出土遺物から鴻臚館の汎世界性を知る)
  - 1. 中テーマに、1) 交易を物語るもの、2) 陶磁器の道を設定する。
  - 2. 遺物は中国産陶磁器を中心に約100点を展示し、また遺物出土状況レプリカを展示する。
- ・コーナー4 (コーナーテーマ「鴻臚館と遺唐使」遺唐使の概説)
  - 1. 遺暦便の渡航目的と構成、航路について絵図で説明する。
- ・コーナー5 (コーナーテーマ「鴻臚館跡の発見と調査」鴻臚館跡の解明の歴史とその成果を知る)
  - 1. 故中山平次郎博士の人となりと、鴻臚館跡福岡城内脱を紹介する。
  - 2. 奈良時代のトイレ遺構出土遺物と東門と塀の基礎部分の土層剝ぎ取りパネルを掲示する。
- ・コーナー6 情報コーナー
  - 1. 福岡市および周辺の博物館等施設の紹介、ポスター等を掲示し利用者への情報提供を図る。

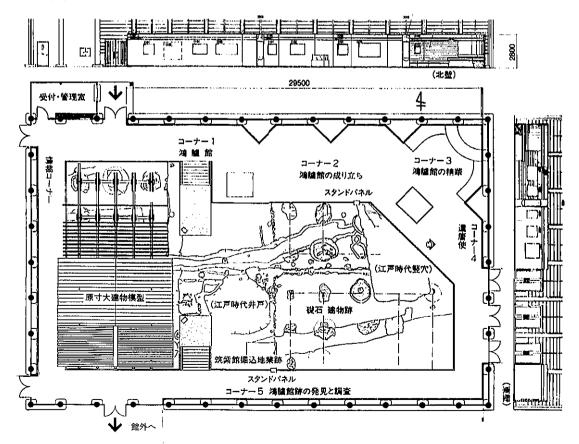


図30 展示館展示平面図および立面図

# (6) 建物模型製作計画

#### 1)計画に至るまで

田展示館内では、三棟の南北棟建物の基壇(図31) や遺物出上状況を露出展示し、各遺構には題箋や遺構 写真に柱や礎石を描いた解説パネルを設置していた。 見学者は遺構と遺物の出土状況には高い関心をしめす ものの、公開の範囲が建物の一部だけであったことや、 建物の基壇部などには礎石や縁石の大半が残っていな いために、全体像や本来の建物の配置・構造について は理解しにくい状況であった。このため、鴻臚館跡の 図31 旧展示館内遺構展示状況 全体像をより理解しやすいように、平成2年に澤村仁 氏が作成した鴻臚館想像復元案 (図32) を基にしなが ら建物跡の展示手法の検討に着手した。設置計画の検 討は、指導委員会内に小委員会を設置し、基本方針を ①展示遺構を理解しやすくする。

②遺構への影響を与えない。 ものとした。

## 2) 基本構想

基本構想は、基本方針を踏まえ、建物遺構の範囲と 展示手法を検討した。対象とする範囲は、平安時代 (第Ⅲ期) の三棟の南北棟建物のうち、西側に位置す る回廊状または子房的建物を対象(図33)とした。西 側の建物に決まったのは、以下の3点の理由による。 ①建物の桁行、梁行の規模が明らかである。②西側の 建物は遺構展示範囲に両側柱筋まで含まれ、建物の全 体構造を示すことができる。(3) 東側建物にした場合は、 建物規模などにより建物の一部に復元が限られる。

展示手法としては、礎石上に柱を吊り下げる案、軽 い素材を用いて遺構上に浮かせて建物を復元し、礎石 がない箇所は透明な材料で復元して根石が判るように する案が提案された。その結果、軽い素材を用いた建 図33 建物復元対象範囲 物を復元する案を採用し、イメージ図(図34)に示し た検討案を提示したが、建物模型の設置目的の「建物 跡の理解を容易にするため」とは反して、展示館の屋 根が支障となり、棟まである建物が復元できないこと が明らかとなった。このため、棟までの完全な建物復 元が、建物跡の理解を容易にさせるとともに、古建築 が実感できる最良の展示手法であるという観点から、 展示館建物の屋根を高く変更して、棟まである建物模 型を設置することとなった。





図32 鴻臚館想像復元図 (澤村仁氏作図)

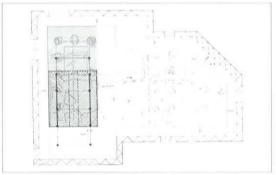




図34 復元建物イメージ図 (素案)

#### 3) 基本計画(平成6年)

「本物の建物跡(遺構)を見せることを第一義として、平安時代の原寸大の建物模型の設置は建物 跡の理解を容易にするための展示手段」と位置付け、

- ①窓や瓦の葺き方など古代の建築が実感できるような実験的復元を行う。
- ②軽い素材を使用し、遺構上に浮かせるようにして遺構に何らかの影響を与えない。

ことを建物模型製作と設置にあたっての基本条件とした。基本計画は建物復元計画と建物を支える基 礎(上台)部分とに分けて検討を行った。

# a. 建物の復元

建物の復元は、発掘調査による基礎資料に制約があっ たことと、時間的な制限があったことから、平安時代 における建物の一般的な建築様式を実感できる建物を 造ることにした。復元対象の建物は、梁行二間×桁行 三間を一房とし、宿房的性格を有するという想定のも とに、現存する平安時代の古建築資料に裏付けられた ものである。建築の設計にあたっては、澤村仁、鈴木 嘉吉両委員の監修で進めた。

#### 表現計画

建物の建築段階の表現は、当初は図36の上段図に示 すように計画していたが、建物の構造や組立ての過程、図35 復元想定平面および東面立面図 さらには館外整備の建物基壇との連続性を示す必要か ら、柱の立上げだけの状態から瓦まで葺いて完成する までを段階的に示す図36の下段の形に変えた。

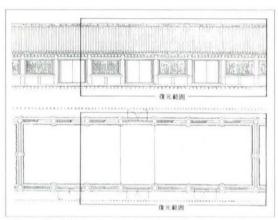
①展示館入口側から柱に斗までを乗せた段階、②棟桁 まで架けた段階、③垂木架、連子窓中柱の取付、壁塗 りの段階、④屋根に瓦を葺いている段階、⑤建物が完 成した段階。

ただし、基壇部は中央部北寄2間の範囲で行う必要 が有るために、完成した建物部分と基壇との位置が異 なることになった。これは後述するたわみ防止のため の基礎工法のつごうによる。

塗装 (朱色・緑色・黄色) する範囲は建物の完成し た範囲とし、未完成部分は自木のままとした。内部に ついては、建物が宿房的性格である想定に従い頭貫ま でとした。色の選定は、既存建築や占建築復元での使 川例を参考にすることにした。

建物の正面と背面とでは機能や用途が異なっている と考えられることから、背面連子窓の取り付け位置を 高くし、縦寸法を正面より短くした。

当時の建築技術や木工技術を示すことは古建築を正 しく理解する上で欠くことができないことから、建物 の完成した範囲の部材 (塗装した部材) の表面はヤリ ガンナ仕上とした。白木の部分については、素材の集 成材の重ね目が見えるのを防ぐために表面を単板張り (厚: 1 mm) する必要が有り、単板の上からの施工は 困難であるのでヤリガンナ仕上げは除外した。



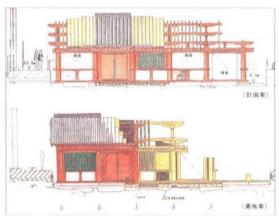


図36 建築表現の変更対比図

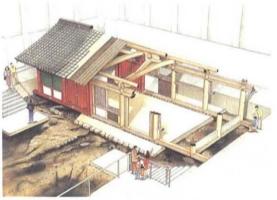


図37 復元建物イメージ図 (実施案)

瓦は、出土資料に基づいて軒瓦、丸・平瓦、面戸瓦、慰斗瓦を製作することにした。使用する瓦は 軽量化を図るために化学樹脂を素材とする複製品とし、軒瓦は実物の瓦から、丸・平瓦は出土遺物の 数値に基づいてそれぞれの親型を製作することにした。復元する平安時代建物の瓦は、他の古建築例 と同様に、建築にともなって新しく造られた瓦の他に、以前の建物に使っていた瓦の中で使用に耐え る瓦も再使用していることが調査成果から明らかとなっている。このため、時代や生産地の異なる瓦 が混在して薄かれている状況を示す手法として、出土遺物を参考に黒灰色系と灰色系、その中間色の 3種類の色の異なる瓦を製作して葬くこととした。

基壇の復元は、基礎材のたわみや遺物出土状況の問題から、中央部北寄り2間の範囲を行う必要が有った。 建物内を土間と想定して、真砂土で遺構面を覆い、レンガ積みで土留めの後に上面を真砂土舗装を行い、基 塩断面をモルタル仕上とした。また、基壇は自然石積 一段であることから、欠失する縁石を複製品で充填す ることにした。

## • 材料計画

建物を無垢の素材で建築した場合の遺構に与える平均加重は、約1.2 t/mである。掘削などの基礎工事が許されない前提条件の中では、新しい素材や工法により最大限の軽量化を図らなければならなかった。さらに、製作期間と予算上の問題や、素材の特質なども考慮した結果、復元材料の大半を集成材や化学樹脂とし、さらに中空とした。白木のまま表現をする場合は、素材の特質から単板張り仕上をする必要が有り、加工痕などの表現には適してはいないが、あえて軽量化を優先させた。

## b. 基礎計画

建物模型を造るにあたって、「②遺構上に浮かせるようにして遺構に何らかの影響を与えない。」とする課題については、吊り下げ式と自立式とを検討した。吊り下げ方式は、①展示館の屋根から鋼線で吊り下げる。②展示館の柱から吊り手の鋼材を伸ばして吊り下げる。③桁材を伸ばして展示館と接合して吊り下げるという方法が考えられたが、展示館建物にはこの工法による加重に耐えるだけの構造ではなかったことと、支保材がかなり露出することから採用しなかった。自立式は、建物の柱を支える礎石の替わりとなるベースを作り、その上に復元建物を設置する方式である。建物模型は建築の順序が判るように棟までの部分から柱だけの部分まであり、構造的に不安定であることから、自立式が適した工法であると判断して採用した。

ベース部分は地覆と重なる位置にH型鋼材を配置し、展示館基礎とアンカーで結合させることによりベース部分を遺構面から浮かせようとした。しかし、建物模型の自重や、15.5mある桁行の長さ等から生じるたわみ、ねじれを解消する必要があった。このため、中央部の盛土した遺構面上に鋼板、鋼板メッシュを置いて加重を拡散させた。また、南側アンカー近くに梁行の鋼材を配置して、たわみ、

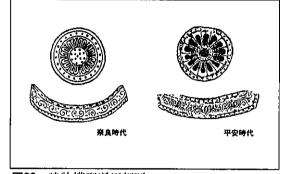


表16 主要部材重量比較表

	材料	形状	派 批	実物重量
柱	集成材	中学	120kg/本	262kg/本
梁	n	"	190kg/本	293kg/本
棟木	"	"	30kg/本	75kg/本
垂木	"		15kg/本	81kg/本
ᅪ	"	"	6kg/個	53kg/個
肘木	"	"	8kg/個	78kg/個
越	合 板	"	38kg/   J	530kg/
框平瓦	FRP	#	0.7kg/枚	6kg/枚
軒丸瓦	"	"	0.5kg/枚	4kg/枚

# ねじれの補強を図った。

建物跡のイメージを容易にするために模型のGLを既存の礎石の上面高に設定したところ、鋼材と 礎石とが接することがわかり、礎石の位置する鋼材の高さを上げ、小規格の鋼材を使用することで問題の解決を図った。さらに、なんらかの影響で鋼材と礎石が直接触れないように厚さ35mmのクッション材を間に配置するようにした。建物と基礎部の一体化については、建物模型の構造面から、柱を強力に固定する必要があることから、各柱位置にベース部のH型鋼材と接合させた角形鋼管に中空の柱を被せる工法を採用した。鋼材の露出を少なくするために、中央部は基壇の復元、他は地覆、長押、地覆石でなるべく隠れるようにした。

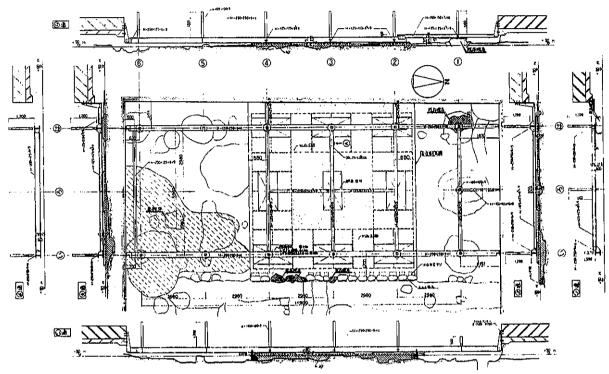
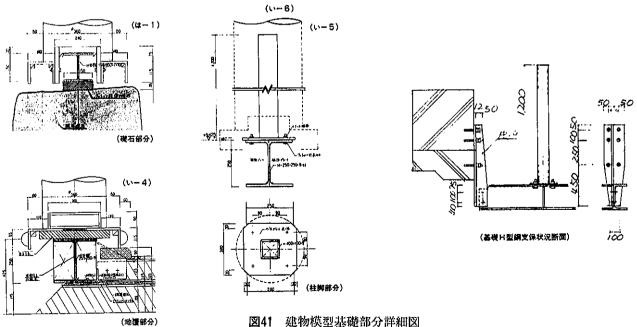


図40 基礎構造平面および柱脚部分断面図



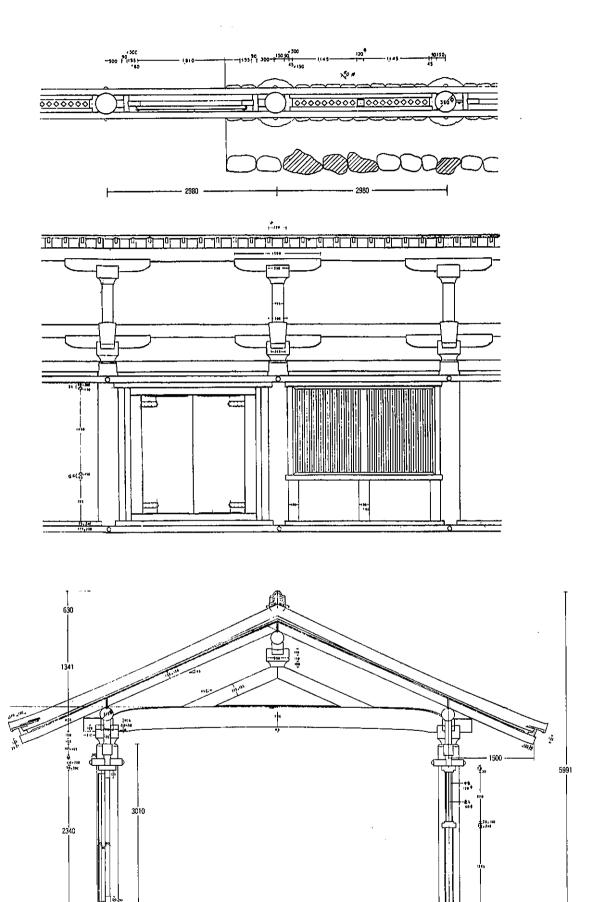
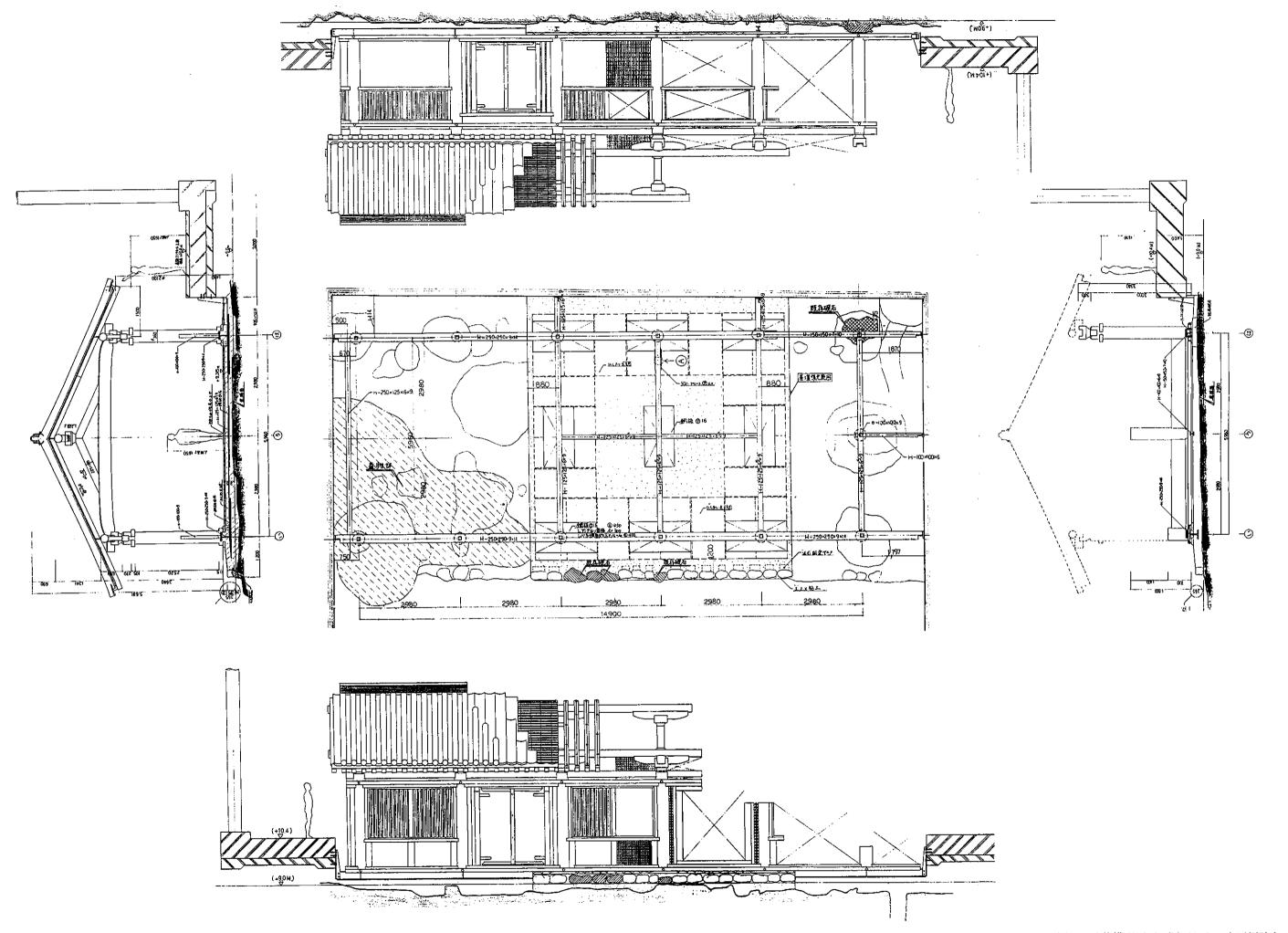
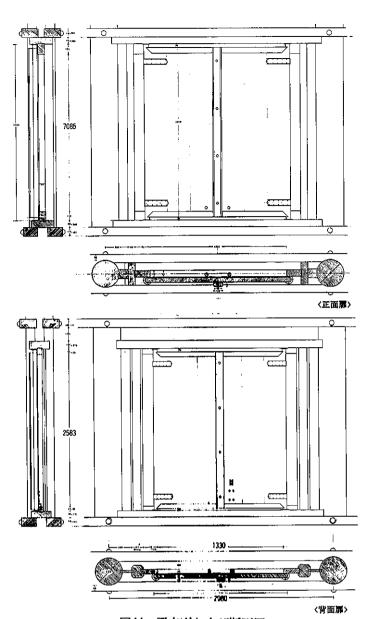


図42 建物復元案部分平面·断面·部分立面図





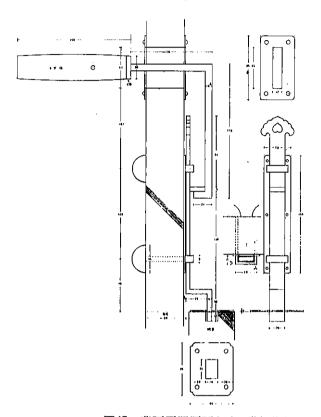


図45 背面原門平面および断面図

図44 原立面および断面図

表17 建物模型製作部材一覧

No.	部位	部材名	秋州	No.	部位	部材名	数量	No.	部位	部材名	数批
1		柱	11.5	15		扉	1	29		まぐさ	1
2		大斗	14	16		まぐさ	1.5	30		蹴放	1
3		肘木	13	17	Œ	蹴放	2	31	背	ガエ	2
4	構	叉首	4	18	1112	方立	4.8	32		連子縦作り出し	4.5
5		梁	4.1	19	顶	辺付け	4.8	33	间	連子子	28
6	造	丸桁	11	20		連子子	27	34	宛	連子縦・横枠	14.5
7		棟木	1	21	(東側型)	連子中柱	2	35	(西側壁)	連子縦・横作出し	14.5
8	st:-J.	頭 <b>냋</b>	8,9	22	操	連子縦・横枠	9	36	继	熨世上下小盤	10.4
9	軸	茅負	4.3	23		連子横作り出し	4.5	37		頭貫上下小盤 →	6.8
10		内法長仰	17.7	24		<b>扉</b> 部小脇壁	3	38		<b>邱部小脇甓</b>	1
11	部	垂木	84	25		迎子下小壁	1.6	39	そ	悠	
12		面土枞	67	26	#	<b></b>	1	40	の	壁下地	
13		地程長师	20.8	27		中柱	2	41	他		
14		半長神	26.8	28	thi	籾目板	2				

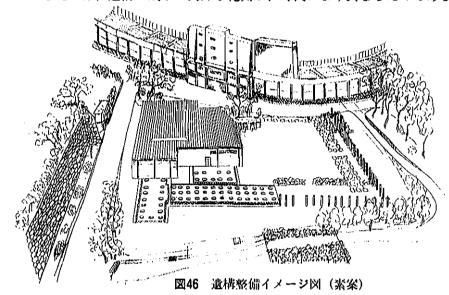
#### (7) 館外遺構整備計画

# 1) 整備計画策定の経過

平成4年度に平和台野球場南側地区の調査が終了するものの、野球場を含めた本格的整備着手までにはかなり時間を要することが予想された。したがって、全体整備に着手するまでの間、当該地区を仮整備し、広く市民に調査成果を公開する必要があり、平成4年度第1回指導委員会において整備の検討が始まった。実施設計に至るまでには、指導委員会、文化庁からの指導、助言を得ながら計画の策定を行った。

# a. 第1段階(平成4年度)

この段階では、検出遺構をもとにした整備素案(図46)を委員会に示した。この素案は、整備地内の既存施設(プレハブ調査事務所、倉庫、便所)は現状のままとし、整備地区の西側を平安時代ゾーン、東側を奈良時代ゾーンとして、建物基準の復元や植栽による遺構表示を行うものであった。2つのゾーンにしたのは、遺構の残りの良好な範囲が、時代により異なるためである。



# b. 第2段階(平成5年度上半期)

この段階で第1期整備基本方針が策定され、正期を1995年度予定のユニバーシアード福岡大会開会 前までに完成させることが決定された。基本方針は以下のとおりである。

- ①地下の遺構に影響の無い工法を取ること。
- ②確かめられた遺構をわかりやすく表示すること。
- ③展示館内と館外整備との連続性を図ること。
- ④第II 期整備にあたっての検討材料として、実験的手法を試みること。
- ⑤憩いの場として活用できる空間にすること。

基本方針を受け、基本設計では、整備地内の利用空間の見直しを図り、時代の異なる三時期の遺構 表示の整備骨子を下記のとおり決めた。また整備計画策定作業を進めるにあたって、指導委員会内に 小委員会を編成し、具体的な検討に入った。

- ・整備地区内においては、遺跡の広がりや視界・動きを妨げる立体構造物の設置をしない。
- ・整備面に段差を設けることによって、奈良時代と平安時代の異なりを表現する。
- ・展示館内と館外における整備地域との遺構の連続性を図るため、仕上がり高は展示館床面との 比高差をなるべく少なくする。
- ・三時期の時代差を明確にするため、遺構の表示素材を時期別に異なった素材を用いる。
- ・第 I 期遺構〔水〕 ・第 II 期遺構〔木〕 ・第 III 期遺構〔石〕

表18 整備A案概要表

整備の	り特徴	基壇復元、^	半立体復元、全体模型の設置
遺構表示の	の平面区分		良時代の面、西半分を平安時 時代差を表現するために約 度をつける。
時 期	対象遺構	材 質	表示の具体的手法
第1期遺構	東 門	石材、木材	基壇、階段、柱
第 1 與D具作	10¢	木材	低い柱と壁
第Ⅱ期遺構	掘立柱建物	植栽	芝種または芝目の差異による建物範囲の表示。柱穴部 はポット植栽を用いた季節 の草花による表示。
第III期遺構	礎石建物	石材	礎石を復元配置

# 表19 整備 B 案概要表

整備。	の特徴	時間差によっ	って空間の見せ方を変える
遺構表示の	9 平面区分	A案と同様4	Oemの比高差をつける。
ILY: JUJ	対象遺構	材 質	表示の具体的手法
第1ヵ日貴権	東 ["]	石材、木材 水の組合せ	基壇、階段、高い丸柱、表面には水を落とす。
第 1 形成的	Jb/	水と配石の 組合せ	界線による基底部の表示。 噴水による柱と塀の表示。
第日期遺構	掘立柱建物	植栽	芝種または芝目の差異による 建物範囲の表示。柱穴は植 栽による大きさと位置を表示。
第田別遺構	礎石建物	木材と石材	礎石を復元配置する。丸柱を 立てる部分は展示館内との連 続性を持たせる簡所のみとする

表20 整備C案概要表

幣備。	の特徴	オーソドック	クスな都市公園的手法である
遺構表示の	の平面区分	A案と同様4	0emの比高差をつける。
H.5: 101	対象遺構	材質	表示の具体的手法
	東 門	石材、木材	基壇、階段、高い丸柱
第1期遺構	孙仁	瓦、木材	一部築地の復元、芯持ち柱 による塀の表示。
第日期遺構	掘立柱建物	植栽、石材	芝種または芝目の差異による建物範囲の表示。柱穴は ベンチとして利用できる石 とする。
第Ⅲ则遗構	礎石建物	石 材	(地石)を復元配置

# 小委員会での検討の結果、

- ①立体的構造物を恒常的に設置した場合は空間 や利用者の行動を限定させてしまう。
- ②均一的な平面表示では3時期の時代差の理解 に混乱が生じる恐れがある。
- ③施設の範囲が明らかとなっている I 期の塀で 画された範囲を①と矛盾しない範疇で表示が できる.

などの点から、エントランスなどの一部変更の余地を残しながら、東側の奈良時代はB案、西側の平安時代はC案を採用し、第Ⅰ期遺構に噴水を利用した遺構表示の手法の検討を進めることとなった。

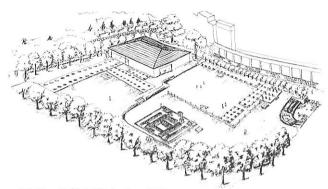


図47 整備A案イメージ図

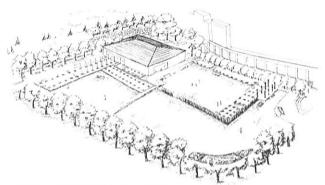


図48 整備B案イメージ図

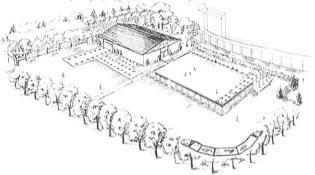


図49 整備C案イメージ図



図50 噴水使用例

# c. 第3段階(平成5年度上半期)

奈良時代の面は平面表示と半立体表示との併用、平安時代の面は基壇部復元の整備案(図51)を策 定した。奈良時代の面における平面表示と半立体表示との併用とは、第Ⅰ期の塀を恒常的に界線等に よって平面表示し、間歇的に噴水(水)を用いて立体表示を行うものである。塀を表示する手法とし て水を採用するに至った検討の過程は表22に示した。なお時代差を表現するための段差は30cmとした。

整備《	り特徴	時間差によっ	って空間の見せ方を変える
遗構表示。	の平面区分		臭時代の面、西半分を平安時 - 時代差を表現するために約 巻をつける。
		材質	表示の具体的手法
第1別遺構	東 門	石材、木材 水と配石の 組合せ	基壇、階段、 界線による基底部の表示。 噴水による柱と塀の表示。
第Ⅱ则遗構	拥立柱建物	水材	建物の範囲や柱穴の大きさ と位置を木で表示。

基壤部の復元。

表21 整備实施計画案概要

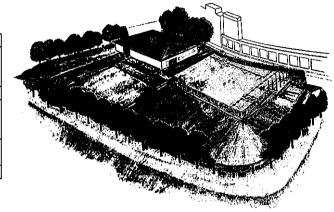


図51 整備実施計画イメージ図

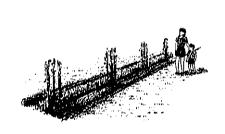


図52 第1期塀の噴水による表示イメージ図

第111川遺構 - 礎石 建 物 石と上

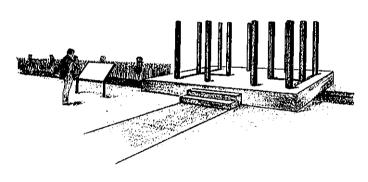
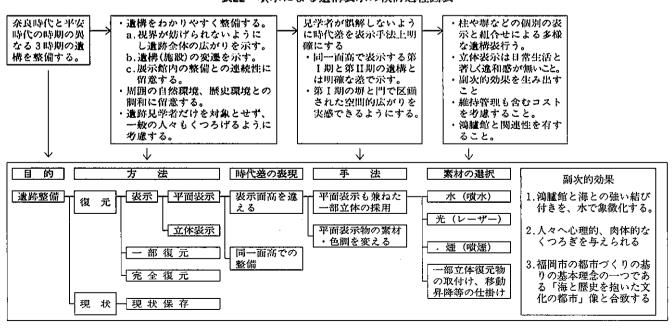


図53 第 I 期東門・塀の噴水と 立柱による表示イメージ図

#### 表22 噴水による遺構表示の検討過程図表



# d. 最終段階(平成5年度下半期)

第 I 期遺構の塀、東門の噴水による表示を木材による平面表示に設計変更した。噴水案を変更した 理由は、

- ①整備原則である「在った所に有ったもの」にそぐわず、現代的な噴水を使用することによって、 当時そこに噴水があったと誤解する恐れがある。
- ②噴水はアミューズメント (娯楽) 的であり、整備の趣旨と噴水選択の理由に整合性が感じられず、遺跡の整備にはふさわしくない。

といった整備における基本的な問題点について、文化庁との協議を踏まえ再検討した結果である。 また、時代別表示のために設けた段差は車椅子や老人の利用には利便性を欠くため、2ヶ所にスロー

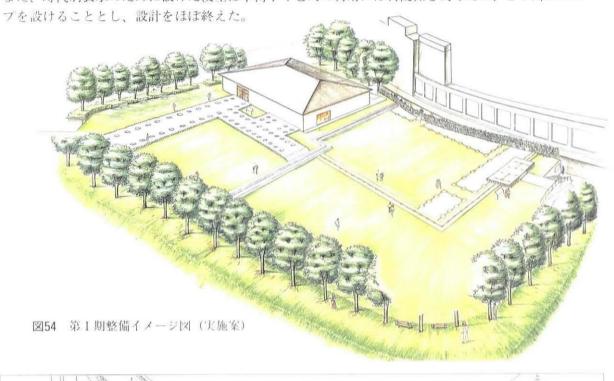




図55 第 Ⅰ 期整備実施計画概要平面図

#### 2) 館外遺構整備計画

# a. 遺構表示計画

- ・表示しようとする遺構は、位置や規模、形態等が明確なものと推定復元のものとがある。明確な遺構は、第 I 期の塀の柱掘方(布掘り)と柱穴、東門の柱掘方(布掘り)と柱抜取り穴、第 II 期の建物遺構の柱掘方、第 III 期の建物基壇幅、礎石および礎石掘付け穴の一部で、推定復元によるものは第 I 期の東門基壇、第 II 期の建物床部範囲、第 III 期の南北棟の基増延長部と、東西棟の基壇幅である。
- ・遺構表示にあたって同じ素材を使用する場合は、色(真砂土舗装)、種類(石、芝生)を違えて時 代差、性格の違いを示した。
- ・遺構の表示材料は自然な業材(石、真砂土、木、芝生)を使用し、遺構と関係の無い構造物(階段、 通路、スロープ)は現代的な素材(コンクーリート、アスファルト、粒石)を用いた。
- ・第 I 期遺構は、東門柱跡および地覆、塀中柱および中軸位置に米松を用い表示。門跡の基壇は真砂 土舗装を行い、推定範囲を縁石で示した。
- ・第11 期遺構の建物は、柱穴掘方を木レンガで、建物推定範囲を真砂土舗装を施した後で表示することとした。なお第 1 期と第11 期の遺構重複部分(来門推定基壇部分にあたる)についての表示計画は、これまでの調査で唯一平面形と規模が確認できている第 1 期遺構を優先することとした。したがって、第11 期遺構上に表示した結果、時代の先後関係が表現上矛盾している。
- ・第Ⅲ期遺構は、基壇を真砂土舗装と練石で復元し、礎石を表示した。なお東西建物については梁行 二間の複解説があったが、単廊で復元した。

#### b. 遺構保全計画

- ・遺構の保存と整備に伴う工事による遺構への影響を少なくするために、整備地全体に遺構面から平均50cmのクリアランス高を設定し、盛土によって遺構の保全を図ることとした。
- ・雨水からの影響を少なくするため、排水計画を十分にした。
- ・造成工事に使用する重機は、通常より軽量、小型のものを用いた。

#### c. 管理計画

- ・管理用通路を南辺部に設置し、維持管理が円滑にできるようにした。
- ・動線計画に従いパイプ棚、ロープ棚を周囲に設置した。
- ・展示館の東と北面には展示館入口につながる粒石舗装の通路を設けた。

#### d. 福祉計画

・展示館および遺跡整備の各出入口、時代別表示のために設けた段差部にスロープや手摺りを「福岡 市公園施設標準設計図集」と「福岡型福祉社会のための環境づくり指針」を参考に設けた。

# e. 排水計画

- ・地盤(遺構埋土)の粘性が高く排水が悪いので、集水桝や透水管を設置し、芝生の表面水や地下水 の排水処理を図った。
- ・側溝は、目立たないように皿形を多用し、土砂の流入が想定される所に限りU形を使用した。

#### f.植栽計画

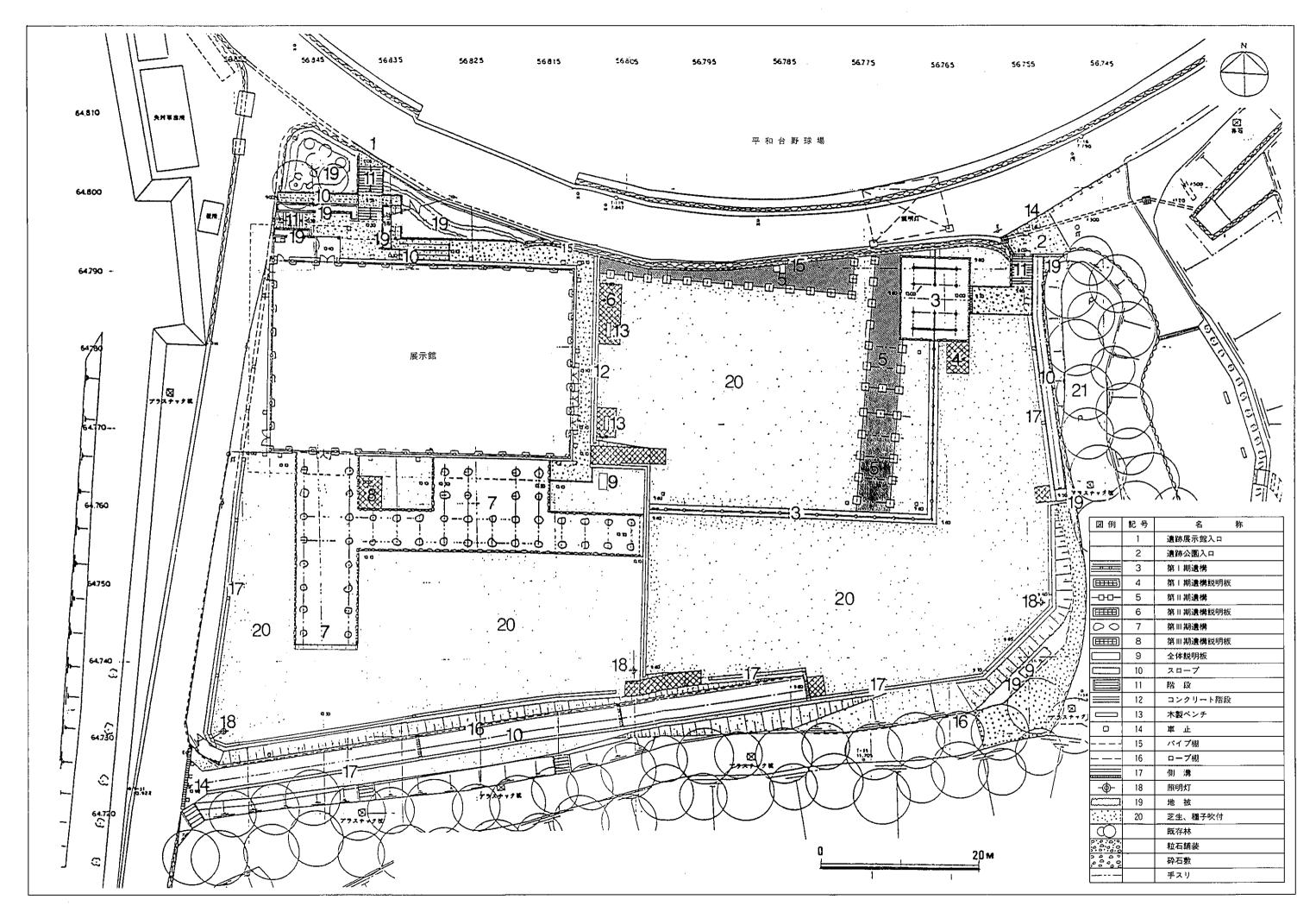
- ・整備面全体は、遺跡見学に関係無く、憩いの場としても活用できるように張芝とした。
- ・芝生の種類(ノシバ、コウライシバ)を変えることにより、時代の違いを表現した。
- ・見透しを確保するために低木ではなく、地被を用いた。
- ・実験的に、展示館の軒下にも張芝した。

#### g 休養施設計画

・立体構造物は整備地内の人の動きを制限するので、コンクリート階段ベンチで代用が図れるため設置数は2ケ所のみとした。

#### h. 説明計画

・説明板は、整備地より1.5m比高差の整備地南東隅に全体説明板、主要遺構近くには各期の個別説明板を設置することにした。



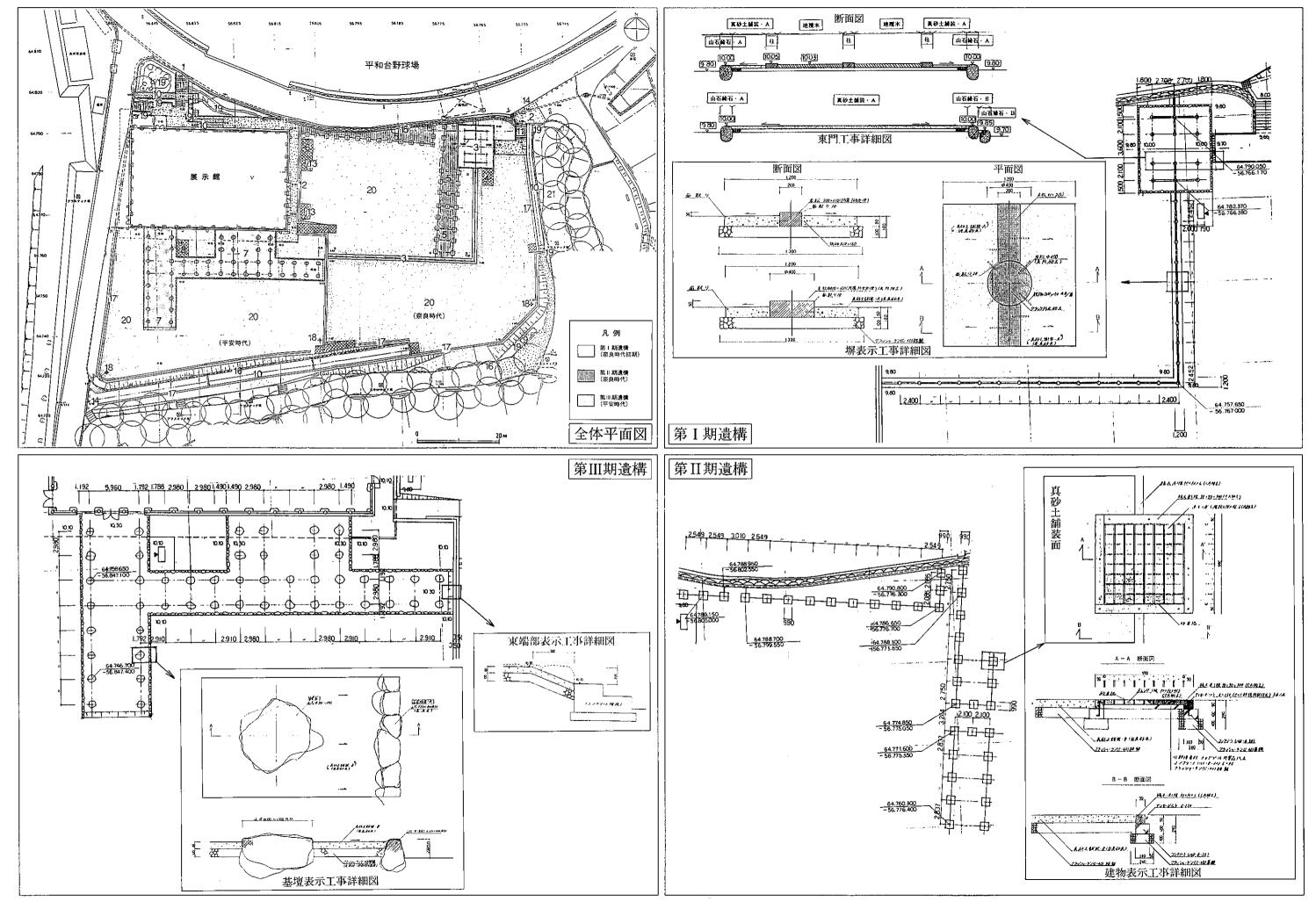


図57 第 I 期整備実施計画部分詳細図

表23 第 I 期整備施設概要表

名 称	内容	名称	内 容
■敷地造成工	) rt 合	名称	内 答 本体(現場打コンクリート)
= 3X-15/H1/K-L	[100㎡当] 種子1.4kg、高度化成肥料7.5kg、	1	本体(免傷引コングリード)   滞幅25cm×平均深さ30cm
5.7	養生材15.0kg、安定剤0.1kg	横断侧滑	蓋 (グレーチング)
種子吹付	後生材10.0kg、安定用0.1kg   (ケンタッキーブルーグラス0.8kg、バミュー		' ' '
	· · · · · · · · · · ·		幅35cm×長さ約100cm×厚さ約4cm 細目)
	ダグラス0.4kg、ハイランドベントグラス0.2kg)		本体(現場打コンクリート)
■園路広場工	Line man trials of the contract of	横断侧滞桝	内径30cm角×深さ65cm)
	擬石階段ブロック		盗 (グレーチング)
附 段	(幅31cm×長さ60cm×厚さ5cm) 稲田ショット		幅40cm角×厚さ約4cm 細目)
····	ブラスト仕上げ)、蹴上げ15cm	U形(側溝	鉄筋コンクリートU形ブロック (滞幅24cm)
コンクリート階段	幅35cm×高さ15cm×2段、金ごて仕上げ、化粧:		グレーチング (細目)
	目地(各段の段鼻に2列)	U形側溝蓋掛	溝幅24cm用(幅約29cm×長さ約100cm×厚さ約3cm)
1	クラッシャーラン10cm+コンクリート7,14cm+		30cm用 (幅約36cm×長さ約100cm×厚さ約4cm)
粒石舗装	表層 1 cm。表層材(エポキシ樹脂+天然石の粒		本体(現場打コンクリート)
	石;擬石の稲田に合わせた)		内径30cm力、40cm角、50cm角×深さ45~65cm、
脱色アスファルト	クラッシャーラン10cm+表層 3 cm、	集 水 桝	65~85cm、85~105cm)
ルピノヘノアルト	表層材 (脱色アスファルト 茶色) 舗装		盗 (鋳鉄製格子蓋)
	幅35cm×高さ上段11.5cm、下段13cm。	1	40cmが、50cmが、60cmが×厚さ2cm)
出入口	金ごて仕上げ化粧目地		硬質塩化ビニール管 後10、15、20、25、30cm。
	(各段の段鼻に上段1列、下段2列)	ピニール管埋設	砂圳茂
■休養施設工	(M. 64 - 104		合成樹脂製 半面透水型 芝生部分の金面に布設
	幅45cm×長さ180cm×高さ40cm		※周囲は砂坝及
	コンクリートブロック基礎	透水管埋散	枝管
木製ベンチ	桧(幅21cm×厚さ10cm。CCA処理)		本管 <b>440</b> ×3本 (発15cm相当) 10m間隔
	ひび割れ防止剤塗布		対具(取柱形 アルミ製 水銀ランプ 200V
■修景施設工	0.0.404 cby ur 547 5540		300W)
■19.从心以上	ノシバ、コウライシバ(10割張り、目串なし)	照明好	300 W     柱(カラーアルミポール - 魚げ茶色 - 高さ5m)
張 芝			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	ピートモス (101/㎡、トラクター混入)		照明灯の開開約50m。
芝生保護材	ポリエチレン製 505×505×15	7127 4	DV5.5-2C(公園内の電柱から架空線で照明灯
	(専用のピンで固定)	引込ケーブル	に引き込み 2 箇所)
	ヒペリカム・カリシナム	•	※引き込んだ照明灯には自動点滅器を設置。
	(3 雰立、ポット径10.5cm) 44株/m²。		MAZV CV5.5-2C 坦股深さ約60cm。
地 被	ヘデラ・カナリエンシス	ケーブル埋設	標識テープ(塩化ビニール製) 埋設深さ30cm。
,	(L30cm、ポット後10.5cm) 25株/m。		埋設標(再生プラスチック 9 cm角×高さ40cm)
	ヤブラン		照明灯の基礎の横に設置。
	(3 孝立、ポット径10.5cm) 36株/m³。	■教養施設工	
■管理施設工		柱	米松 径40cm×厚さ13cm(地上高 5 cm) 真円加工
	高さ110cm×柱間隔300cm(石積等の天端に立込		CCA処理 (根棚 D10×15cm 4本/基)
パイプ棚	深さ20cm)。魚げ茶色(主柱φ76.3×2.8、胴縁		米松 幅20cm×厚さ11cm (地上高3cm) ×長さ
1 2 100	φ 42.7×2.3。縦伐φ 21.7×1.9×@148,168	地投水、籼水	80~230cm。CCA処則(根枷 D10×15cm 4,6
	STK400)		本/据)
	柱(杉丸太):高さ70cm、中央径10cm×長さ120		山石 (野面石 花崗岩) 発20~30、30~40cm
	cm、OCCA処理表面焼き磨き仕上げ。	山石森東名	2 種類。 地上海10、30cm
	ロープ: 2 段高さ30.60cm(マニラロープφ 14)		産地 福岡県太宰府市 (宝満山西斜面)
ロープ棚	高さ90cm、柱間隔200cm(階段の袖の天端に立		クラッシャーラン10cm+表層 8 cm
	込み。深さ25cm) 魚げ茶色(丸パイプ棚主柱・		表層材混合物 1 m 当(自真砂0.9m、セメント
	胴縁 42.7×2.3 STK400 様伐 45×@125	Mejsh a Anno	系周化剤120kg、添加剤801、エフロ防止剤2.4
	丸鋼) ※階段の手スリを兼ねる	其砂土舗装	kg、赤色顔料)。※顔料の配合量(周化剤に対
	地上高80cm、柱間隔200cm	ļ	する重量比)で色を変えた。配合比は、
	(スロープの袖壁等に立込み)。		第 1 期 4 %、第 11 期 2 %、第 11 月 1 %
手スリ	手スリ		检 幅 9 cm×厚さ 9 cm×長さ42~184.7cm CCA
• , ,	φ 42.7×1.5。 SUS304	林水	処則
	ヘアーライン仕上げ	,,,,	(コングリート基礎厚さ10cm アンカーボルト周定)
擬石車止	擬石コンクリートプロック 高さ45cm。		クラッシャーラン10cm+コンクリート4.5cm+
表面擬石(ビシャン)	仕上げ可動式 ※既設に合わせた		支層4.5cm
25年11月11日(ログヤノ)	仕上り可動式   米成散に合わせた     鉄筋コンクリートブロック	木レンガ舗装	,
		1	表層材(桧 9 cm 角×厚さ4.5cm CCA処理、
INL形例滞	(幅30/40cm×長さ60cm×厚さ7/11cm)。		砂目地 1 cm)
	本体 (現場打コンクリート 内径25cm×45cm)、		山石 (野前石 後70~100cm)
	深さ平均66cm		地上高約10cm (10,30m)
*	コンクリート蓋	随 石	<b>産地</b>
JII.形侧薄桝	(幅29.4cm×長さ49.4cm×厚さ9.5cm)		花崗岩 佐賀県三養基郡中原町(青摄山地南斜面)
TOWNS DISABLED.	コンクリートブロック縁塊		流紋岩   大分県日田郡天瀬町(玖珠川及びその支流)
	(幅25/40cm×長さ45/60cm×厚さ5/15cm)		
			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·

# IV 整備工事

# 1. 工事の全体概要

# (1) 整備工事における法的な制約

整備工事が国指定史跡地内で実施されることから、整備計画の策定とその実施にあたって現状変更等の制限が課せられていた。したがって、今回の整備工事にあたっては、所定の手続きを経て現状変更許可を得て実施した。一連の手続きは以下のとおりである。

平成6年4月12日付福市教文第44号で福岡県教育委員会へ、平成6年度工事実施予定分(鴻臚館跡展示館・館外遺構表示整備工事)の現状変更許可申請書を提出。根拠法は、「文化財保護法第80条」、

「特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可申請等に関する規則」である。 平成6年9月20日付委保第4の464号にて、文化財保護法第80条第1項に基づいて文化庁から現状 変更の許可がおりる。許可の条件は、①王事にあたっては福岡市教育委員会埋蔵文化財専門職員が立 会うこと。②実施にあたっては福岡県教育委員会の指示を受けること、の2点である。

平成6年10月6日付6教文保第38号の2にて福岡県教育委員会から現状変更許可が通知される。

平成7年3月8日付 福市教文第547号にて福岡県教育委員会へ、平成7年度整備実施予定分(原 寸大建物模型の製作設置)に関する現状変更許可申請書を提出。

平成7年5月17日付委保第4の275号にて文化庁から許可がおりる。

平成7年5月23日付7教文保第89号にて福岡県教育委員会から現状変更許可が通知される。

また、当該地は都市計画法に基づく高度制限・風致地区に指定されているために、新展示館の実施 設計において、風致地区における制限事項について配慮した(24頁)。

# (2) 整備工事における遺構保存のための条件設定

館外遺構表示整備計画の項で述べたように、今回の整備では、遺存している地下遺構の保存を最優先させる方針の下で、整備地全体に約80m前後の盛上を施すと共に、展示館建替工事においては既存の田展示館の基礎を活かし、その上に新たな基礎を付け足した。また建物模型の設置は遺構面に浮かす工法を採用した(30頁・図43)。

その他の便益施設等の施工においても遺構面を新たに掘削しないということを大前提としたが、整備工事のうち、地下の遺構を壊す可能性のあるものについては、工事着手前と工事期間内における各整備工事担当者工程会議において事前に指摘し、立会調査が必要なものについては工事と並行して立ち会った。

以下の5地点で立会い、施工上の注意を指示し遺構保全を図った。

第1地点は、展示館の基礎周縁部分のうち新たに拡張した北東コーナー部分である。掘削深度を遺構面から10cm上面までとした。

第2地点は、暗渠排水管を連結する埋設桝のうち、展示館北東部と西側の掘削深度の確認を行い、 埋設深度を10~15cm浅くした。

第3地点は、同じく埋設桝のうち筑紫館東門周辺部分の掘削深度の確認を行った。この部分では遺 構面上の盛土内におさまることを確認した。

第4地点は、サブゲートとした北東部階段下の「U」字側 溝埋設時における遺構の有無の確認で、第9次調査の際認め られた筑紫館創建時の整地層の一部を確認した。

第5地点は、展示館入り口前面道路部分の水道管埋設に伴う遺構の有無の確認で、筑紫館の布掘り地業跡を検出し、推定延長部分に位置することがわかった。記録化し部分的な掘削を許可した。(「鴻臚館跡 6」福岡市埋蔵文化財調査報告書第486集)



図58 立会調査風景(北から)

#### (3) 工事概要と工程

平成6年度の整備は、展示館新築工事、展示製作、館外遺構整備工事である。原寸大の建物模型製作は設計も含めて平成6年度から7年度にかけて実施した。工事種別に発注したために、着工日にばらつきがあるが、平成6年10月8日から展示館新築工事を着手し、7年3月末までに6年度事業についてはほぼ終了した。この間7年1月17日に神戸大地震があり、展示館の部材の一部の入荷が遅れるハプニングもあった。遺構表示整備工は一部手直しの箇所があり、同年4月15日に完工した。

平成7年度は、引き続いて建物模型を製作し、展示館への 電源付設工事と館内主照明工事を行った。展示館の展示作業 が終了したのは、開館1日前の7年8月9日である。

各工事の実施工程は表24のようになる。なお各工事の施行 内容については以下の各項で述べる。



図59 着工前旧展示館内状況 (東から)



図60 展示館新築工事起工式 (業者主催)

表24 第1 期整備工事全体工程表(平成6年7月~7年9月)

E 工事種別 着工準備 展示館建設 展示館建設	壁工事(折板・ガラリ) 内装・設備工事 内外壁塗装工 仮設足場解体・完工 展示品工場製作 展示ボード設置	7 ~ 9 )]	10~12)J     	1 ~ 3 JJ	4 ~ 6 11	711 83191	日
展示館处設	遺構養生作業 田展示館解体工事 基礎工事 足場仮設工事 駆体工事 トラス組・屋根工 壁工事 (折板・ガラリ) 内装・設備工事 内外壁塗装工 仮設足場解体・完工 展示品工場製作 展示ポート設置		- - - - - -				館内遺構の盛上作業 6年10月8日着工。31日~解体
展示館处設	田展示館解体工事 基礎工事 足場仮設工事 駆体工事 トラス組・屋根工 壁工事 (折板・ガラリ) 内装・設備工事 内外壁塗装工 仮設足場解体・完工 展示品工場製作 展示ポート設置	_	- - - - -	-			6年10月8日着工。31日~解体
	基礎工事 足場仮設工事 駅体工事 トラス組・屋根工 壁工事 (折板・ガラリ) 内装・設備工事 内外壁塗装工 仮設足場解体・完工 展示品工場製作 展示ポート設置			-			
	足場仮設工事 駅体工事 トラス組・屋根工 壁工事 (折板・ガラリ) 内装・設備工事 内外壁塗装工 仮設足場解体・完工 展示品工場製作 展示ポート設置		-	-			7年1月17日神戸大震災
	駅体工事 トラス組・屋根工 壁工事 (折板・ガラリ) 内装・設備工事 内外壁塗装工 仮設足場解体・完工 展示品工場製作 展示ポート設置		-	-			7年1月17日神戸大震災
	トラス組・屋根工 壁工事(折板・ガラリ) 内装・設備工事 内外壁塗装工 仮設足場解体・完工 展示品工場製作 展示ボード設置		-	-			7年1月17日神戸大震災
	壁工事(折板・ガラリ) 内装・設備工事 内外壁塗装工 仮設足場解体・完工 展示品工場製作 展示ボード設置		_	-			7年1月17日神戸大震災
F 展示製作	內装,設備工事 內外壁塗装工 仮設足場解体,完工 展示品工場製作 展示ボード設置						
P 展示製作	内外壁塗装工 仮設足場解体・完工 展示品工場製作 展示ボード設置			:			
P 展示製作	仮設足場解体・完工 展示品工場製作 展示ホード設置						
P 展示製作	展示品工場製作 展示ボード設置						
P 展示製作	展示ボード設置			_			7年3月25日展示館完工
P 展示製作							6年11月1日製作開始
P 展示製作	1-4 - 5 /s (001 //s - 00-194)			_	-		
	展示台製作設置			_	4		7年3月25日製作終了
	展示品展示作業					_	
N.	照明調節・仕上げ					-	7年8月9日展示作業終了
^	工作物撤去・樹木移植		_				6年12月2日遺構整備着工
	盛土整地工		1 - 1				
6	暗渠等排水工		_				立会調査と並行して実施
	遺構配置測量設定						
T-	第 1 期遺構整備工			_			
遺構整備	第11期遺構整備工						
6: 1.36	第Ⅲ期遺構整備工			_			
	立会調査						5 地点について実施
	管理・道路工			_	-		
	便益施設工			_			
	植裁工			_			
	完工				_		7年4月15日完工
	部材工場製作						6年12月15日建物模型製作
	基礎工事				1-		7年6月6日眷工
	部材仮組立				_		7年6月23・24日仮組立会
女比华勿	照明工事 (配線)				_		
模型製作	部材組立					+ +	7年6月30日組立開始
12.1.3211	彩色塗装工事						1 1 2 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7
	仕上げ工・照明調整					-	
	完工,					-	7年7月15日建物模型製作終了
。 新展示確實	:源付設工事						7年5月12日着工~7月15日
7 新展示館主							7年7月20日着工~8月3日
At the second second	示館開館記念特別展示会						15,000人入場(会場;市博物館)

# 2. 展示館建設工事

## (1) 仮設工事

解体工事に着手する前に、遺構を保護するためまず全面に真砂で盛土をおこなった。内部にも枠組足場を設ける必要があるため、当初から盛土の上に雨水の浸透を少なくするためビニールシートを敷き、更に厚さ12mmのコンパネを敷き詰めた。全面に足場を設置したことで、トラスの組立や電気工事が安全かつ迅速に進めることが出来た。

#### (2) 既存解体工事

既存建物の解体は50 t クレーン重機を使用し屋根、外壁、トラス材と大きく切断して順次解体を行った。遺構保護のため、北東部の盛土の薄い箇所への重機の進入は禁止した。

付属便所棟のコンクリート基礎の解体は、事前 にその付近の調査は済ませていたが、再度立会い の上慎重に行った。

# (3) 基礎工事

新設基礎の既存部との緊結は、ケミカルアンカーに13mm鉄筋を挿入したものを、1.2m間隔で設けた。また基礎厚みを薄くするために、強度が270kg/cmのコンクリートを採用した。平面拡張に伴う、新たな根切り箇所については、事前に施工箇所、施工方法を協議し立ち会いの上行った。



図61 遺構養生状況

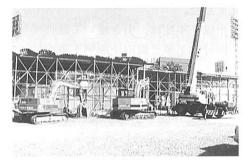


図62 田展示館解体状況

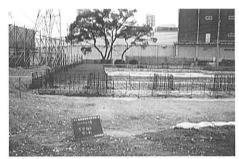


図63 新展示館基礎配筋状況



図64 柱組立終了

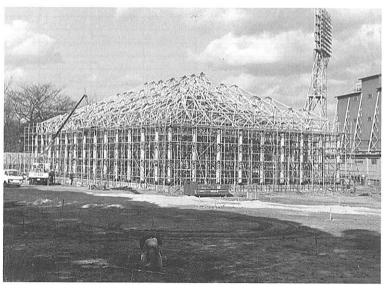


図65 屋根トラス組立終了

# (4) 鉄骨工事

アンカーボルトのセット及び丸柱の建込みについては、柱脚固定と柱頭のトラスとの接合の関係から高度の施工精度が要求されたが慎重な施工管理の結果、十分に許容範囲内に納める施工が出来た。43本の丸柱が建ち上がった姿は福岡城内という事もあってか、パルテノン神殿を彷彿させるものがあった。鉄部の塗装はカラー錆止めのみで外部の指定色に合わせた。

# (5) トラス工事

立体トラスは太陽工業(株)のTMトラスとした。

表25 トラス部品数量表

TM	パイプ	グロ	コーブ
径mm	数量(個)	径mm	数量(個)
48.6	88	85	54
60.5	454	110	112
76.3	497	130	28
89.1	112	150	16
101.6	18	180	57
		200	8
		260	2

鉄骨柱との接点となる支障部のグローブはプレートに溶接し、各パイプの組立はクレーンで釣り上げ、トルク値を確認しながら入力で締め付けた。

#### (6) 屋根、外壁工事

屋根等の折板は三晃金属工業(株)の製品で、耐久性を増すため亜鉛アルミ合金メッキ鋼鈑を採用した。屋根部は〈大型円筒茸き140〉、外壁横張りは〈大和張30〉とした。施工は飾棟、下り棟、二重軒先膜板と飾り金物が多いため高度の技術が要求され、取り付けにも時間を要した。軒先巴を持つ半径200mの大屋根は自然な反りを出せたようだ。壁の横張と軒裏は鋼板メーカー(東海鋼業)の近似色Y-27を採用したが、その他の部材は当初設計の色に合わせ特注色とした。

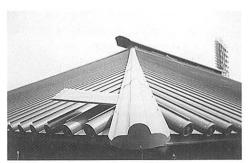


図70 屋根,下り棟,軒先巴



図66 トラス支承部取り付け状況



図67 トラス組立状況

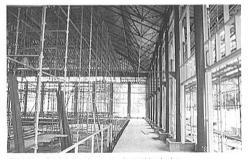


図68 屋根トラスおよび柱内部



図69 飾り棟取り付け作業



図71 二重軒先のようす

#### (7) 金属製建具工事

[アルミサッシュ]:外壁の中で目立たない色でかつ現代的な素材の自然な表現としてシルバー色とした。

[アルミガラリ] :換気と排煙のため、節棟部と 軒下に縦型ガラリを設けた。飾棟部は暴風時を考 慮し、特に防水性の高いルーバ型とした。軒下は 換気を重視し開口率50%としたが、子想以上に光 が漏れ、ほんのりとした自然光の効果となった。

[スチールドア]: 正面入り口のドアは外壁と柱の色を使い塗り分けを行った。ガラスは熱線吸収ガラスの濃いブロンズ色とした。

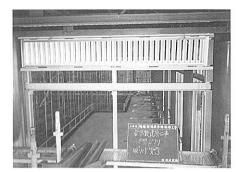


図72 ガラリ取り付け状況



図73 展示館受付および入口

# (8) その他の建築工事

[階段工事]:遺構面へ降りる階段は、鉄骨部材に踏み板のコンクリートPC板を乗せる構造で、1ケ所当たり1,500kgとなった。支持方法は基礎コンクリートからの片持ち形式とし、遺構面へ負荷を与えないようにした。

[ガラス工事]:防犯上の為、ガラスは網入りと したが内から外への視線の邪魔にならないように 縦線タイプを採用した。

[シーリング工事]:屋根、柱、外壁の各部については、標準色の中から近似の色を採用した。朱色の軒先膜板部は、近似の標準色がないため特注色とし色を合わせた為、膜板のシャープな線が出せたようである。



図74 館内南側階段施工状況

# (9) 照明等設備工事

非常用照明器具は取付位置が高いので、高輝度 タイプとした。器具や機器の取付についても下地 の支持材がないため取付方法に苦慮し、配線配管 が見えないようにした。ライテイングダクトの取 付は支持方法、強度についても検討を重ねた。電 線管、スピーカーも建築の塗装色に合わせた。

非常用警報装置は、通常の露出ボックス型とは せず表示灯、ベル、発信機を独立して配置し、目 立たないようにした。

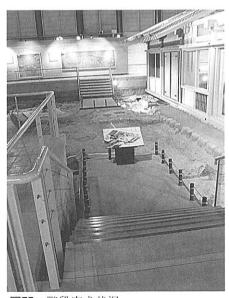


図75 階段完成状況

# (10) 総括

今回の工事は折板工事、鉄骨工事、建 具工事の3工種がポイントであったので、 その細部の納まり、寸法の相互の関連に は施工図段階で十分に検討を重ね施工を 行った。また屋根、外壁の折板工事は予 想以上の時間を要し、外部足場の解体が 遅れ外整備工事の工程に大きな影響を与 えた。また鉄骨工事の建方の途中で阪神 大震災が発生し資材の運搬に支障をきた した。

竣工した新展示館は、仮設物ではなく 展示館建築として設計、施工共に完成度 の高いものになったと思う。



図76 完成した展示館 (正面)

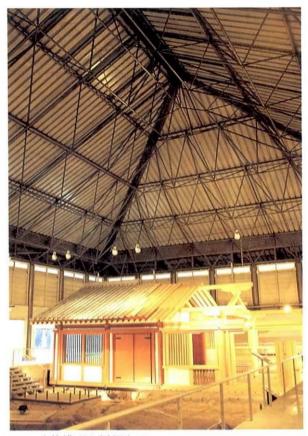


図77 建物模型と屋根トラス



図78 完成した展示館と遺構整備(南東から)

# 3. 展示製作および照明工事

#### (1) 展示製作

展示工事は通路壁面展示が主である。壁面の展示有効面積は 226.8㎡である。また入館者の墜落防止用のアクリル板を通路 手摺面に付設した。

製作物は展示用壁面造作、説明用パネル、コーナーサイン、 展示台、展示ケース、埋込展示ケース、保安用アクリル板、遺 物説明題箋、屋外と受付のサインである。

製作は業者工場で行い、建物模型の設置作業の完了を待って、 平成7年8月5日~9日の間に遺物展示までの作業を終えた。

展示は、露出遺構と建物模型との関係、および館内と館外遺 構の連続性を損なわないように、視界を妨げるような余分な構 造物を配置せず、通路外周の壁面展示のみとした。

展示用壁面は、展示館内壁も兼ねた軽量鉄骨を骨材とする合板クロス貼りパネルである。高さを2.8mとし、最上練部にはコーナー毎のテーマカラーを設定し、視覚的にテーマイメージを理解しやすくした。高さ2.35mの位置には説明パネル吊り下げ用のピクチャーレールを設けた。

なお、コーナー「鴻臚館の精華」については、展示棚を将来 付設できるようにアルミラインパネルを設けた。

説明用パネルは26枚製作。内訳は、防湿コート仕上げ木軸パネルが21枚、木枠組土層剝ぎ取りパネル2枚、スタンド式パネル1枚、遺構説明用パネル2枚である。パネル仕様はコーナーサインと同様、コーナー単位でパネルテーマの色分けをした。

説明パネルの吊り下げにあたっては、目線高を床面から1.3 mとし、各パネル中位置ですべて揃えた。

説明パネルを防湿用コート仕上げにしたのは、展示館が自然 換気であることから、湿気による経年変化をできるだけ防ぐた めである。

コーナーサインは、各コーナーの区分を明確にし、コーナーテーマを理解しやすくするために設けたもので、半円柱形のボールを立てて、スポット照明によりテーマ名称が浮き立つようにした。

展示台は、可動式ガラス製のぞきケース1台、埋込み式ケース1、ガラスカバー付き展示台9台である。展示資料をなるべく間近に見ることができるように60~80cmの高さの床置き式で展示した。

保安用アクリル板は、遺構露出展示部分の、筑紫館の「掘り込み地業」土層観察用トレンチ (深さ2.8m) が通路に近接していることから、手摺の隙間を縫って、見学者が落下するのを防ぐために設置した。

説明用題箋はアクリル製印画紙貼で黒色ベースに白抜き文字 (プロセス印刷) に統一し、英文を添えた。



図79 展示ボード製作風景

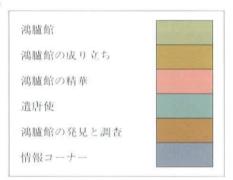


図80 テーマカラー



図81 コーナーサイン



図82 「鴻臚館の精華」コーナー



図83 館外サイン

#### (2) 照明工事

展示の中心が建物模型と遺構展示であることに加え、遺構保存の観点から照明をなるべく低照度にする方針から、建物模型→壁面展示→遺構展示部分の順序で照度を落した。また壁面展示では、コーナー「鴻臚館の精華」を最も明るく設定し施工した。

照明器具付設のための配線ブロックは、展示館屋根トラス部分、壁面展示部分、通路、遺構展示部分の回りを巡る通路下壁面、および建物模型の5つに分けられる。

#### 1) 展示館屋根トラス部分

遺構展示面への照明として取り付けた。照明器具は紫外線カットガラス使用の250W/200Vスカイビームハイパワースポットライトを用いている。

#### 2) 壁面展示部分

床面から高さ3.0mの位置に、展示用壁面から1.5m離してライティングレールを並行して設けた。照明器具はミニハロゲンランプ85Wスポットライトを使用。1枚の説明パネルに2~3個のライトを用いている。

# 3) 通路部分および通路下壁面

専用の照明器具は取り付けていない。将来の展示ケースの増加や、展示替えを配慮し床面および壁面にコンセントを必要と思われるところに配置した。

# 4) 建物模型部分

建物模型が立体的な構造物であることから、屋根照明、 壁照明、床面および遺構部分の照明に区分けした。屋根照明は、通路床面から5.6mの高さの位置に、建物模型に並 行して張った直径9mmのワイヤーロープに配線工事を行い、 照明効果を配慮しながら照明器具を任意の箇所に吊り下げ

表26 館内照度状況一覧表

測 定	個 所	照 度 (ルクス)
正面入口	(外)	1000~1500
正面入口	[内]	100
東面入口	1 (内)	350
南面入口	1 (四)	250~300
52.06	北側	70~80
通路	南側	30~60
パネル型	Čirii	最大1200 平均600
遺構展力	kı/ni	東側 80 中央 65
建物模型	北側	80~100
	南側	80
	MR (fri	60~160
鴻臚館の料	当様コーナー	最大900 平均400
全体復元	:模型	30
出土状況	しレプリカ	180

る方法を採用した。照明器具は、熱線吸収反射板付きの250W/110Vミニハロゲンスポットライトを5個使用している。壁面と床面、および遺構展示面については、通路下壁面にライティングレールを配し、照明効果を配慮しながら、任意の箇所にミニハロゲン85W/Vスポットライトを取り付けた。

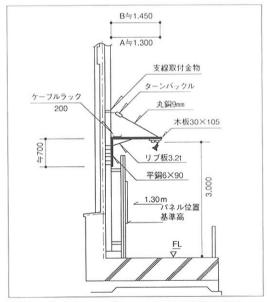


図84 ライティングレール取付状況断面図



図85 「鴻臚館の精華」コーナー展示状況



図86 館内展示状況

# 4. 建物模型製作

#### (1) 製作・設置にあたっての条件

建物模型の製作は、澤村仁氏の監修による建物復元案を基本にした製作設計にもとづいて実施した。 実施前に文化庁と協議し、建物模型を遺構面直上に設置することから、荷重計算等を行い遺構への影 響等を検討することと、製作設置においては遺構の保全を図って実施することを条件として、史跡地 内における現状変更の許可が得られた。遺構への荷重計算等についてはすでにふれたとおりである (30頁)。遺構保全については、展示館西半分の遺構面を盛上で覆った後作業を行った。

# (2) 製作の内容

基壇の一部復元も含めた基礎工事と本体製作に分かれる。 1) 基礎工事

模型製作における基礎工事は、建物模型直下の遺構への負荷 を軽減する工法をとりながら、模型を支持することを目的とし た。模型の総重量が 13,637,36kgであるため、見学用通路で 荷重を保持し、建物模型中央部でたわみを受けるための盛上を 行った。建物模型の柱下端部はたわみによる重量負荷の影響が ないように、礎石部分で 3.5cm、その他の遺構部分で遺構面 から20~40cm浮いた状態で設置し、盛上部分は基壇として復元。

基礎工事は、遺構および展示館施設の養生作業を行った後、 以下の内容と工程で行った。

- ①部材品り下げ用のワイヤロープ3本を展示館柱に付設した。 ②建物模型中央部に南北7.8m、東西8.5mの範囲で遺構面に
- 真砂上による盛土を厚さ約20cmで施す。
- ③見学用通路壁面に支保材のプレートをケミカルアンカーに よって固定するとともに、転圧した盛上面に直接荷重を受 けるための網鋼板を敷き、日鋼を梁と桁方向にそれぞれ架 構し微調整後固定。現存する礎石面上には、礎石の保護の ためにラバー製クッション (厚さ3.5cm) を入れた。
- ④日鋼上面の建物模型の柱位置に柱脚用骨材となる角形鋼材 (100mm角、高さ48.8~118.4mm) を溶接によって固定した。
- ⑤日鋼および網鋼板を盛上で覆い、セメントおよび硬化剤を 混入した自然上を用い、表面を叩き上間風にランマーによっ て仕上げた。梁行方向の復元基壇断面については、上止用 レンガをモルタルで固着させた。基壇部の色は建物の延長 部分にあたる館外遺構表示部分と同色とした。

#### 2) 本体の製作

ウレタン素材の擬石や、強化プラスチック製の瓦のレブリカ 製作、木または鉄材の建築部材・飾り金具等の製作に分かれる。

- a. 基壇縁石・地覆石・礎石などの擬石は鴻臚館跡出土品を 参考にしながら、樹脂で原形を製作後、ケズリ出しによっ て整形しアクリル系塗料で着色した。
- b. レプリカ製作によるものは、軒丸・軒平・丸瓦・平瓦・ 熨斗瓦・棟瓦である。原形の瓦は、鴻臚館跡と大宰府出 図90 瓦レプリカ製作のようす 土品で、シリコン材で型取りした後、強化プラスチックを素材として製作した。瓦の製作枚数 は、1927枚である。軒先瓦は軒丸・軒平瓦ともに2種類の文様形式のものを、鴻臚館跡の出土 比率7:3に合わせて製作した。



基壇部整地状況



図88 基礎鉄骨取付状況



図89 基礎工事基增面整地



着色もまた、出土瓦の色調を参考にしながら、3種類に 色分けし、焼きムラや色ムラを表現した。

c. 製作した建築部材は、表17に示した。建物模型本体の軽量化を図るために、柱や梁等の大型部材は集成材で箱型中空にし、連子子や小舞等の小型部材に無垢材を使用し、本格的に無垢材で復元した場合の約71%の荷重減率が得られた。瓦まで葺いた部分(完成した状態を示す範囲)の柱や頭貫、地覆、長押、扉、連子窓などは、丸鉋でヤリガンナ風に表面を加工し着色した。色調は、薬師寺東塔を参考にして、柱、頭貫、扉等には丹塗りを想定した朱色、連子窓には深緑色、垂木小口には黄土色を塗り分けた。その他の部分は白木のままで化粧薄板張り仕上げとし、表面の保護のために艶消しクリヤ塗装を施した。集成材の表面を削った場合には、単板張りかまたは彩色しなければ集成合わせ目が見えるため、表面加工はしていない。なお着色塗料はアクリル系塗料である。

壁は、小舞が露出している部分、完成している部分に分けて表現している。小舞は割り材を使い、 荒縄で結束した。壁は合板製で、箱形中空に製作した後に白漆喰壁風に吹き付け塗装した。なお、建物の部材の断面部分と基壇断面の表現については、 灰色を統一色として用いた。

#### 3) 組立。

各製作部材は工場内で仮組みし、部材のおさまりの確認と小 舞などの手直しを経て完成した。組立工程は以下のとおり。

- ①部材の搬入。
- ②柱を角型鉄骨製柱脚に固定後自立させた。
- ③対応する両側壁の柱間1間分について地覆、建具部材(壁 と連子窓は一体で製作)、長押、頭貫、大斗、舟肘木、頭 貫下の小壁の順で組み上げた。
- ④虹梁を架け、両側壁を構造的に一体化し安定させる。
- (5)②~④までの同じ工程を行いながら、地覆~虹梁までの全体の軸部を組立てる。固定は主にボルト締めによる。
- ⑥丸桁を固定した後に、虹梁上に叉首、棟柱、垂木を架構し 垂木間の小壁を取り付け、上屋組を完了した。
- (7)屋根部分は、瓦葺きの工程と構造を示すために、野地板、小舞、葺上をそれぞれ見えるように配列し、また瓦も葺き始めから葺き終わりまでを段階的に示した。 瓦は、葺土が見えないところについては葺き土の厚さにあわせて合板でかさ上げし、発泡スチロール片で高さを調整後、エポキシ系樹脂で接着固定した。
- ⑧本体の組立作業が終了後、照明器具取り付け、彩色の一部変更と補修等を行いすべての作業を完了した。

図95 屋根の組立, 瓦葺き作業



図91 舟肘木の製作のようす



図92 仮組作業風景



図93 組立作業開始



図94 虹梁までの組立終了



# 5. 館外遺構整備工事

# (1) 敷地造成工

1)切土 (西南部管理用道路部分と東南隅)

管理用道路部分を対象に21 t ブルドーザーが標準だが 施工規模と遺構への影響を配慮し、6 t で慎重に行った。 2) 盛土

発生土と搬入土(真砂土)を使用して30cm毎に6 tブルドーザーで整地した。

#### (2) 園路広場工

1) 階段〈展示館入口と遺跡公園北東入口〉 自然な感じがする擬石仕上げ(稲田石)のコンクリー トブロックを使用した。

# 2) 階段

(展示館東側 第1、II期と第III期遺構表示面の境) 奈良時代(東側下段面)と平安時代(西側上段面)を分けるために、自然な素材だと誤解が生じる可能性があるので現代的なコンクリートの階段とした。段差の明示と滑り止めを兼ねて各段の段鼻には化粧日地をそれぞれに2列入れた。

#### 3) スロープ

#### a. 展示館入口

自然で滑りにくい舗装材として、擬石階段ブロックに 合わせた自然石の粒石を接着剤で張り、表面仕上げとし た。

# b. 遺跡公園北東入口と遺跡公園南西入口

黒色ではまわりの雰囲気と合わないのでカラーアスファルト (茶色)で施工した。

4) 通路(展示館入口踊り場、展示館北側外周、東側軒下、遺跡公園北東入口および踊り場) 擬石階段ブロックの風合いに合わせた粒石で表面を仕上げた。

# 5) 出入口

展示館の東側から外に出るために2段のコンクリートの階段を設けた。南側では自然土舗装をすり付けている。 (3)休養施設工

# 1) 木製ベンチ

第1、II 期遺構配置がわかり、外間からも目立たず、 しかも午後には日陰となる展示館東側に2ヶ所設置した。



図100 管理用道路周辺の作業風景



図96 展示館正面入口の作業風景



図97 展示館正面入口の作業風景



図98 北東部入口踊り場粒石舗装作業



図99 第 I 期東門跡周辺の作業風景



図101 展示館東側の舗装作業風景

# (4)修景施設工

#### 1) 張芝

奈良時代の面とした公園東半分は葉や茎が荒いノシバを、平安時代の面とした西半分には、時代の違いを強調するためにノシバより繊細なコウライシバを張った。なお展示館の軒が高いので試験的に軒下にも張芝を行った。

スロープ部分や、ベンチ・説明板周辺等の利用者がよく通る所には踏圧により芝生が痛むので合成樹脂製の保護材を設置した。

2) 地被(展示館入口、遺跡公園北東入口、土塁北側) 見通しを確保するために低木でなく地被を植栽した。 また、植え込み部分には乾燥と雑草防止と修景を兼ねて 広葉樹皮を敷き詰めた。

#### (5)管理施設工

# 1) 外棚工.

石積み等の天端には転落防止用に縦に桟が入ったパイプ棚を設置した。色は目立ちにくい焦げ茶色にした。また、上塁や外周園路との境には杉の焼き磨き仕上げの柱を上中に建て込み、マニラロープを2段付けたロープ棚を設置した。

#### 2) 排水工.

遺構表示の南側には芝生の止めを兼ねて皿形側溝、遺構表示面には集水桝、スロープには土砂の散布を防ぐために横断して側溝を設けた。

排水管には施工法が簡単で重量が軽い硬質塩化ビニール管を採用した。また、水はけが悪いので芝生の下には軽くて施工がしやすい樹脂系の透水管を布設した。

# 3) 照明工.

利用者が自由に入れる都市公園内なので、保安灯として照明灯を設けた。経路としては展示館入口と遺跡公園部分の2系統に分け、それぞれ既設の公園内の電柱から分岐して照明灯に引き込んだ。遺跡公園部分は今後の照明計画の変更が見込めないので電線管を使用せずにスチールコルゲートケーブルで配線した。



図106 排水ビニール管の付設作業



図102 公園東側(奈良時代の面)の芝張り作業。



図103 地被類植え込み作業



図104 パイプ棚取付作業



図105 皿形側溝据付作業



図107 透水管付設作業

#### (6) 教養施設工

1)第 I 期遺構表示

#### 〈則門〉

柱、地覆木、軸木はクラッシャーランの上に横向きに 根枷をつけて据付け、まわりを真砂土舗装で固めた。

基壇の外間は、日本庭園に使う山石縁石をできるだけ 天端が揃うように注意しながら、直接地面に埋め込んで 表示した。

真砂上舗装(真砂土+固化剤+顔料)は品質を安定さ せるために、舞鶴公園内に設けたプラントで表層材を混 合してからダンプトラックで現地に搬入し、人力で敷き ならした後、転圧して固めた。表面を仕上げる際にはべ ニヤ板を敷いた上から転圧した。第1期については、 「赤真砂」をイメージして赤の顔料を多くした。 〈班〉

柱、軸木は東門と同じように施工したが真砂上舗装は 両側に木枠を組んで、転圧した。

#### 2) 第 II 期遺構表示

#### 〈柱語亦〉

コンクリート基礎に埋め込んだアンカーボルトで緑木 を固定して外枠とし、その内側を木レンガで舗装した。 〈建物〉

柱跡と同じように縁木で外周を明示し、内側を少し赤 い真砂土舗装で仕上げた。

# 3) 第Ⅲ期遺構表示

# 〈礎石〉

礎石は天端の加工が不要なので庭石に使うものを採集 地に出向き、材料検収をしたものを使った。設計では石 質は問わなかったが、施工に際しては東西建物には流紋 岩、南北建物には花崗岩を使用し、色調と石質の違いで 建物の性格がわかるように配慮した。施工では根石など は入れず平坦な面を上にして直接地面に据え付けた。

#### 〈基壇〉

第Ⅰ期と同じように山石で縁取りをして内側を少し赤 みがある真砂土舗装で仕上げた。端部は20cmの高低差を 解消するために、長さ50cmを緩く傾斜させ仕上げた。



図112 第III期礎石据付作業



図108 第Ⅰ期真砂土舗装作業



図109 第 Ⅰ 期塀の柱・軸木据付作業



第Ⅱ期建物柱穴表示木レンガ埋込作業



図111 第 II 期真砂土舗装作業



図113 第Ⅲ期建物基壇の縁石据付作業

# V 結 語

以上、鴻臚館跡第 I 期整備について、平成 4 年度から 7 年度までの整備計画発案から完成にいたる 経過と整備内容について述べてきた。

第1期整備はすでに述べたように、本格的整備着手までの当面の仮整備という位置づけで始められたこともあって、整備内容をどの程度までのものにすべきか担当者レベルでは非常に悩み多いものがあった。遺跡の保存という面からみれば、発掘調査後しかるべき措置を施して、施設等を作ることなく埋め戻し、並行して実施されている調査成果をみながら、来る本格的整備まで満を持した方が賢明ではないかといった思いと、またそれに反して、仮整備という言葉にとらわれることなく全体的な見通しの中で現在できうることを最大限実現した方が、鴻臚館跡に対する市民の認識の深まりと共に、将来の本格的整備にとって有意義になるのではないかといった思いが交錯したのは事実である。さらに、市民の鴻臚館跡の整備に託する思いと指導委員会の意向は、まさにこの保存と活用の両面を満足させる内容を実現させることにあったために、悩みはさらに深まることとなった。

筑紫館から鴻臚館までの各遺構の相互の関係、全体的な構成およびその変遷等の検討を踏まえながら整備内容を検討すべきであることはいうまでもないが、関連遺構の学術的評価についてはひとまず置き、整備の主眼を将来の本格的整備の叩き台として、各委員の指導を仰ぎながら提示しようと担当者が意志を固めたときにはすでに実施設計段階に入った時期であった。

したがって、整備内容については、計画の策定過程も含めて反省すべき点が多々あることは否めない。しかし、一面では、本格的整備に向けての第一歩が今期整備の完成とともに始まったと考えている。そういった意味で、本報告書には検討の過程で交わされた論点をなるべく盛りこむこととした。また今期整備における問題点と課題については表27のようにまとめてみた。

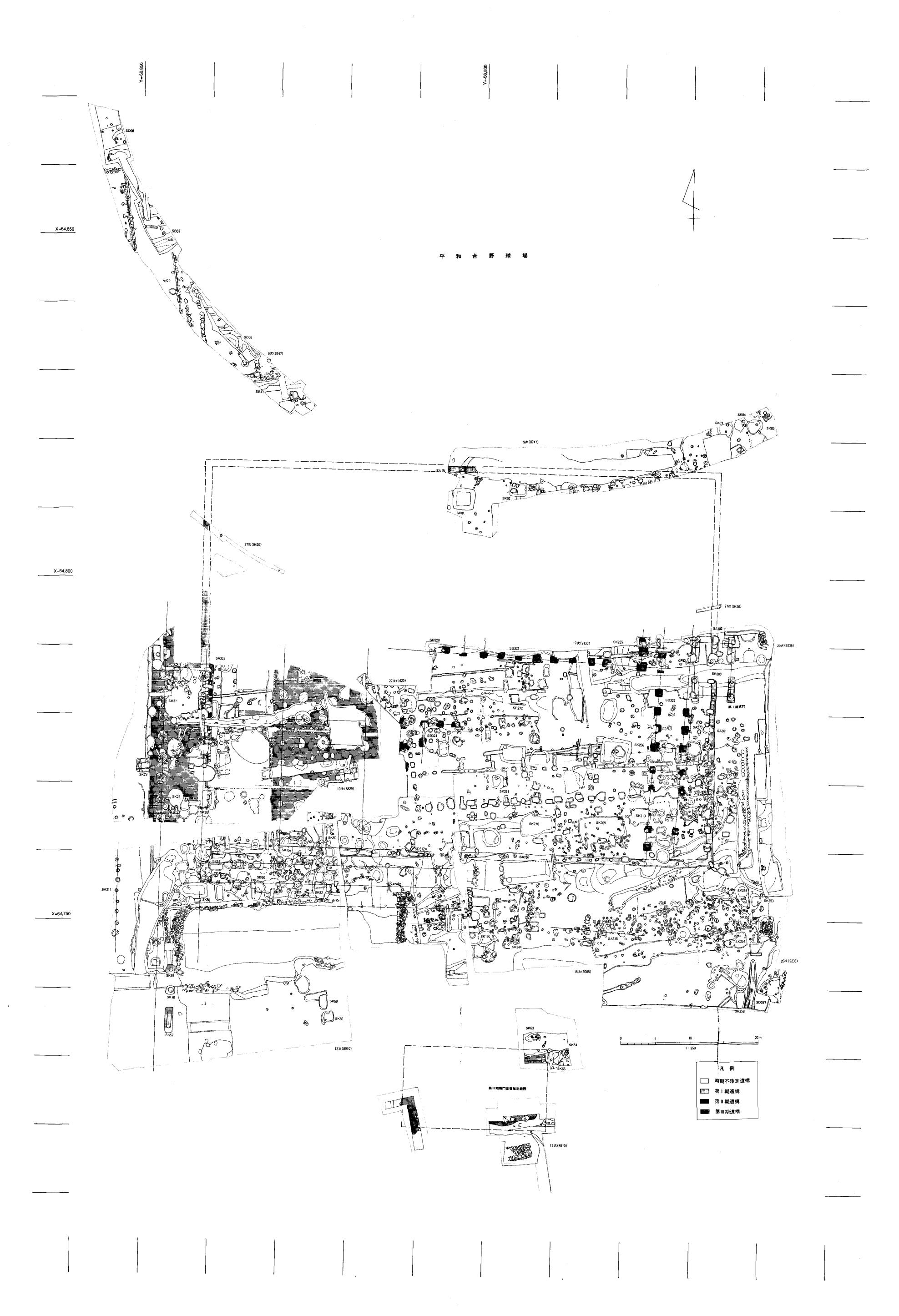
表にもれた問題点はまだ数多くあるが、総括的には、段階的な計画を踏まえながら本来進めるべきところを、短期間の内に整備の実現を図ったことに問題点は集約される。相次ぐ計画変更は、多くの関係者にご迷惑をおかけすることとなった。今回の整備でいたらなかった点については、担当者として総括し、来る本格的整備へ向けて引き継いでゆこうと考えている。また、報告でほとんどふれなかった「活用」については、実際の使われ方を注視しながら、利用する側に立って考えてゆきたいと思っている。



図114 見学風景

# 表27 第1期整備の問題点と課題

	計画策定段階	施工上の問題	彩
全体的作業	・整備基本方針の決定が遅れた。 ・整備方針が明確でないまま、個別の整備案件を進めた結果、整備方針が明確でないまま、個別の整備案件を進めた結果、 整備金体の統一性が十分図れず、各整備案件との調整が後追 いになった。 ・基本計画と実施設計が並行して行われたことから、設計完成 が遅れ、全体の工期に少なからず影響を与えた。	・設計作業が遅れた結果、各工事発注が予定より1ヶ月遅れ、その後のスケジュールに影響を与えた。 ・関連業者が下請けも含めて14社におよび、遺跡整備における制約等の周知化にあたって、工程協議を毎週定期的に実施したが、遺漏がままあった。	・調査成果に即して、整備方針を固め段階的なス ケジュール下で基本設計に十分時間をかける必 要がある。 ・施工時には、各工種の施工管理の他に、整備趣 旨を熟知し全体工程を管理する責任者を要す。
展 示 題 宗 銀 宗 歌 宗 歌 宗 歌 宗 歌 宗 歌 を を を を を を を を を を	・基本設計に裏付けられた見積らりではなかったために、予算 算定にあたって遺漏が多く、実施設計見直しを予算の面から 迫られた。 ・今回採用した「片持ち柱」型の柱構造は基礎重量を重くする 必要があり、建物重量の軽減化と矛盾することとなった。 ・展示計画・照明計画との連携をうまく図れなかった。 ・館内の遺構保全のための計画(温湿度・陽射し等)が不十分 だった。 ・建物模型製作計画を含んだ設計を構造の検討の際に行っておれば、違った形の模型設置方法の選択も可能だった。	・発注が遅れ他の整備施工と日程の調整が難しかった。 ・遺構整備工との作業スペースの調整を図るのが難しかった。 た。(全体的な施工日程に関かる問題) ・屋根トラス工での足場確保のために、通常ない遺構養生 作業が加わり、工期を厳しいものにした。 ・展示館建設と遺構整備工の区分が外壁部分で分かれていたが、建物周辺については展示館建設の一環として計画したが、建物周辺については展示館建設の一環として計画し施工すべきだった。	・自然換気であり、建物業材が鉄板であることか ら外気の温度と湿度の変化を直接受けない方法 を、しかるベミデータを館内で得て今後検討す べきである。 ・館内の照明は展示品のために設けたため、晴天 時と最天時の明るさに差がある。一定の明るさ を保つためにも照明方法は十分検討すべきであ る。
翻 张	・展示設計は、通路部分の展示を主な対象としたため、遺構展示部分も含めた全体的な計画が十分線れなかった。 ・展示館電気設備計画に展示照明計画を反映できなかった。 ・コーナーデーマに沿った出土遺物の展示を検討できなかった。 ・木簡等の保存処理を行った遺物の展示環境について検討が不 十分だった。	・外気の自然環流を促進するための腰壁下の通気孔が、展示用壁面によって十分機能しない結果となった。 ・「鴻鱸館の精華」コーナーでの展示品が開館4ヶ月目で盗難にあった。保安策として展示台のガラス高を、28cmから120cmに高くした。 ・見学者の建物模型に対する関心は非常に高いが、補助的な説明が足りないために、「建物を通して高いが、補助的な説明が足りないために、「建物を通して鴻臚館の理解と深める」という方針を満たしていない。	・コンピューターグラフィック等を用いた説明機器による解説を行うなどの展示の充実が今後とも必要である。 ・必要である。 ・自然換気という条件下での展示品、遺構の経年変化に注意する。
建物模型	<ul> <li>・復元対象建物は子房的建物と想定して復元を試みたが、子房 的建物説と回廊説がありその評価については十分論議された とはいえないなかでの復元だった。</li> <li>・建物模型製作設計において、学術的な正確さを期しながら、 わかりやすい展示物として建物をどう見せるのか十分に時間 をかける必要があった。</li> </ul>	・集成材表面の化粧単板が「焼け」による色ムラが生じる可能性がある。また合わせ目が目立つ箇所がある。 ・軒先耳の出具合や、彩色の範囲、部材の大きさ・形態全体のプロポーションなどの設計図で読み切れない部分に ついては、1/20程度の模型で検討してみる必要があった。	・将来の本格的整備に備えて、全容解明のための 調査を引き続いて行うとともに、古建築復元に あたっての基礎な料の集積が必要。 ・建物模型の維持管理は素材表面の色調、単板の ハガレ、ズレ等の経年変化に注意して行く。
	・活用の面で「どう使わせたいか」がはっきりしていなかった。 ・基本設計と実施設計にあたって、設計コンサルタントが実施 設計の経験がなかった。 ・遺構の連続性を損なわないように館外の遺構表示面と館内の 遺構面との比高差を80cmに設定したが、展示館の基礎設計 が先行し、結果として90cmの差が生じた。	<ul> <li>・盛土は、廃土や切り土を一部に使ったが、遠椿保存上はすべて搬入土(真砂土)にすべきだった。</li> <li>・芝の刈方を工夫してステージの違いを明確にすべき。</li> <li>・第1期の柱等は村の浮き防止のために横方向の根伽を付けたが、縦方向で横欠とを防ぐ方が効果があった。</li> <li>・真砂土舗装は予想以上に仕上がりが軟質で、風化が顕著であり、短期間のうちに補修を要すと思われる。</li> <li>・第1期道様の木レンガ舗装の工法には問題があり、採用にあたっては遺構表示にふさわしいかどうかも含めて施工例から十分検討すべきであった。</li> </ul>	・遺構表示にあたっての意図をよりわかりやすく 理解させるためにも、維持管理の方法等を今後 とも検討して行くべきである。 ・文化財担当者と工事担当者が一緒になって、整 備事例の調査や手法、素材の選択等の計画策定 を行うべきである。 ・使用する素材は、サンプルによる決定ではなく、 施工例を実見した後に決定すべきである。



# 鴻臚館跡7

福岡市埋蔵文化財調査報告書

〈487集〉

編集·発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神一丁目8-1

平成8年3月15日

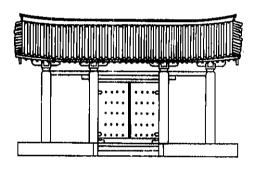
印 刷 福岡印刷株式会社

福岡市博多区東那珂一丁目10-15

# KŌROKAN

7

The Report of Architectural Restoration at KOROKAN Ruins
in Fukuoka



March 1996
THE FUKUOKA CITY BOARD OF EDUCATION
JAPAN